

KEIO

あなたと あたらしい あしたへ — 京王グループ

安全・社会・環境報告書

2020

CSRレポート



— 京王グループスローガン —

あなたと あたらしい あしたへ

京王グループ理念

私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に
日々チャレンジします。



Contents

トップメッセージ	02
経営計画	06
財務・CSRデータハイライト	08
京王グループの事業	10
京王グループのフィールド	12
京王グループの歩み	14
特集1:SDGsへの取り組み	16
特集2:感染症に対する取り組み	18

安全報告

安全報告:全社員一丸での安全最優先の鉄道づくり	22
メッセージ	24
安全方針・安全管理体制	25
安全管理方法	26
安全目標・安全重点施策	28
人材の育成	32
安全文化の構築	34
危機に備えた訓練	36
施設・設備の取り組み	38
日々の保守管理	48
災害などへの備え	50
その他の取り組み	52
グループ会社の安全対策	54

社会性報告

社会性報告:住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり	56
メッセージ	58
お客様の利便性・快適性の向上	60
お客様との対話	64
多世代が生活しやすい沿線づくり	66
地域社会への貢献	68
人材の活用と働きやすい職場づくり	72
株主・投資家・取引先等への取り組み	75

環境報告

環境報告:環境保全の推進	76
メッセージ	78
環境方針	79
環境マネジメント	80
低炭素社会を目指して	82
循環型社会を目指して	86
自然共生社会を目指して	88
環境関連データ	90

企業統治

コーポレート・ガバナンスの充実・強化	92
財務データ	98
CSRアクションプラン	100
ガイドライン対照表/会社概要	102
第三者意見	105

編集方針

本報告書は、多角的な事業を展開する京王グループの活動を安全・社会・環境面から捉え、どのような考えを持って取り組んでいるかを、分かりやすくお伝えするものです。

当社の最大の使命である安全への取り組みをはじめとして、ステークホルダーに対する取り組みが伝わるよう留意しました。

なお、より詳しく、視覚的、タイムリーにお伝えするため、京王ホームページ、京王ニュース、環境・CSRポスター、インバスターズガイドなどでも適切な情報発信に努めています。あわせてご覧ください。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4により公表が義務付けられた「安全報告書」を兼ねているほか、皆様とのコミュニケーションを深めるための重要なツールと位置付けています。

【報告範囲・報告期間】

- 本報告書は、京王電鉄単体（鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門）の2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）の報告です。当該年度以外の事例や京王グループの事例も一部掲載しています。
- 環境負荷データおよび環境会計データは、京王電鉄単体の2017年度～2019年度のデータです。

【参考にした報告ガイドライン】

- 鉄軌道事業者による安全報告書の作成手引き（国土交通省）
- 環境報告ガイドライン（2018年版、環境省）
- ISO26000（国際標準化機構）
- GRIスタンダード（Global Reporting Initiative）

代表取締役社長
社長執行役員

紅村 康



持続可能な企業・社会の 実現を目指します

より良いサービスを追求し、新しい価値を創造することで
社会に貢献していくとともに、CSRへの取り組みを一層強化していきます。
これまで積み上げてきた「信頼」のもと、「信頼のトップブランド」の確立を
全社員一丸となって取り組んでまいります。

京王グループは京王グループ理念として、「つながりあうすべての人」に「誠実」であり、「環境にやさしく」、「信頼のトップブランド」となることを掲げています。

この京王グループ理念を具現化するため、「京王グループ経営ビジョン」「京王グループ行動規範」に基づき、2020年度を目標年度とする「京王グループ中期3ヵ年経営計画」を策定し、“成長の実現”に向けた諸施策を進めてまいりました。2018年度までは順調に推移しましたが、2019年度後半以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、訪日外国人客が急激に減少したほか、外出自粛による国内個人消費の低迷などの極めて大きな影響を受け、今日にいたっております。

当社をはじめ京王グループのすべての運輸事業者は、「輸送の安全性」の確保という、重要な社会的使命を担っており、現在の新型コロナウイルス感染症禍の下でも、この使命を果たし続けていくことで、京王グループの信頼性は構築されるもの、と考えています。

本CSRレポートは、当社とつながりあう様々なステークホルダーに対するひとつのコミュニケーションツールとして、京王グループの事業を安全、社会、環境といった観点から整理を行い、まとめています。



社長による巡視

安全確保こそが最大のサービス

鉄道の安全性向上への取り組みとして、京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業では、事業主体である東京都とともに用地取得を進めたほか、高架化のための準備工事を進めました。

頻発する自然災害への備えについては、鉄道施設の耐震補強工事や大雨・落雷対策工事を引き続き進めました。

また、昨年9月および10月に上陸した台風への対応として、防災行動計画に基づいた計画運休を実施したほか、事前の線路等の巡回・点検結果に基づき復旧用の機材を配備し、早期の運転再開を図りました。

ホームの安全対策としては、2020年5月に飛田給駅でホームドア整備が完了、下北沢駅ではホームドア設置のためのホーム補強工事に着手したほか、仙川駅・分倍河原駅・橋本駅でホーム転落防止固定柵を設置しました。

多世代が暮らしやすい沿線・働きやすい職場づくり

京王グループでは、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」をキーワードに、多世代が暮らしやすいよう、引き続き、沿線価値向上に資する施策を展開しています。



総合防災訓練

昨年6月には企業主導型保育所「京王キッズプラッツ多摩センター」を開設したほか、沿線住民の暮らしに役立つサービスを提供する「京王ほっとネットワーク」では、多摩ニュータウンを中心に実施している食料品等の移動販売について車両を増備し、八王子市内の販売拠点数を増やしました。

そのほか、東京都が実施するスムーズBiz推進期間中に、夕間時間帯の時差通勤を促進することを目的に臨時座席指定列車「京王ライナー 時差Biz号」を運行しました。また、京王プラザホテル多摩内の会員制サテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」にて会員登録なしで手軽に施設を利用できるキャンペーンを展開するなどの取り組みが評価され、東京都から「スムーズBiz推進大賞推進賞」を受賞しました。

本年2月のダイヤ改正では、座席指定列車「京王ライナー」の朝間時間帯の都心方面への運行を増発し、通勤時間帯の快適性向上を図りました。また「テレワーク・デイズ」や「スムーズBiz」など東京都や関係団体が実施する取り組みに参加し、働き方改革を推進しています。

多角的な環境保全活動の推進

省エネルギー化の推進として、鉄道事業における消費電力削減効果に優れたVVVFインバータ制御装置の

継続導入、車両や駅構内、オフィス・店舗などの施設における照明のLED化を進めました。さらに、岩手県宮古市において太陽光発電事業を開始しました。

また、グループ会社では、CO₂や環境負荷物質の排出を抑制するなど地球温暖化防止に貢献する燃料電池バスを導入、昨今、注目されている海洋プラスチックゴミ問題についても、京王プラザホテルなどで紙製ストローの導入などグループ内で取り組みを進めています。今後も電力使用量・CO₂排出量削減を中心に様々な環境に配慮した施策を進めていきます。

着実な経営体制の整備

京王グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目的としたコーポレート・ガバナンスについては、ガバナンス委員会などにおいて、コーポレートガバナンス・コードの主旨を参考としながら、経営戦略やガバナンスのあり方を社外役員の知見も取り入れながら、体制整備を図っています。

本年6月には、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社への移行、執行役員制度の導入、役員報酬制度の改定によりコーポレート・ガバナンス体制のさらなる充実を図っております。



決算説明会

新型コロナウイルス対応

新型コロナウイルス対応としては、2020年1月中旬に社内に対策総本部を立ち上げ、その後4月には危機に迅速に対応するために、業務組織の一部を変更し総務法務部を「総務・危機管理部」と「法務・コンプライアンス部」に再編しました。

鉄道では、電車内や駅構内設備の消毒をはじめ、電車内への抗ウイルス・抗菌効果のあるコーティング剤の噴霧加工などを実施しているほか、従業員に対しても体調管理の徹底、マスクの着用、職場内のアクリル板の設置等、様々な取り組みを行っております。

グループ各社でも、京王電鉄バスグループ・西東京バスでは換気扇による車内換気や適宜車内の消毒を実施、京王プラザホテルでは、客室や宴会場のドアノブ・扉、エレベーター内のボタン、エスカレーターの手すり、各種備品等お客様の触れる機会が多い箇所のアルコール消毒を適宜実施、飛沫感染防止のためにアクリル板の設置などの対策を行っています。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が収束した後の時代における京王グループの持続的な成長に向けて、京王線の連続立体交差事業や新宿駅周辺再開発など、将来を見据えた必要な投資を着実に推進するとともに、各事業セグメントにおいて新たな事業戦略を検討し、新型コロナウイルスの感染拡大を契機として、大きな変化

が起こると想定される消費動向や働き方やライフスタイルに柔軟に対応してまいります。

今後も、社会インフラを担う企業グループとして、感染の拡大防止と事業活動の継続に取り組んでまいります。

持続可能な企業であるために

京王グループは、社会および企業におけるESG（環境・社会・ガバナンス）やSDGs（持続可能な開発目標）への取り組みが高まる中、引き続き、これらを意識して企業価値を向上させることに努めてまいります。

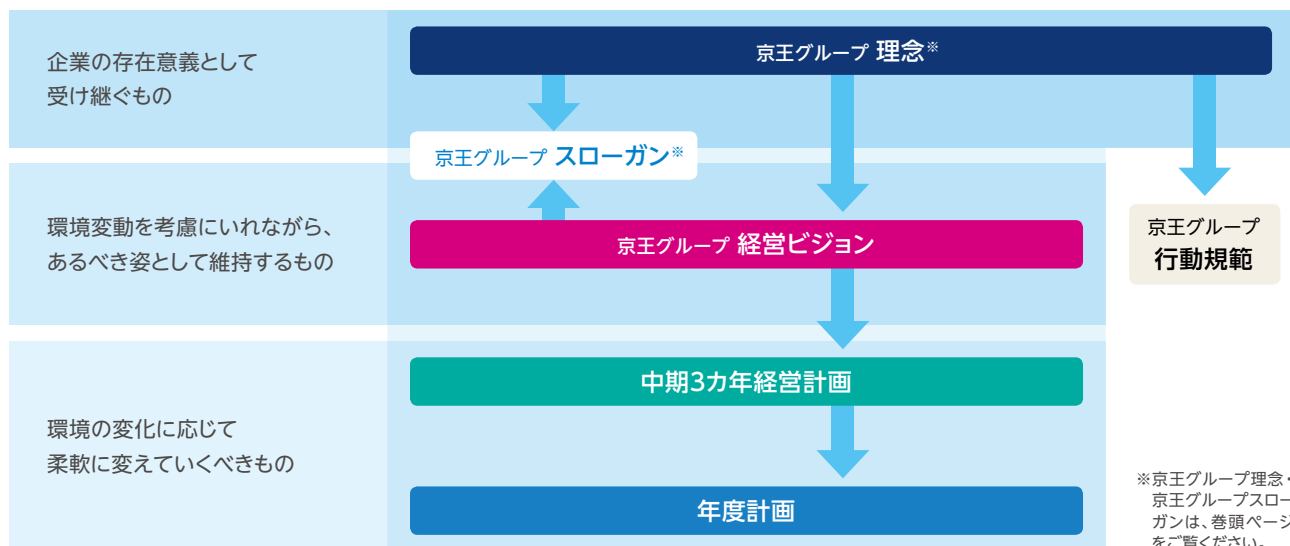
また、ポストコロナに向けて、変化に対応した事業戦略を検討し、その先の2030年代の事業環境でも存在する企業であるために、社会的責任を果たし、京王グループとつながりあうすべての皆様に「安心・安全」を提供することで、「信頼のトップブランド」の確立を目指します。消費動向や働き方、ライフスタイルの変化に柔軟に対応しながら、グループ一丸となってこの難局を乗り越えてまいりますので、今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新型インフルエンザ等対策総本部
（3月19日開催の様子、現在はWeb参加を含み座席間隔を空けています）

企業価値の向上を目指して

京王グループでは、京王グループ理念を具現化し、経営計画につなげるための指針・将来像として「京王グループ経営ビジョン」を制定しています。そして、「京王グループ行動規範」を定め、事業活動を通じて社員一人ひとりが社会の持続的な発展に貢献していくことを目指しています。



京王グループ 経営ビジョン

京王グループは、変化する社会のニーズに対応したサービスを提供し、
安心・便利で生き活きとした沿線づくりに取り組むことで、
信頼され「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」を追い求め続けます。
また、発展し続けるグループへの変革を目指すため、
成長する新たな市場へチャレンジします。

(2003年1月1日制定、2012年4月1日改定)

京王グループ 行動規範

「信頼のトップブランド」になるため、私たちは以下のとおり行動します。

企業活動を通じて社会に貢献します

- ・お客様の幸せな生活に資する商品・サービスを提供します
- ・常に商品・サービスの品質、安全性の向上を追求します
- ・適時適切な情報開示に努めるとともに、お客様の声を事業活動に活かします

法令・社内規程を遵守し、健全・公正な企業活動を行って、企業価値の向上に努めます

- ・全てのステークホルダー（お客様・株主・取引先・社員などの関係者）に対して、相互に適正な利益を確保できるよう互いを尊重します
- ・法令を正しく理解し、法令に則った手続きを行うことで、公的機関等と適切な関係を維持します
- ・反社会的な組織、人物に対しては断固とした姿勢で臨みます

- ・知的財産や情報の取扱いに細心の注意を払います
- ・社員個人の権利を尊重し、社員同士が信頼しあえる風通しの良い職場づくりをします

社会の一員としての責任を果たします

- ・すべての人にやさしい環境づくりを進めます
- ・リサイクル、省エネなど環境保護に積極的に取り組みます
- ・社会に貢献し、社会と共に発展するための活動に取り組みます
- ・社会の変化に対応し、よき企業市民であるためのチャレンジをしつづけます

(2004年4月1日制定)

中期3カ年経営計画

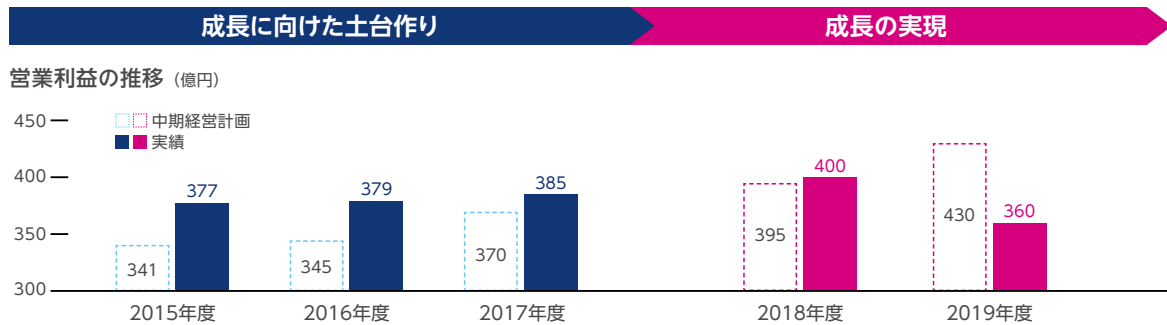
京王グループでは、2015年度からの6年間で3年ずつに区切り、2020年度を目標年度としてあるべき姿を描いたうえで、前半の2015年度～2017年度については戦略投資をはじめとした「成長に向けた土台作り」を進めてきました。後半の2018年度～2020年度については、これまでにまいた種から成長の芽を育て、収穫するため、戦略投資案件の収益化および事業の選択と集中を推進し、「成長の実現」を完遂すべく、2018年度までは順調に推移してきました。

2018年度～2019年度の主な取り組み

- **京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進**
用地取得ならびに高架化のための準備工事の推進
- **ラグビーワールドカップ2019™に向けた取り組み**
飛田給駅でのホームドアの使用を開始(2、3番線)
安全・防犯対策の強化等を目的に踏切監視カメラの増設や、京王線全編成に前方監視カメラを設置
- **京王線ダイヤ改正の実施**
座席指定列車「京王ライナー」の平日の朝間および夕夜間時間帯の運行を拡大
- **ホテル事業の拡大**
京王プレミアホテルの開業(京都、札幌)
THE SHARE HOTELS 京都、広島、東京の開業および竣工
高山グリーンホテル新館「桜凜閣」を竣工

新型コロナウイルス感染拡大と中期経営計画の進捗

2019年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、訪日外国人旅行者が急激に減少したほか、外出自粛により国内個人消費も低迷するなど、当社グループの事業活動にも大きな影響を受けることとなりました。その結果、営業収益は、4,336億円、営業利益は360億円となりました。



2020年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により国内個人消費が大幅に減少するなど、経済情勢は当社グループにとって極めて厳しい状況となっておりますが、引き続き、国内外の感染症の動向や経済環境の変動等を注視し、その影響を見極めてまいります。

持続的な成長に向けて

ポストコロナに向けて、変化に対応した事業戦略を検討

- ポストコロナの「ニューノーマル」に対応したサービススタンダードの検討

中長期課題の着実な推進

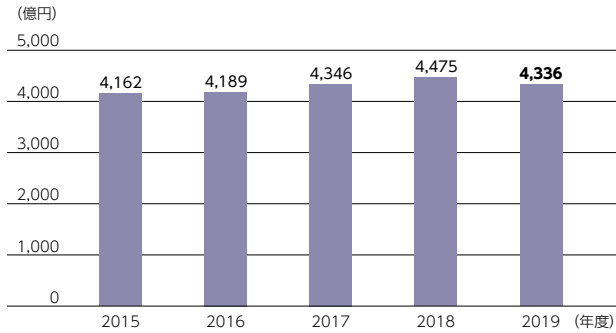
- 将来を見据えた必要な投資(京王線連続立体交差事業、新宿駅周辺再開発事業)
- コーポレート・ガバナンス体制の充実

消費動向や働き方、ライフスタイルの変化に柔軟に対応しながら、グループ一丸となって難局を乗り越え、京王グループの持続的な成長を目指す

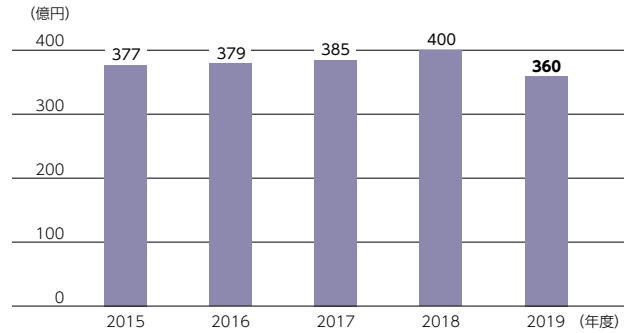
財務・CSRデータハイライト

財務関連データ(連結)

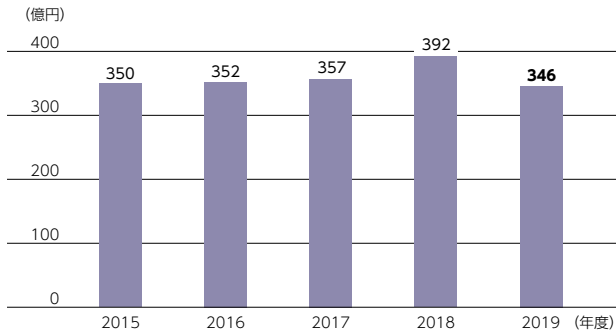
● 営業収益



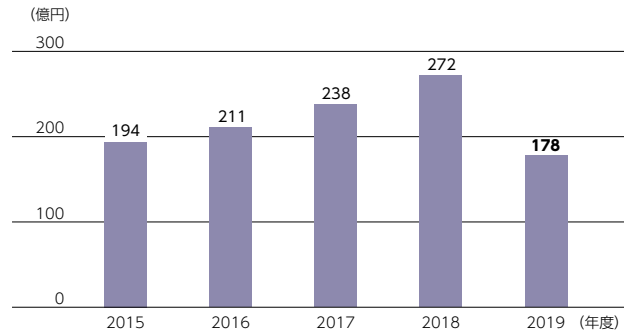
● 営業利益



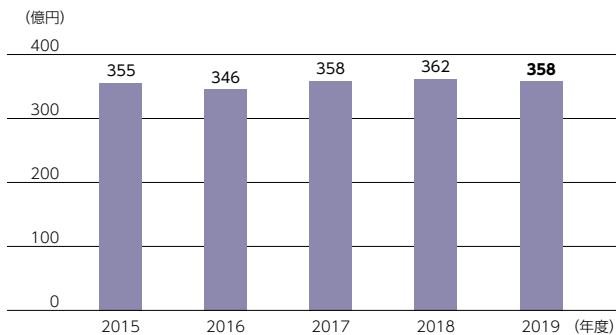
● 経常利益



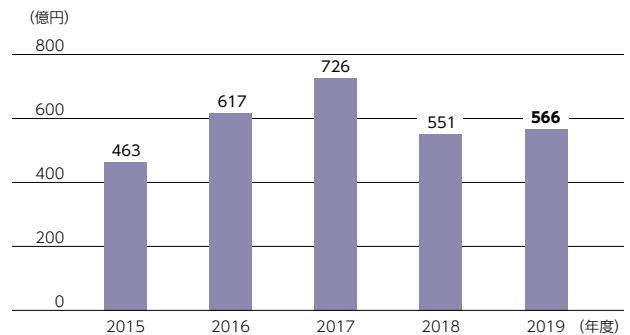
● 親会社株主に帰属する当期純利益



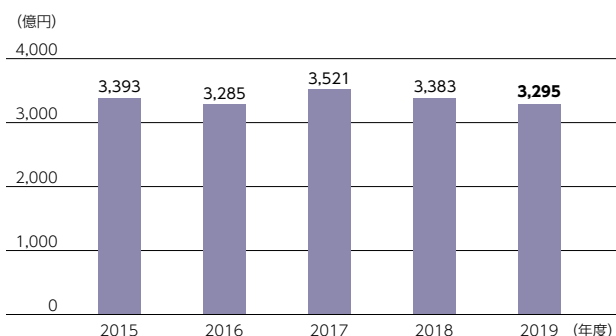
● 減価償却費



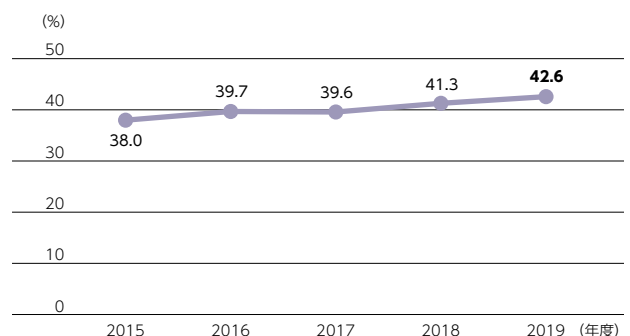
● 資本的支出



● 有利子負債



● 自己資本比率



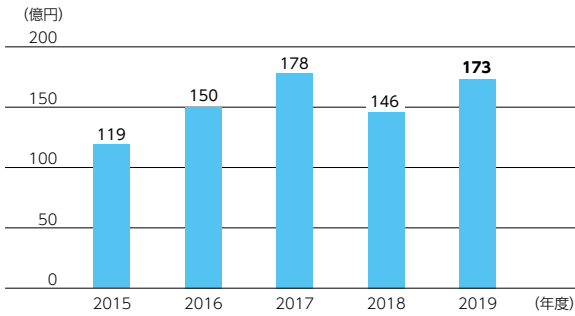
※有利子負債は、借入金+社債+鉄道・運輸機構未払金により算出しています。

CSRデータ



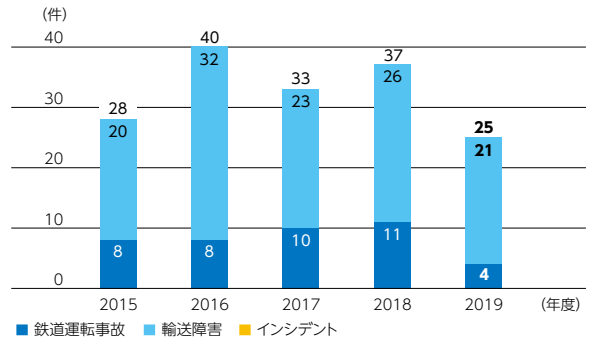
安全に関する投資額

173億円



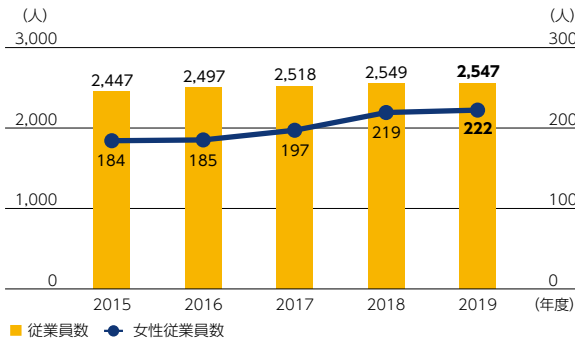
鉄道運転事故・輸送障害発生件数

25件



従業員数／女性従業員数

2,547人／222人

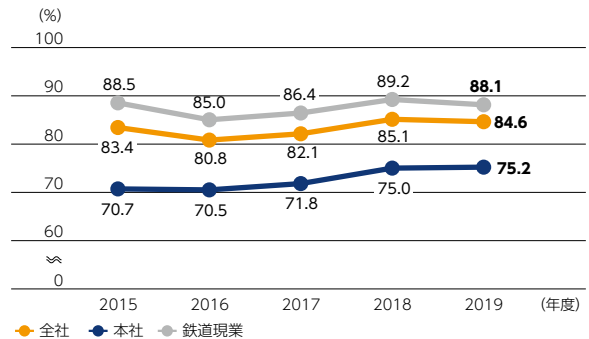


※グループ会社へ外出向している女性正社員は除いています。



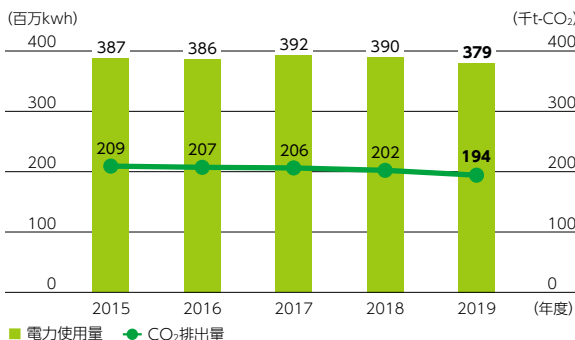
年休取得率

84.6%



電力使用量／CO₂排出量

379百万kWh／194千t-CO₂

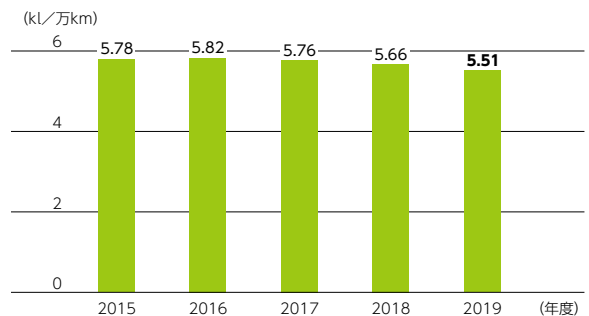


※省エネ法、東京都環境確保条例等に基づいて集計しています。




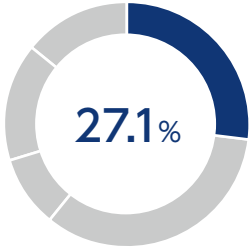

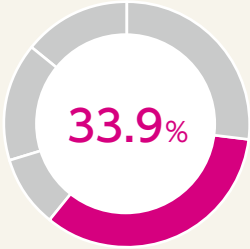

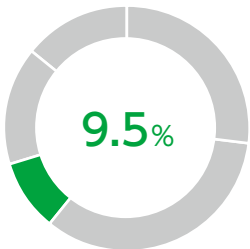

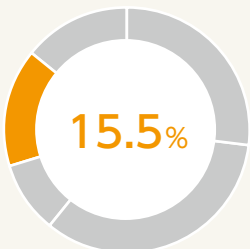

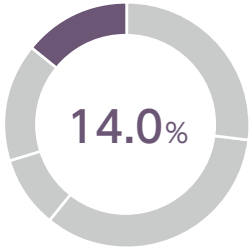
鉄道のエネルギー使用量原単位

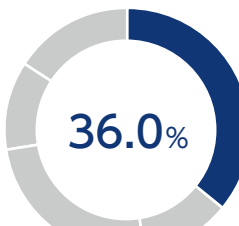
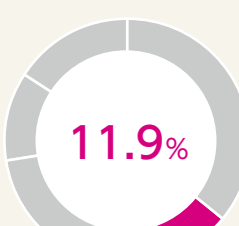
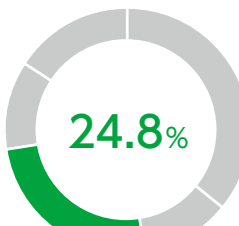
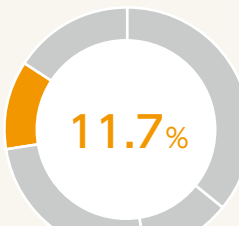
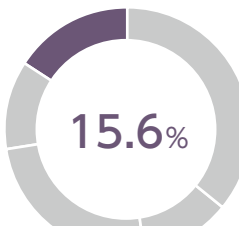
5.51 kl/万km



※集計対象は、電車の運行、駅および現業事務所です。

京王グループの事業

	事業内容	営業収益／構成比
運輸業	 <p>基幹事業である鉄道事業の他にバス、タクシー、貨物輸送などさまざまな運輸事業を行っています。安心・安全でお客様から信頼される交通サービスの提供に努め、運輸事業を通じて地域社会の発展に貢献します。</p>	 <p>27.1%</p> <p>1,296億円</p>
流通業	 <p>多種多様な事業を展開し、時代に適した商品とおお客様の満足を第一に考えたサービスで、京王沿線を中心としたお客様の毎日の暮らしをサポートし、より豊かな生活への提案を行っています。</p>	 <p>33.9%</p> <p>1,621億円</p>
不動産業	 <p>土地・建物の売買やリノベーション、駐車場の運営などを通じてお客様のさまざまなニーズに応え、質の高い商品とサービスを提供しています。</p>	 <p>9.5%</p> <p>453億円</p>
レジャー・サービス業	 <p>お客様に心の豊かさとうるおいある生活ステージを提供するために、お客様とのコミュニケーションを大切にしながら上質で安心できるサービスを展開しています。</p>	 <p>15.5%</p> <p>740億円</p>
その他業	 <p>「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」の実現に向けて、幅広い事業を手掛けています。京王グループの総合力を基盤にして、きめ細かなサービスや長年培った高い技術力を提供しています。</p>	 <p>14.0%</p> <p>670億円</p>

営業利益／構成比	2020年3月期の事業概況	主要な会社名
 <p>36.0%</p> <p>133億円</p>	<p>鉄道事業では、雇用情勢の改善や沿線人口の増加に加え、座席指定料金収入の増加などがあったものの、新型コロナウイルスの感染拡大の影響などにより、旅客運輸収入が1.9%減、鉄道事業の営業収益合計が1.5%減となりました。また、バス事業においても、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により路線・高速などで減収となりました。これらの結果、営業収益は1,296億円(前期比1.9%減)、営業利益は133億円(前期比9.3%減)となりました。</p>	<p>京王電鉄(鉄道)、京王電鉄バスグループ、西東京バス、京王自動車グループ、京王運輸</p>
 <p>11.9%</p> <p>44億円</p>	<p>百貨店業では、天候不順や消費税率引き上げの影響に加え、新型コロナウイルスの感染拡大による訪日外国人旅行者の急激な減少や外出自粛、営業時間短縮等による来店客数の減少などにより減収となりました。一方、ストア業では、前年度に開業した店舗が寄与したほか、衛生用品や食料品の売上増などがあり増収となりました。これらの結果、営業収益は1,621億円(前期比2.5%減)、営業利益は44億円(前期比14.4%減)となりました。</p>	<p>京王電鉄(ショッピングセンター)、京王百貨店、京王ストア、京王書籍販売、京王バスポートクラブ、京王アートマン、京王食品、京王グリーンサービス</p>
 <p>24.8%</p> <p>91億円</p>	<p>不動産賃貸業では、前年度に取得した物件が寄与したことなどにより増収となりました。一方、不動産販売業では、リノベーション物件や投資用マンションの売上減などにより減収となりました。これらの結果、営業収益は453億円(前期比9.3%減)、営業利益は91億円(前期比2.5%減)となりました。</p>	<p>京王電鉄(開発)、京王不動産、京王地下駐車場、リビタ、京王重機整備(賃貸)</p>
 <p>11.7%</p> <p>43億円</p>	<p>ホテル業では、前年度に開業した「京王プレミアホテル 京都烏丸五条」、2019年5月に開業した「京王プレミアホテル 札幌」が寄与したものの、新型コロナウイルスの感染拡大により、宿泊および料飲・宴会の需要が急速に減退したことなどにより減収となりました。また、旅行業においても、取扱高の減少などにより減収となりました。これらの結果、営業収益は740億円(前期比7.9%減)、営業利益は43億円(前期比37.8%減)となりました。</p>	<p>京王プラザホテル、京王プラザホテル札幌、京王プレッソイン、京王プレミアホテル京都、京王プレミアホテル札幌、京王観光、京王エージェンシー、京王レクリエーション、レストラン京王</p>
 <p>15.6%</p> <p>57億円</p>	<p>ビル総合管理業や車両整備業では、受注増などにより増収となりました。これらの結果、営業収益は670億円(前期比2.8%増)、営業利益は57億円(前期比9.7%増)となりました。</p>	<p>京王設備サービス、京王重機整備(車両整備)、東京特殊車体、京王建設、京王ITソリューションズ、京王アカウントティング、京王ビジネスサポート、京王ユース・プラザ、京王シンシアスタッフ、京王子育てサポート、京王ウェルシステージ、京王フェアウェルサポート</p>

※記載の金額には、セグメント間取引を含みます。
 ※構成比率は、セグメント間取引を含む営業収益、営業利益に対する比率です。

京王グループの沿線価値向上を目指した最近の取り組み

京王グループは、変化する社会のニーズに対応したサービスを提供し、安心・便利で生き活きとした沿線づくりに取り組むことで、企業価値の向上を目指しています。

近年では、高尾山口駅のリニューアル、「京王高尾山温泉 / 極楽湯」の開業、「京王あそびの森 HUGHUG〈ハグハグ〉」開業など、高尾山、多摩動物公園エリアの魅力向上を図ったほか、笹塚駅において商業施設やオフィス、住居などを備えた複合ビル「メルクマール京王笹塚」の開業や、調布駅付近の拠点開発、日常のお買い物に不便なお客を対象とした移動販売の実施など、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」の実現に取り組んでいます。

沿線の生活支援サービス事業

京王線・井の頭線沿線全域で展開するサービスメニューとして、「家事代行サービス」「住まいのサポートサービス」「空き家巡回サービス」等を提供しています。一部エリアでは、生鮮品・日用品等の移動販売を実施しています。

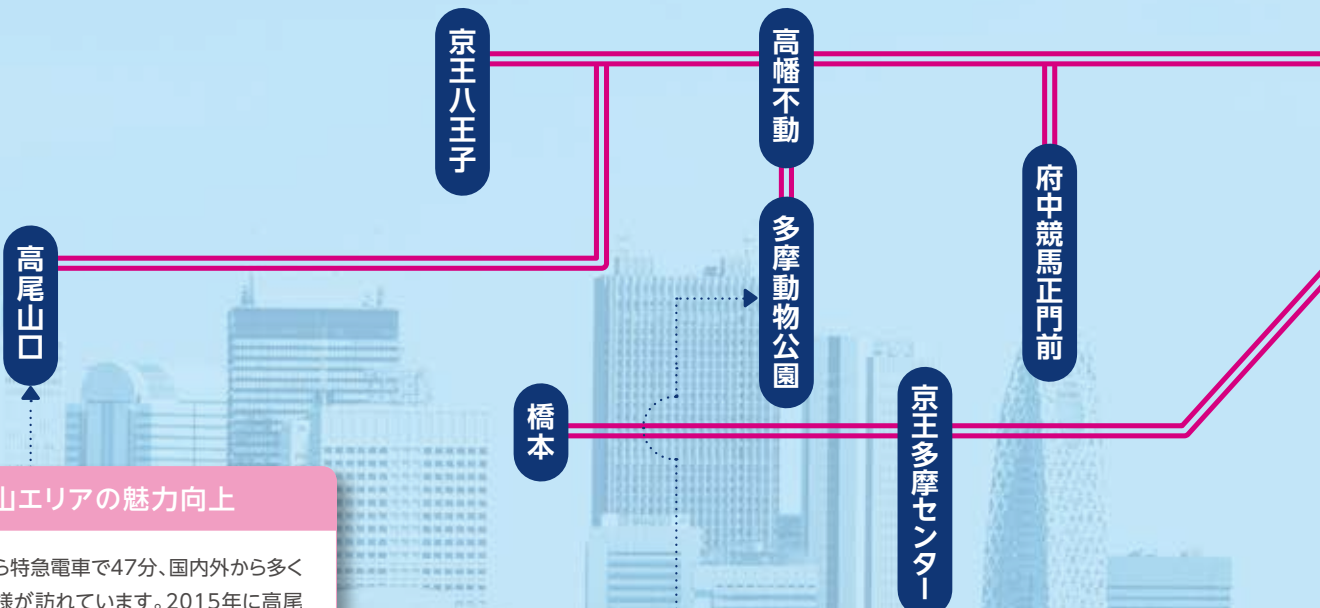


キラリナ京王吉祥寺



キラリナ京王吉祥寺

「Our Favorite Space ～ 私たちのお気に入り～」を新コンセプトに2019年にリニューアルし、セレクトショップをはじめとしたファッション、コスメ、雑貨、グルメ等、バラエティに富んだショップ構成の商業施設です。



高尾山エリアの魅力向上

新宿から特急電車で47分、国内外から多くのお客様が訪れています。2015年に高尾山口駅のリニューアル、「京王高尾山温泉 / 極楽湯」を開業させるなど、高尾山エリアの魅力向上を図っています。



高尾山口駅

キッズパークたまどう

2018年に「京王あそびの森 HUGHUG〈ハグハグ〉」を開業し、「京王れーるランド」「多摩動物公園」を含む多摩動物公園エリアを「キッズパークたまどう」と名付け、親子で1日遊べて親しみを持っていただけるエリアとして活性化を目指しています。



京王あそびの森 HUGHUG〈ハグハグ〉

沿線外への事業拡大

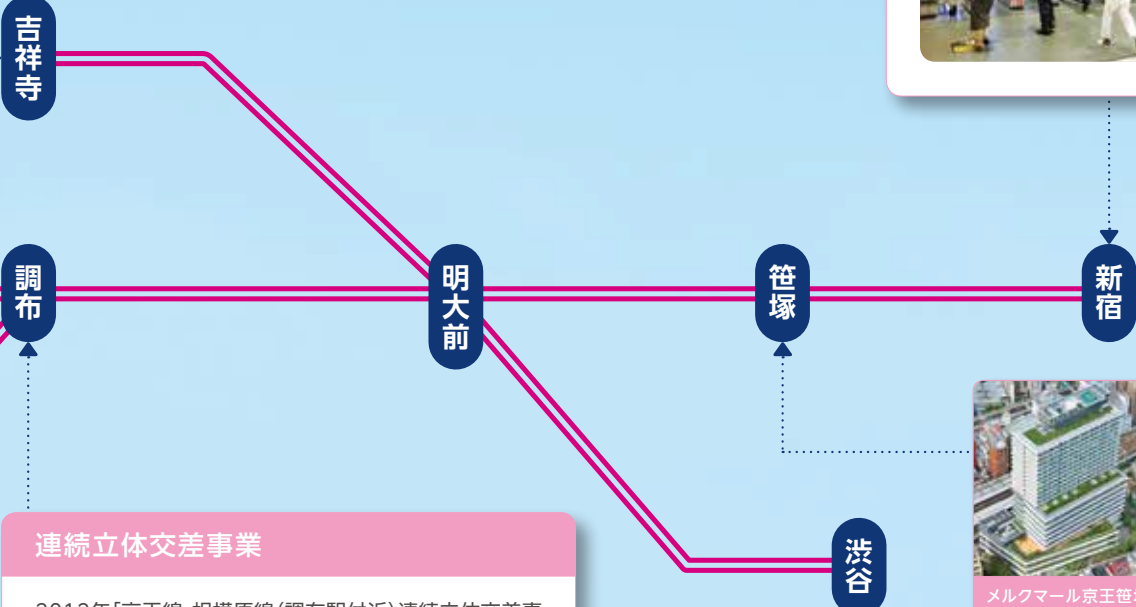
沿線外でも積極的に事業を展開しています。京王プレッソインを都心部で11店舗展開しているほか、京王プレミアホテルでは2018年に京都烏丸、2019年には札幌で開業しました。また、2020年4月に高山グリーンホテルを子会社化し、6月には新館の「桜凜閣」をオープンしました。リビタでは中古住宅・賃貸マンションなどの既存建物を再生して販売するリノベーション事業やシェア型複合ホテルの運営をしています。



高山グリーンホテル(左の建物が新館「桜凜閣」)

京王グループの顔:新宿

新宿駅の乗降客数は1日あたり平均79万人であり、日本でも有数のターミナル駅です。京王プラザホテルをはじめ、京王百貨店を構えるなど、新宿駅は京王グループの顔となっています。改札内上部には新宿駅最大級の大きさであるLED使用のデジタルサイネージを設置し、2020年6月から広告放映を開始しています。



メルクマール京王笹塚

連続立体交差事業

2012年「京王線・相模原線(調布駅付近)連続立体交差事業」の完了によって鉄道が地下化されたことで、踏切事故が無くなり、安全性の向上が図られました。また、街の南北が地上で結ばれることで、街の様子にも変化が生まれ、その変化する調布の新たなランドマークとして「トリエ京王調布」が2017年9月に開業しました。また、現在は京王線(笹塚駅～仙川駅間)において、連続立体交差事業を進めています。



立体交差化した国領駅付近



トリエ京王調布

子育て支援事業

京王子育てサポートが運営する保育所「京王キッズプラッツ」を9カ所開設しています。「京王キッズプラッツ」は、家庭的な雰囲気の中、お子様一人ひとりの発達や気持ちに寄り添い、豊かな成長をサポートします。そのほか、事業所内保育所「サクラさーくる」や子育て支援施設「子育てステーション烏山」を運営しています。



京王キッズプラッツ

沿線の魅力的な街づくりにチャレンジし 暮らしを支え続けてきた100余年

京王電気軌道開業 1913年～

鉄道とバスを走らせ 人々の往來を支える

京王線は新宿と八王子を結ぶ路線として計画され、1913年に笹塚～調布間が開業しました。

未開業区間の新宿～笹塚間などで、東京で最初のバスの営業も開始しました。1928年には新宿から東八王子まで電車が直通となり、1934年には渋谷～吉祥寺間が全線開業。当時まだ開発が進んでいなかった西東京エリアに鉄道とバスを走らせ、公共交通機関として人々の往來を支えました。

- 1910 京王電気軌道株式会社が発足
- 1913 笹塚～調布間の電車開通
- 1934 帝都電鉄株式会社により渋谷～吉祥寺が全通



東京で最初のバス営業



1914年当時の調布駅

京王帝都電鉄の時代 1948年～

事業を多角化し 沿線の街づくりを本格化

戦後、1948年に京王帝都電鉄が発足。戦後復興と高度経済成長期の中で、沿線の街づくりに着手。不動産、流通など事業の多角化も進めました。

1964年には「京王百貨店新宿店」が、1971年には当時の超高層ホテル第1号として「京王プラザホテル」がオープンしました。また、1986年には、推進していた聖蹟桜ヶ丘駅周辺総合開発において「京王聖蹟桜ヶ丘SC」がオープンするなど、魅力ある沿線づくりを進めました。

- 1964 京王百貨店新宿店がオープン
- 1971 京王プラザホテルがオープン
- 1986 京王聖蹟桜ヶ丘SCがオープン



1964年の京王百貨店新宿店



1971年の京王プラザホテル



1986年の京王聖蹟桜ヶ丘SC

鉄道事業と路線バス事業から始まり、沿線に魅力的な街をつくり、人々の暮らしを支えてきた100余年。「進取の気性」に代表される京王の精神は、歴史の中で脈々と継承されています。大きな社会の変革期にあっても、この「進取の気性」こそが、未来を切り拓く原動力となり、成長の礎になることは、京王グループの歴史が証明しています。

京王電鉄に社名変更 1998年～

幅広い世代に住みやすい街へ 豊かな暮らしづくり

1998年に社名を京王電鉄に変更。2001年に関東私鉄で初めて女性専用車を導入したほか、2012年には調布駅付近地下化切り替えを実施し、鉄道により分断されていた市街地の一体化を図りました。また、2002年には新規事業として、現在11店舗約2,800室で営業している京王プレッソインの1号店が、東銀座にオープンしました。

2002 京王プレッソイン1号店 東銀座店がオープン

2005 京王線で女性専用車を平日朝・夕の通勤時間帯へ拡大

2012 調布駅付近地下化切り替え工事完了



女性専用車を通勤時間帯へ拡大



調布駅付近地下化切り替え工事



京王プレッソイン東銀座
(第1号店)

成長の実現に向けて 2015年～

未来を見据え 企業価値のさらなる向上へ

2015年度からの6年間を3年ずつに区切り、前半3カ年において、戦略投資をはじめとした“成長に向けた土台作り”を進め、後半3カ年において、これまでにまいた種から成長の芽を育て、収穫するため、戦略投資案件の収益化および事業の選択と集中を推進しています。これからも事業環境の変化に対応し、持続的な成長と継続的な企業価値の向上にチャレンジしていきます。

2017 トリエ京王調布がオープン

2018 座席指定列車 京王ライナー運行開始

2019 京王プレミアホテル 札幌がオープン



トリエ京王調布



座席指定列車
京王ライナー運行開始



京王プレミアホテル 札幌

住んでももらえる、選んでももらえる 街づくりの実現に向けて

京王グループでは、SDGs(持続可能な開発目標)の考え方を取り入れ、京王グループ理念のもと、事業活動を通じてお客様のより良い暮らしを創造していくことにより、社会課題の解決や、地域の発展と幸せな暮らしの実現に貢献していくことを目指しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

SDGs(Sustainable Development Goals)は、持続可能な世界を実現するために、2015年に国連で採択された2030年に向けた開発目標です。

京王グループのSDGsトピックス

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



11 住み続けられる
まちづくりを



「安全性の向上」によりお客様に「安心」を

最高のサービスである安全性の確保と輸送サービスのさらなる快適性の追求に向けてこれからも推進し続けていきます。

京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業

事業主体の東京都と協力し進めている、京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の完成により、25カ所の踏切が廃止されるとともに、鉄道により分断されていた地域の一体化が図られます。また、都市計画道路や駅前広場などが整備され、鉄道とバスなど交通機関相互の乗り継ぎ利便性が向上するなど、地域社会の発展に貢献していきます。



明大前駅の外観デザイン


ホームドアの設置

お客様のホームからの転落やホーム上での列車との接触事故を未然に防止するため、ホームドアを設置しています。2019年度まで、7駅に設置し、今後は明大前駅、下北沢駅においても整備を計画しています。



飛田給駅に設置されたホームドア

8 働きがいも
経済成長も



仕事・子育ての支援

保育事業やサテライトオフィス運営により、子育てしやすい環境づくりや職住近接の実現を推進しています。

京王子育てサポートが運営する保育所「京王キッズプラッツ」を沿線に9カ所開設し、仕事と子育ての両立を支援しています。また、京王プラザホテル多摩2階に会員制サテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」を開業し、職住近接の実現、働き方改革を推進し、多様な方々にご利用いただいています。



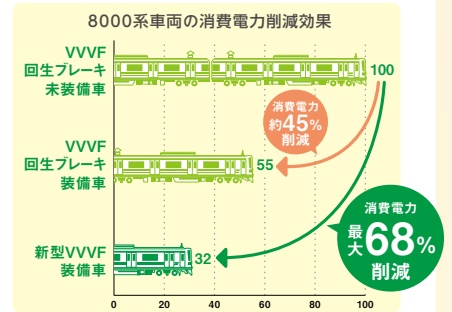
7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



環境にやさしい鉄道を目指して

鉄道事業は1年を通じて多くの電力を消費することから、省エネルギー化を推進しCO₂排出量の抑制に取り組んでいます。

電車の加速力や速度などに応じて電圧や周波数を変化させながらモーターを効率良く動かす「VVVFインバータ制御装置」を導入しています。2012年には京王線・井の頭線全営業車両のVVVFインバータ制御化を大手民鉄で初めて完了しました。2015年から、さらに消費電力削減効果に優れたVVVFインバータ制御装置への更新を進めています。



※横軸は未装備車の使用電力量を100とした場合の数値

12 つくる責任
つかう責任



限りある資源の有効活用

省エネやCO₂排出の抑制、省廃棄物など地球環境へ配慮するとともに、限りある資源の有効活用に取り組めます。

既存建物を再生し、魅力ある住宅を供給するリビタのリノベーション事業は、限られた資源を有効に使い、CO₂排出を抑制する環境にやさしい手法です。2019年9月にオープンした「KIRO 広島 by THE SHARE HOTELS」は、既存物件に残っていた屋内プールを活用しバーラウンジやシェアキッチンなど、地域住民と観光客が交流できる、街に開かれたシェアスペースとしています。



KIRO 広島 by THE SHARE HOTELS

13 気候変動に
具体的な対策を



気候変動への対応

現在生じている、または将来懸念される気候変動の影響に備えてリスクを回避・軽減し、事業の継続性を高めています。

自然災害に早期に対応するため、沿線に地震計、風速計、雨量計、水位計を設置しており、運輸指令所をはじめとする各鉄道現業施設において、24時間体制で監視しています。

また、大雨などによる当社施設の被害を軽減すべく、高尾線では土砂崩壊対策として線路脇斜面の改修工事を継続的に進めています。



法面改修(北野駅～京王片倉駅間)

新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

社会インフラを担う企業グループとしての使命を果たすため、緊急事態宣言が発令される中においても、お客様の日常生活を支えるべく、鉄道事業では、お客様がより安心して電車をご利用いただけるよう感染の拡大防止に取り組みながら、運行の確保に努めました。また、グループにおいては、京王電鉄バスグループや、沿線の皆様の生活に欠かせないストア事業などにおいて営業活動の継続に取り組みました。

京王電鉄における取り組み

▶▶ 京王線・井の頭線の安心・快適なご乗車に向けた取り組み

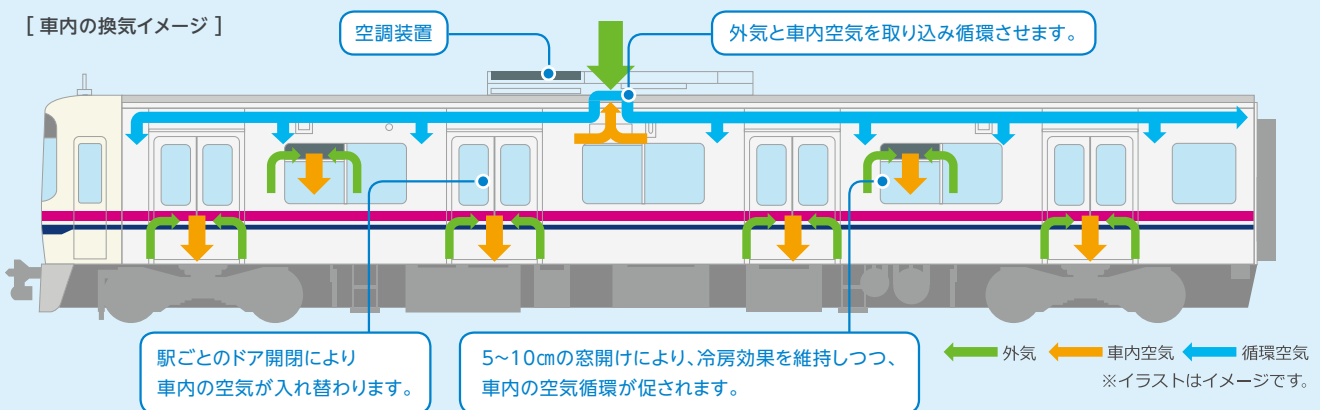
京王電鉄では、新型コロナウイルス感染症対策として様々な取り組みを実施し、お客様がより安心して電車を利用できる環境の整備に努めています。今後も、国土交通省、厚生労働省ならびに東京都からの要請や、「鉄軌道事業における新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」に基づき、取り組みを実施・推進してまいります。

窓開けによる車内換気と外気を取り入れる空調の使用

ドア開閉と一部の窓開けにより換気を促進しています。

また、冷房運転時に外気を取り込む空調の使用で、車内の空気は5～7分程度で入れ替わります。

[車内の換気イメージ]



京王線・井の頭線の全車両に抗ウイルス・抗菌加工を実施

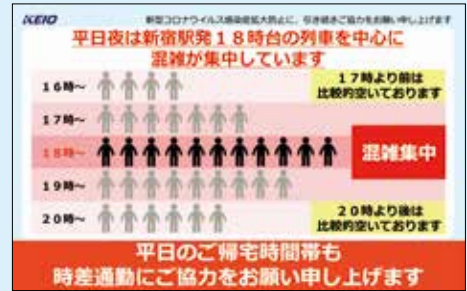
お客様により安心して電車をご利用いただくため、京王線・井の頭線の全車両内(873両)のつり革、手すり、座席、ガラス面、壁面など車両全般に対して、抗ウイルス・抗菌効果のあるコーティング剤の噴霧加工を2020年7月から順次、実施しています。



混雑情報の提供と座席指定列車「京王ライナー」の増発

「密集」「密接」を避け、空いている時間帯へのご乗車を積極的に推奨するため、当社ホームページ「お知らせ」欄にて、ラッシュ時間帯のご利用状況を提供していきます。

また、2020年6月からは緊急事態宣言解除後の状況を踏まえ、平日朝間の京王八王子発新宿行き京王ライナーを2本、橋本発新宿行き京王ライナーを1本増発しています。



中吊り広告によるオフピーク乗車のお願い

その他の
取り組み



駅構内設備の消毒



全駅の窓口
ビニールカーテンを設置



時差通勤等のご協力の呼びかけ
感染予防に向けたお客様へのお願い

- 手指消毒液の設置(新宿駅・渋谷駅)
- 駅待合室のドアを当日の気温に応じて開放
- 各駅のトイレに手洗い石鹸を設置
- 各駅のトイレのハンドドライヤー使用中止

当社従業員の感染防止の取り組み

- 体調管理の徹底
- マスクの着用、職場内のアクリル板設置等
- 職場の清掃・換気や、オゾン脱臭機等による消毒
- 3密となる業務の制限



職場内に設置されたアクリル板

京王グループにおける取り組み

▶▶ 京王電鉄バスグループ ～高速バスの対応～

京王の高速バスでは安全・安心な車内環境をつくるため、車内でのマスク着用や乗車時の手指の消毒をお客様にご協力いただいております。

また、高速バスの空調装置は、外気導入モードに設定することで概ね5分で車内の空気が入れ替わります。



▶▶ 京王自動車 ～タクシー・ハイヤー・バスの対応～

乗務員

出勤時に体温測定を行い、点呼で健康状態の確認を徹底し、体調に異変がある場合は乗務しないようにしているほか、手洗い・うがい・アルコール消毒を徹底し感染防止に努めています。

車両

運転席と座席の間にビニールカーテン等を設置、車内の清掃や消毒を適宜実施しているほか、エアコンによる外気の導入や窓を開けての換気を行っています。



▶▶ 京王ストア

お客様が安心してお買物をしていただくために、店舗入口にアルコール消毒液を設置し、レジ台や作荷台・買い物カートの取手などのアルコール消毒を行っています。

また、レジ従業員はマスク・ゴム手袋を着用し、レジカウンターに透明ビニールシートを設置して飛沫感染防止に努めています。

お客様がレジにお並びいただく際は、「3密」を避けるため床にテープで目印を貼付し、店内放送を通じて感染防止のご協力をお願いしています。



▶▶ 京王プラザホテル

消毒・清掃の強化

客室や宴会場のドアノブ・扉、レストランの卓上調味料、エレベーター内のボタン、化粧室の扉、エスカレーターの手すり、各種備品等お客様の触れる機会の多い箇所のアルコール消毒を適宜実施しております。



飛沫感染防止

飛沫感染を防止するためにフロントカウンターやレストラン店舗キャッシャー等にアクリルパネルを設置しております。



宿泊

ご宿泊のお客様にはチェックイン時に、健康状態に関する調査票への記入のお願いと、非接触型体温計にて検温を実施しております。フロント前では距離をとってお並びいただくよう表示しているほか、エレベーター内での密集を避けるため、一度に5名様までのご利用に制限させていただいております。

社会環境の変化を踏まえた新たなサービス

京王プラザホテルでは、専用エレベーターによるご案内や高濃度オゾンガス除染装置、低濃度オゾン脱臭器を稼働させ、徹底した換気対策を行うなど感染対策を行った上で安心してフレンチフルコースをお楽しみいただける『シェフズ・テーブルプラン KIREI』の予約販売を開始しました。

また、京王自動車においては、飲食店と連携した京王タクシーお持ち帰り弁当宅配サービスを開始したほか、期間限定で青梅市内のお客様を対象に、病院などへの付き添いや、買い物代行などのサービスを行う「京王すまいるサポートタクシー」を開始しました。その他、レストラン京王においては、自宅で食事をとる方が増えたことから、カレーショップC&Cでテイクアウト商品の販売を強化するなど、京王グループ各社においても、社会環境を踏まえた新たなサービスに取り組んでいます。





安全報告

全社員一丸での 安全最優先の鉄道づくり

鉄道の安全性向上への取り組みとして、京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業、ホーム安全対策、激甚化する自然災害や施設の老朽化対策などを着実に進めているほか、安全意識の高い鉄道従事員の育成を行っています。「日本一安全でサービスの良い鉄道」の実現に向けて、引き続きお客様目線での安全施策を本社・現場が一体となって推進していきます。

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を





CONTENTS

安全管理体制・方法等	P.25
人材の育成	P.32
安全文化の構築	P.34
危機に備えた訓練	P.36
施設・設備の取り組み	P.38
日々の保守管理	P.48
災害などへの備え	P.50
その他の取り組み	P.52

さらなる安全性の向上を目指して 日々努力してまいります



取締役 常務執行役員
鉄道事業本部長
(安全統括管理者)

寺田 雄一郎

列車の運行などを管理する
運輸指令所

日頃から、京王線・井の頭線をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

当社では、皆様から信頼され、愛される鉄道であるために、「『安全』は最大の使命であり、最高のサービスである」ことを常に意識し、「全社員が一丸となり継続的改善に取り組み、安全最優先の鉄道を創る」ことを最大の命題として、日々の業務に取り組んでおります。

笹塚駅～仙川駅間の連続立体交差事業については、引き続き事業主体である東京都とともに進めているほか、ホームドアや転落防止固定柵の新設、踏切の障害物検知装置の増強など、各種安全対策についても、着実に推進しております。

災害対策としては、高架橋柱や盛土部などの耐震補強工事を進めたほか、台風予測に基づくタイムラインの

制定、早期運転再開に向けた点検手法の確立など、激甚化する自然災害への対策を着実に実施しました。また、新型コロナウイルス感染症に対しては、引き続き、お客様・従業員の感染防止対策を徹底し、鉄道の運行継続に努めてまいります。

事故の未然防止に向けては、「安全に関する基本方針」「安全に係る社員の行動規範」の徹底を図るとともに、現場と本社が一体となって、安全意識のさらなる高揚を目指してまいります。

これからも、「有責事故ゼロと運転事故・輸送障害発生件数の前年比削減」を安全目標と定め、全てにおいてお客様の視点に立ち、安全確保を第一に行動してまいります。



鉄道事業本部長による職場巡視



鉄道事業本部長による列車添乗

安全方針・安全管理体制

「安全に関する基本方針」「安全に係る社員の行動規範」に基づき、経営トップをはじめ、鉄道部門以外の部長も交えた安全管理体制を構築し、安全最優先の鉄道づくりに取り組んでいます。

安全方針


当社では、安全に関する基本方針とそれに基づく社員の行動規範を次のように定めています。本社およびすべての現場に掲出しているほか、カード形式にしたものを全社員に配布しています。

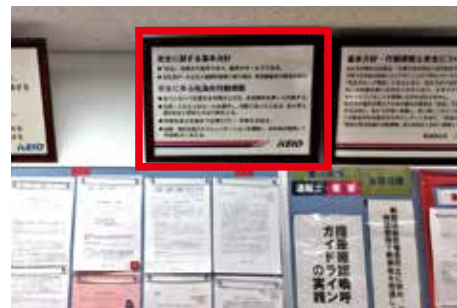
安全に関する基本方針

- 「安全」は最大の使命であり、最高のサービスである。
- 全社員が一丸となり継続的改善に取り組み、安全最優先の鉄道を創る。

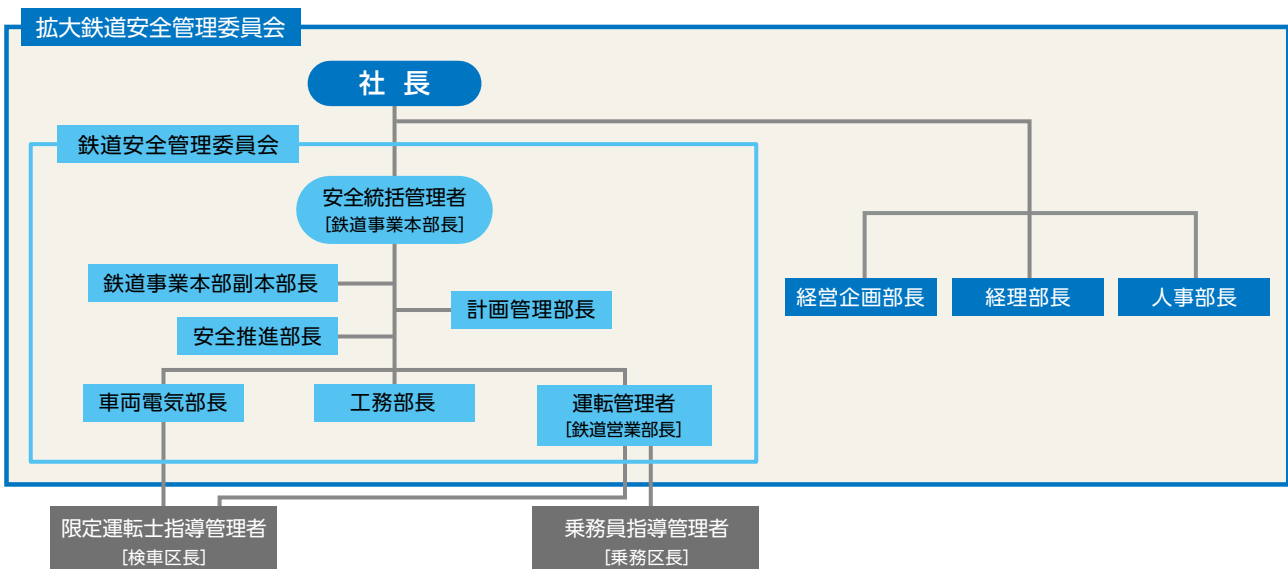
安全に係る社員の行動規範

- 全てにおいてお客さまの視点に立ち、安全確保を第一に行動する。
- 社員一人ひとりがルールを遵守し、判断に迷ったときは、自ら考え、最も安全と認められる行動をとる。
- 情報伝達は迅速かつ正確に行い、共有化を図る。
- 組織・職位を越えたコミュニケーションを構築し、全社員が連携して問題解決にあたる。





安全管理体制



責任者名	役割
社長	輸送の安全の確保に関する業務全般を総理する。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
限定運転士指導管理者	車両電気部長および運転管理者の指揮の下、限定運転士の資質の保持に関する事項を管理する。

安全管理方法

安全管理規程を定め、輸送の安全を確保するためのさまざまな取り組みを行っているほか、内部監査や国の評価を基に、安全管理方法の継続的改善を図っています。



鉄道安全管理委員会

安全統括管理者を中心に、運転管理者を含む鉄道事業本部の各部長がメンバーとなり、原則として毎月1回、また必要により臨時に開催し、事故などの原因の究明・対策の検討・検証などを行っています。また、他社で発生した重大な事故・トラブルについて、当社の対応状況を確認しています。

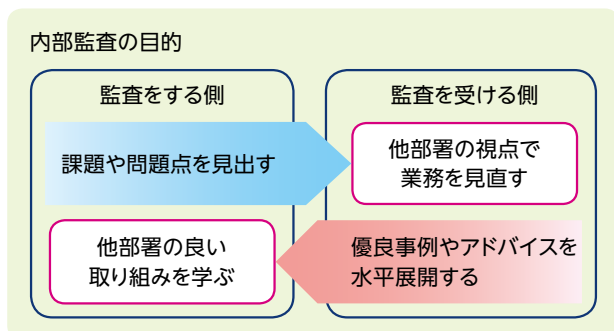
さらに、拡大鉄道安全管理委員会を社長出席の下、年2回開催し、安全重点施策をはじめとした安全管理体制全般の実施状況の評価（マネジメントレビュー）を行っています。



拡大鉄道安全管理委員会

内部監査の実施

運輸安全マネジメントに基づく内部監査を毎年行い、安全管理体制が適正に機能していることを確認しています。社長、安全統括管理者ならびに部長、課長および現業長に対してインタビューや書類検査などを行い、監査で見出された事項については、鉄道安全管理委員会に報告され、共有しています。



経営トップによる職場巡視

年4回の安全推進運動や、毎月の「安全再確認の日」を中心に、社長をはじめとする役員が現業職場を巡視して安全管理の状況を確認するとともに、現業係員との意見交換を実施してコミュニケーションを図っています。



社長と現業係員との意見交換



社長による踏切保安装置更新の視察



社長による連続立体交差工事の視察

事故の芽・トラブル情報・ヒヤリ・ハットの報告

鉄道係員による取り扱い上の支障、機器の故障、自然災害などに起因する異常やそれらに対する措置の報告、また、事故が発生する恐れがあった事態、事故などや労働災害に関係するヒヤリ・ハットを幅広く収集・分析し、対策を講じることで、安全性の向上に役立てています。

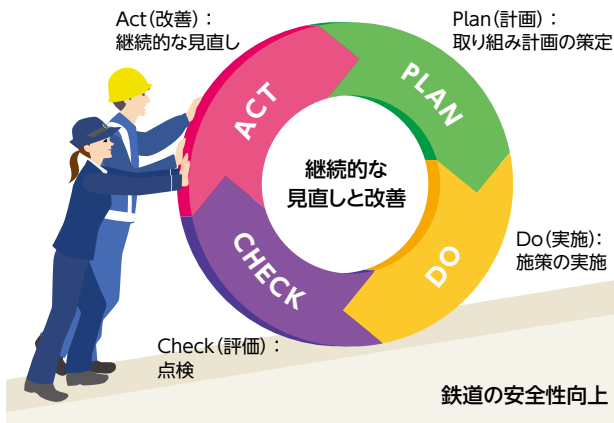


ヒヤリ・ハット報告書の一例

ヒヤリ・ハット情報の収集ポスト

安全管理のPDCAサイクル (スパイラルアップモデル)

鉄道安全管理委員会を中心として、計画(Plan)→実施(Do)→評価(Check)→改善(Act)サイクルに沿って、継続して安全性の向上を図っています。



国土交通省による運輸安全マネジメント評価

事業者の安全管理体制が適切に維持・改善され、有効に機能しているかを、社長・安全統括管理者等へのインタビューや文書・記録の確認を通じて国土交通省が評価・助言するもので、2007年より定期的に受検しています。

第8回評価の主な内容

【実施期間】

2019年6月5・10・11日

【評価事項】

- 経営トップが取り組むべき方向性を明確にするとともに、自らの言葉で社内に情報発信し安全意識の向上に努めていること
- 部門横断的な研修とともに、安全講習会や安全川柳等を活用し、鉄道部門以外の社員の安全に対する意識の向上を図っていること
- 小集団活動等の改善活動を通じて各現場でのPDCAサイクルの実践を促していること

【助言事項】

- 内部監査が、被監査職場が取り組むべき課題とその対応に関する気づきを得る場となるよう強化すること

助言事項を受けて、2019年度の内部監査より被監査職場による「事前調査書」の作成プロセスを導入



現場視察(桜上水乗務区)

安全目標・安全重点施策

中期の経営計画に基づき毎年度、安全目標と安全重点施策を定め、目標の達成に向けて、施策の進捗および実績の管理を行っています。

11 住み続けられる
まちづくりを



2019年度 安全目標・安全重点施策

2018年度から新たにスタートした中期3カ年経営計画に、安全性向上に向けた施策を掲げています。

2020年度に向けた中期3カ年経営計画(2018年度～2020年度)

- 事故や輸送障害、テロ行為の未然防止に向けた施策の実行
- 自然災害への対応力と危機管理体制の強化
- 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進
- 自然災害対策をはじめとした減災対策の実施
- ホームドアや転落防止固定柵の設置によるホーム安全対策の実施
- 老朽設備の着実な更新による保安度の向上

(鉄道の安全性向上への取り組みを抜粋)

2019年度 安全目標

有責事故ゼロと運転事故・輸送障害発生件数の前年比削減

2019年度 安全重点施策

- | | |
|---|---|
| <p>1. 事故・トラブル対策</p> <p>(1) 安全目標達成に向けた事故・トラブルの未然防止と再発防止</p> <p>2. 災害・危機管理</p> <p>(1) 各種訓練や平時における防犯対策によるテロ対策の推進</p> <p>(2) サイバー攻撃に対する防衛能力向上</p> <p>3. 安全意識の高揚</p> <p>(1) 安全啓発室の各種コンテンツ拡充</p> <p>(2) グループ会社を含めた安全意識高揚と事故防止力向上</p> <p>4. 人材育成・活用</p> <p>(1) 経験年数や職位に応じた階層別の研修・教育の継続実施</p> | <p>5. 中長期施策の推進</p> <p>(1) 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進</p> <p>(2) 新宿駅・新線新宿駅・橋本駅の駅改良計画の推進</p> <p>6. 減災対策</p> <p>(1) 構造物の耐震補強工事の継続実施</p> <p>(2) 気象情報システムの更新</p> <p>7. ホーム安全対策</p> <p>(1) 飛田給駅へのホームドア整備</p> <p>(2) 転落防止固定柵や注意喚起ラインの整備</p> <p>8. 老朽化対策</p> <p>(1) コンクリート構造物の補修工事の継続実施</p> <p>(2) 列車運行管理システムの更新</p> <p>(3) 京王線8000系車両、井の頭線1000系車両のリニューアル</p> |
|---|---|

2019年度 輸送安全実績

鉄道運転事故などの発生件数(2015年度～2019年度)

2019年度は、鉄道運転事故が4件(対前年度7件減)、輸送障害が21件(同5件減)発生しました。インシデントは前年度に引き続き発生しておりません。

■ **鉄道運転事故とは**

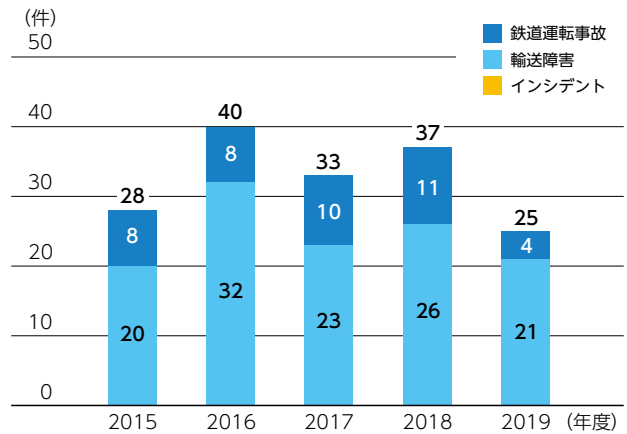
「列車衝突事故」「列車脱線事故」「列車火災事故」「踏切障害事故」「鉄道人身障害事故」「鉄道物損事故」をいいます。

■ **輸送障害とは**

鉄道による輸送に障害を生じた事態で、鉄道運転事故以外の運休、また列車に30分以上の遅延が生じたものをいいます。

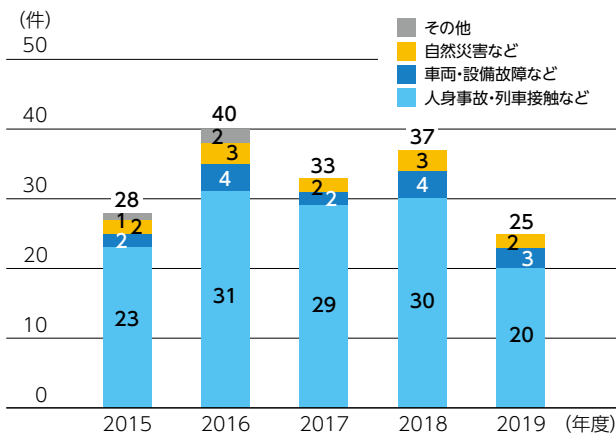
■ **インシデントとは**

事故には至らなかったが、鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事態をいいます。



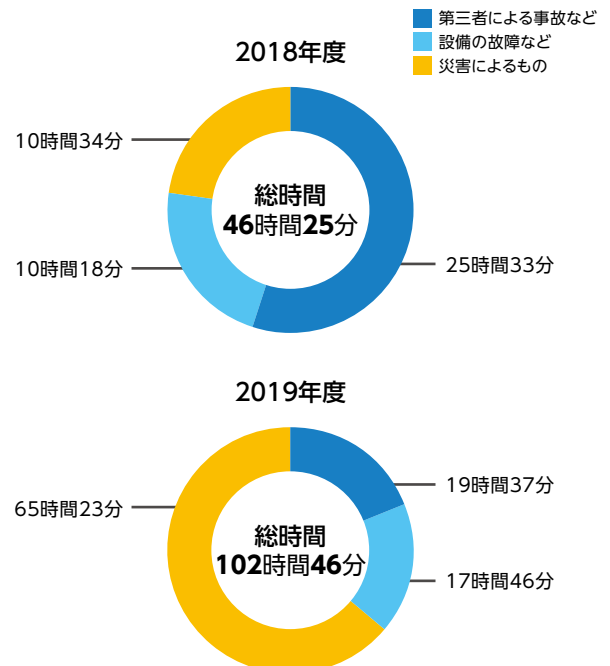
鉄道運転事故などの発生原因(2015年度～2019年度)

2019年度は、駅や踏切道での人身事故や列車との接触などが20件発生しました。また、変電所火災などの設備トラブルが3件発生しました。その他、台風など自然災害を原因とする輸送障害が発生しました。



鉄道運転事故・輸送障害に伴う運転見合わせ時間

2019年度の運転見合わせ総時間は、設備トラブルや2度の大型台風の影響により対前年度で56時間21分の増加となりました。



2019年度に発生したトラブルおよびその後の対処

台風による輸送障害

台風15号・19号では台風対応タイムラインに基づく計画運休の実施などにより、上陸に備えましたが、記録的な強風・大雨により、倒木や土砂崩壊が発生し、長時間にわたり運転を見合わせました。

▶台風15号

- 【発生日時】 2019年9月9日(月) 4時37分
- 【発生場所】 駒場東大前駅～池ノ上駅間ほか
- 【発生事象】 強風による倒木が架線を支障



駒場東大前駅～池ノ上駅間での倒木

▶台風19号

- 【発生日時】 2019年10月13日(日) 8時30分
- 【発生場所】 高幡不動駅～多摩動物公園駅
めじろ台駅～狭間駅間
- 【発生事象】 大雨による線路内への土砂流入
- 【その他】 多摩川・浅川流域エリアで運転を見合わせ



高幡不動駅～多摩動物公園駅間での土砂崩壊

▶対策の実施

激甚化する台風など異常気象に対しては、法面の補強工事や隣地の樹木伐採を継続していくほか、お客様や従業員の安全確保および施設の機能確保に向けて浸水想定区域図(ハザードマップ)等を基に次のような対策を行っていきます。

- 避難指示が発令された際の連絡体制の確立
- 車両基地への浸水に備えた、車両疎開の実施計画の策定
- 重要施設への浸水被害軽減に向けた計画の策定



台風通過後の京王線多摩川鉄橋

変電所火災による輸送障害

- 【発生日時】 2019年7月19日(金) 4時49分
- 【発生場所】 京王永山変電所
- 【発生事象】

- 変電所内に残置された工具の地絡により火災が発生
- 地絡電流の継続により、火災が拡大し停電が発生

【対策】

- 工具の数量確認に関するルールを策定し、点検終了後の確認作業を明確化
- 変電所通信回線の地絡耐性強化、事故時の送電遮断装置を新設
- 風化防止を目的として、安全啓発室内に原因となった機器を展示



火災直後の変電所内部

2020年度 安全目標・安全重点施策

2020年度 安全目標

- (1)有責事故ゼロと運転事故・輸送障害発生件数の前年比削減
- (2)新型コロナウイルス等の感染症への対応策の策定と実施

2020年度 安全重点施策

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 事故・トラブル対策 <ul style="list-style-type: none"> (1)安全目標達成に向けた事故・トラブルの未然防止 (2)事故やトラブルの原因分析と再発防止に向けた安全対策の実施 2. 災害・危機管理 <ul style="list-style-type: none"> (1)関係機関との連携によるテロ対策の推進 (2)サイバーセキュリティ対策の推進 3. 安全意識の高揚、人材育成・活用 <ul style="list-style-type: none"> (1)安全啓発室における安全教育の拡充 (2)経験や職位に応じた教育を通じた質の高い社員の育成 4. 中長期施策の推進 <ul style="list-style-type: none"> (1)京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進 (2)新宿駅・新線新宿駅の駅改良計画の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 5. 減災対策 <ul style="list-style-type: none"> (1)構造物の耐震補強工事の継続実施 (2)高尾線の法面改修工事の継続実施 6. ホーム安全対策 <ul style="list-style-type: none"> (1)下北沢駅のホームドア設置に向けたホーム補強工事の継続実施 (2)転落防止ゴムや注意喚起ラインの整備 7. 老朽化対策 <ul style="list-style-type: none"> (1)コンクリート構造物の補修工事の継続実施 (2)京王線8000系車両、井の頭線1000系車両のリニューアル 8. 新型コロナウイルス感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> (1)お客様と社員の感染予防、拡大防止の徹底 |
|--|---|

topics

■ 新型コロナウイルス感染症に関する動画配信

お客様が安心して鉄道をご利用いただけるように、動画投稿サイトの当社公式チャンネルにおいて、駅や車両の感染予防の取り組みを紹介する動画を配信しています。また、「Enjoy Home(おうちで楽しもう)」と題し、ご自宅にしながら、車窓の風景をお楽しみいただけるよう、運転台からの風景動画をシリーズ配信しています。



感染予防の取り組みを紹介する動画



運転台からの風景動画

人材の育成

「鉄道従事員として自ら知識・技能の習得に努め、安全・安心・快適な鉄道であるための使命を果たせる人材を育成する」という教育方針に基づいて、教育訓練を行っています。

11 住み続けられるまちづくりを



乗務員の養成と技能の維持・向上

▶ 鉄道教習所における教育

鉄道教習所は、国土交通大臣指定の動力車操縦者の養成所として、運転士に必要な知識・技能の教育を行っています。あわせて車掌の養成教育を行っています。

▶ 運転士の養成

運転士になるためには、駅係員、車掌を経験した後、学科講習と技能講習をあわせて約8カ月間受けて、試験に合格する必要があります。

入所

学科講習
(3.5カ月間)

- 安全の基本
- 信号線路
- 検査修繕
- 鉄道車両
- 鉄道電気
- 作業安全
- 運転法規
- 運転理論

学科修了試験

技能講習
(4.5カ月間)

- 指導操縦者による運転技能訓練
- 車両点検・故障処置訓練
- 異常時の対応・応急処置訓練

技能修了試験

国土交通省関東運輸局から運転免許交付

▶ 乗務員の技能の維持・向上

運転士・車掌になった後もフォロー教育や監督者による定期的な添乗指導のほか、各職場での勉強会や、個別の面談による指導を通じて、知識・技能の維持・向上を図っています。



シミュレーターによる運転士訓練



シミュレーターによる車掌訓練

▶ 車掌の養成

車掌になるためには、駅係員を経験した後、学科講習と技能講習をあわせて約3カ月間受けて、試験に合格する必要があります。

入所

学科講習
(1カ月間)

- 安全の基本
- 信号
- 鉄道車両
- 営業規則
- 線路電路

学科修了試験

技能講習
(2カ月間)

- 見習い者指導による技能訓練
- 車内点検・故障処置訓練
- 異常時の対応・応急処置訓練

技能修了試験

修了証授与

乗務員の体調管理

▶ アルコールチェックと健康管理

乗務開始前に、監督者により健康状態を確認するほか、アルコールチェックを徹底しています。

また、定期的に健康診断や適性検査を実施しています。



監督者による点呼

駅係員・技術員の教育

▶ ホーム訓練室

実際のホームを再現し、列車非常停止ボタンや転落検知装置などを設置しています。これらの機器を動作させて、異常時の対応訓練を行っています。



▶ 信号扱い訓練室

列車運行管理システムが故障した時などに備え、信号操作の取り扱い(てこ操作)訓練を行っています。



▶ 屋外訓練施設

実際の架線や踏切保安設備などを設置しています。日々の保守・点検作業の手順などを確認するほか、異常時における対応力の強化に向けた訓練を行っています。



協力会社との勉強会

施設・車両などの保守管理を委託する協力会社の社員とともに定期的に勉強会を実施しています。



技術の継承

ベテラン社員が「車両の改造と新造」をテーマに講義を行うなど、技術の継承に取り組んでいます。



VOICE

安全推進部 鉄道教習所 教師
大木 淳一

安全で快適な鉄道輸送をお客様に提供するために、運転技術や機器の操作だけでなく、鉄道法規・機器やシステムの仕組み・異常時における対応方、過去の事故から学ぶ安全の重要性など、多岐にわたる教育を行っています。今後も教育を充実させ、安全性とサービス品質の向上に努めてまいります。

安全文化の構築

社員の安全意識のさらなる高揚を目指して、「安全啓発室」のリニューアルや、専門家・ベテラン社員による講演会、鉄道部門以外の社員を対象とした安全講習会などを開催しています。

11 住み続けられる
まちづくりを



安全啓発室

過去の鉄道事故やインシデントについて、デジタルサイネージを活用し、事故の経緯や原因などを学ぶことができます。

鉄道事故の悲惨さを実感することで、一人ひとりが考え、行動につなげることを目指しています。乗務員養成教育や新入社員教育をはじめ、各種教育・訓練に活用することで社員の安全意識のさらなる高揚を図っています。



最新の事故・災害事例を用いた教育



デジタルサイネージを用いた教育



受講後に「安全に向けた誓い」を記入したカードを提出

安全講演会

安全意識の高揚を目的として、毎年開催しています。2019年度は、西日本旅客鉄道株式会社 常務技術理事 安全研究所長の河合 篤氏をお招きし、「鉄道の安全とヒューマンファクター」をテーマにご講演いただきました。



河合 篤氏によるご講演の様子

topics

安全啓発室のリニューアル

デジタルサイネージに最新の事故事例を追加するとともに過去の自然災害やテロ対策のコーナーを新設しました。また教育映像に当社の安全アドバイザーである立教大学名誉教授 芳賀 繁氏からの「鉄道の安全と安心」についてのメッセージを収録しました。2019年11月からの新カリキュラムによる社員教育に活用しています。



安全アドバイザーからのメッセージ



変電所火災の機器の展示

小集団活動発表会

毎年、各職場で取り組んでいる安全性向上や業務改善活動の発表会を開催し、社員の改善意欲を高揚させながら、業務の継続的改善を行っています。



職場の代表者による発表



部門内で情報を共有するためのポスター

鉄道安全川柳

安全への取り組みや思いを広く伝えるものを全社員から川柳形式で募集、入賞作品をポスター化しています。



入賞作品を紹介するポスター

京王失敗学会

当社のベテラン社員やOBが、過去に体験した事故やヒヤリ・ハット、またそこから学んだ教訓を自ら語ることで、後輩社員に安全文化を伝承するとともに、失敗情報についてオープンに話し合う講演会「京王失敗学会」を開催しています。



OBによる失敗体験の発表の様子

鉄道部門以外の社員への働きかけ

大規模な災害や事故が発生した場合に、鉄道部門以外の社員が駅などでお客様のご案内を行う体制を整備しています。「応援者活動用ワッペン」「応援者対応ツール」などを使用した応援方法のガイダンスを実施しているほか、グループ会社も含めた安全講習会を定期的で開催しています。



鉄道教習所での安全講習会の様子

危機に備えた訓練

鉄道運転事故や自然災害の発生に備え、さまざまな訓練を通じて、事故・災害への対処能力を高めています。

11 住み続けられるまちづくりを



13 気候変動に具体的な対策を



大規模な訓練

▶総合事故復旧訓練

脱線などさまざまな鉄道事故を想定し、通報・連絡・お客様の避難誘導・現場の復旧などの訓練を毎年総合的に実施しています。

※2020年3月に予定していた訓練は、新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、中止いたしました。写真は2018年10月に開催した時のものです。



お客様の避難誘導



線路の復旧



脱線車両の復旧



踏切設備の復旧

▶防災訓練

大規模な地震の発生を想定し、列車を緊急停止させる訓練を実施しているほか、本社災害対策本部の設置・運営などの訓練を定期的に行っています。



災害対策本部設置訓練



事故対策本部設置訓練

そのほかの訓練

▶ 地下駅火災避難誘導訓練

地下駅での火災を想定した避難誘導訓練を実施しています。



▶ マルチプルタイタンパー復旧訓練

京王線の道床つき固めを行うマルチプルタイタンパーの故障を想定し、応急復旧訓練を実施しています。



▶ トロリ線復旧訓練

工具の適切な使用方法や作業上の注意点を習得する目的で実施しています。



▶ 信号扱い訓練

列車運行管理システムの故障発生を想定し、全線の信号扱い所での一斉訓練を実施しています。



▶ 除灰カート習熟訓練

富士山の噴火による降灰を想定した除灰カートの習熟訓練を実施しています。



VOICE

車両電気部 電力管理所
指導技術掛

石原 直樹



トロリ線が断線したことを想定し、絶縁はしごを使用して切れたトロリ線をつなぎ直す断線復旧訓練を実施しています。

基本動作や高所での作業姿勢、工具の適切な使用方法を身に付けることにより、事故の早期復旧と2次災害を防ぎ、作業者の安全を確保することにつながると考え、訓練に励んでいます。

施設・設備の取り組み

笹塚駅～仙川駅間の連続立体交差化の推進をはじめ、ホーム・踏切への安全設備の増強、お客様への運行情報提供も含めた運行管理機能のさらなる充実を図っています。

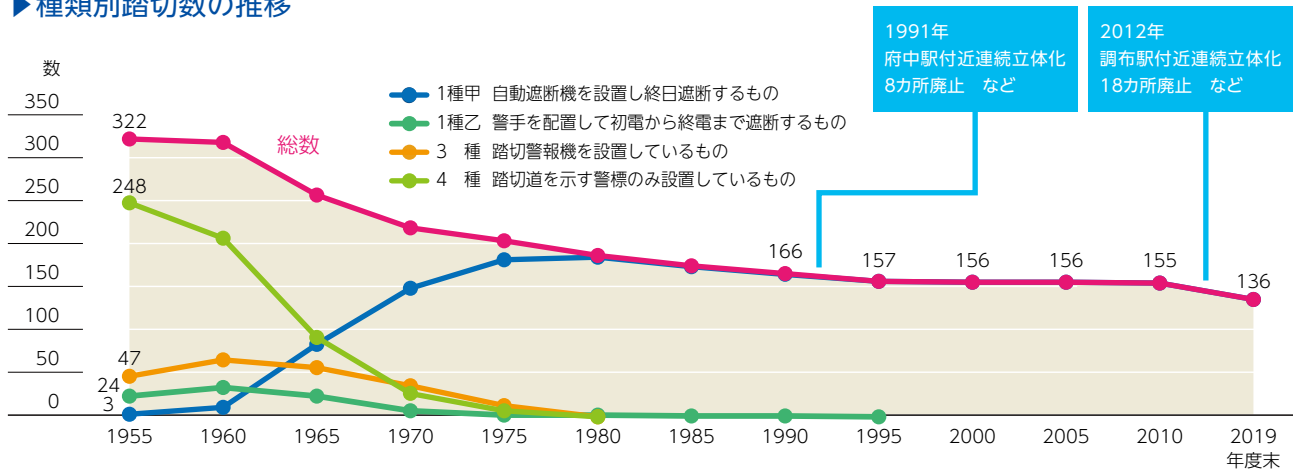


立体交差化

運転保安の向上のため、線路と道路の立体交差化や踏切の整理統合を行ってきました。特に連続立体交差化については1964年の京王線 新宿駅～初台駅間の地下化を皮切りに、複数の箇所で行った事業を実施し、直近では2012年8月に調布駅付近を地下化しました。この結果、踏切数は1955年度末の322カ所から2019年度末で136カ所に減少しています。

※連続立体交差事業:2カ所以上の幹線道路を含む多くの道路と鉄道を連続的に立体化するものであり、道路整備の一環として施行する都市計画事業です。

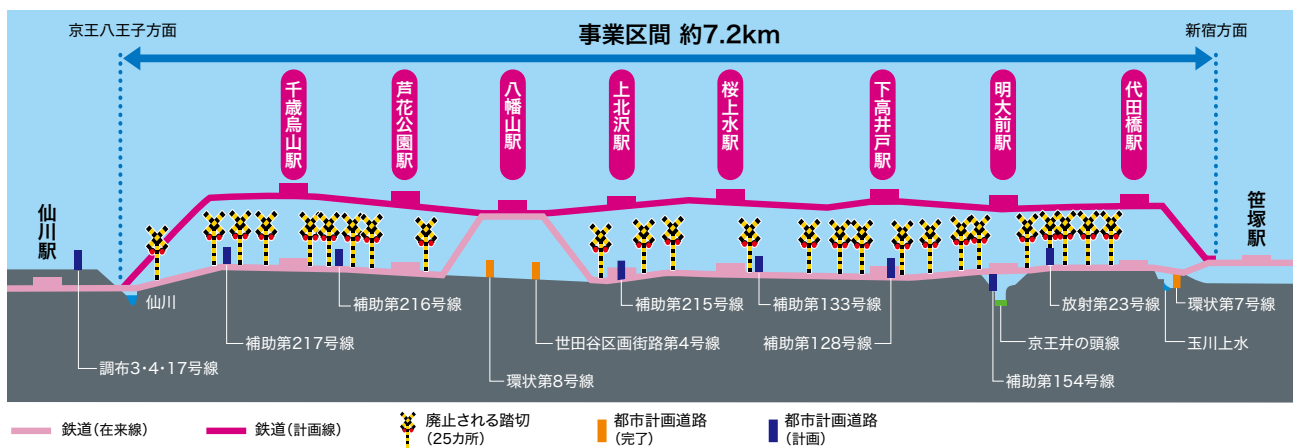
▶種類別踏切数の推移



▶京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業

事業主体である東京都と協力し、京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業を実施しています。2014年2月、国土交通省から都市計画事業の認可を取得し、用地取得や設計業務などを進めているほか、一部工区において工事に着手しました。

この事業の完成により、笹塚駅～仙川駅間の約7.2kmを高架化し、25カ所の踏切を廃止するとともに、放射第23号線(井ノ頭通り)などとの立体交差化を図ります。



topics

■ 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の進捗状況

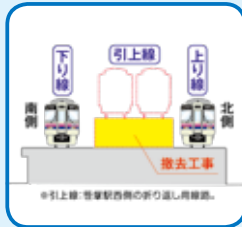
2018年10月より、全8工区のうち4つの工区で工事に着手しています。

■ 笹塚駅側取付部・代田橋駅付近

仮線工事(現在の線路を移設する工事)の準備として、笹塚駅西側で引上線の一部撤去等を行います。また、代田橋駅部で土留杭の設置やホームの仮設化を行います。



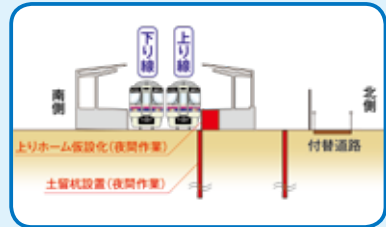
仮線工事準備(引上線一部撤去)



引上線断面図



代田橋駅上りホーム状況



代田橋駅断面図

■ 明大前駅付近

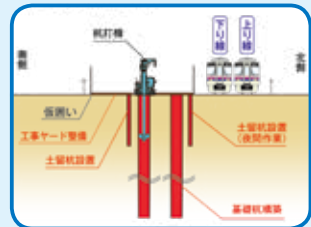
土留杭の設置と高架橋基礎杭の構築を進めるとともに、新たに工事ヤードを整備します。



土留杭設置完了状況



基礎杭施工状況



明大前駅東側断面図

■ 芦花公園駅付近

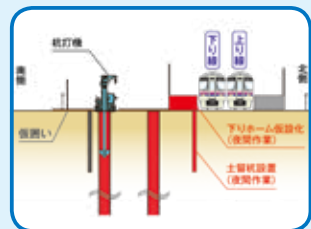
土留杭の設置と高架橋基礎杭の構築を進めます。



下りホーム一時撤去状況



土留杭施工状況



芦花公園駅断面図

■ 仙川駅側取付部

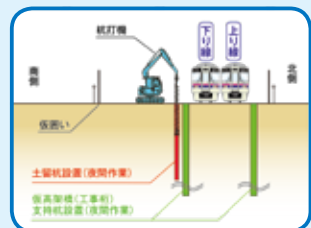
土留杭の設置を進めるとともに、仮線工事(現在の線路を移設する工事)の準備として、仙川駅東側で仮高架橋(工事桁)支持杭の設置を行います。



土留杭施工状況



土留杭設置完了状況



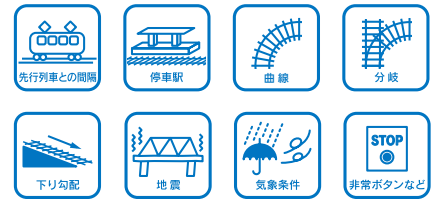
千歳烏山駅西側断面図

ATC(自動列車制御装置)

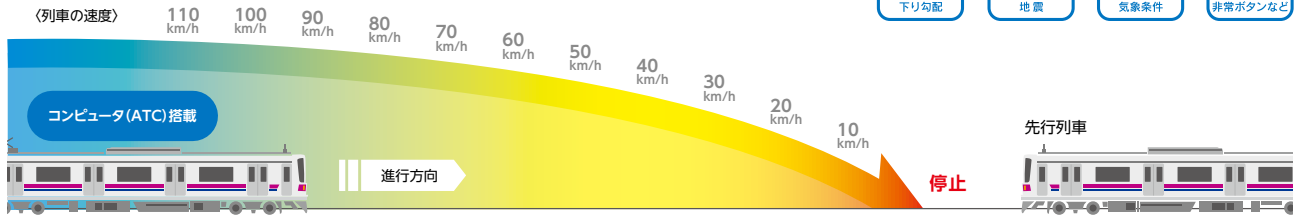
従来のATS(自動列車停止装置)に比べてさらに安全性の高いATC(自動列車制御装置)を2013年3月から当社全線で使用しています。

車両に搭載しているコンピュータが、レールに流れている信号電流を受け取ることにより、先行列車との間隔を連続的に把握し、常に適切な速度で走行できるよう、列車を制御します。

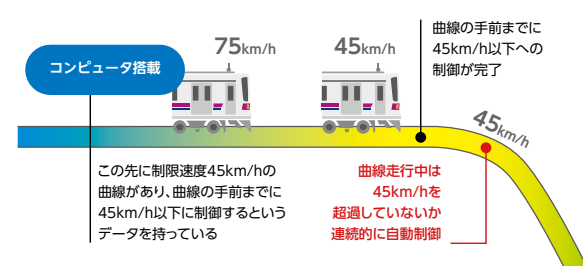
■ ATCで列車を制御できる主なケース



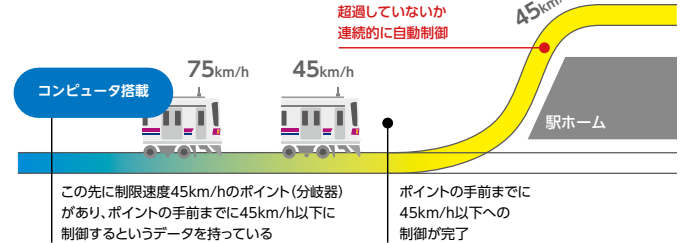
■ ATCによる列車制御のイメージ



■ 曲線通過の場合



■ ポイント通過の場合



鉄道総合指令センター

免震構造となっている鉄道総合指令センターには、列車の運行などを管理する運輸指令所と、電力の供給を管理する電力指令所の機能が集約されています。平常時だけでなく、事故や災害発生時の対応を迅速に行えるよう、連携を強化する体制を整えています。

▶ 運輸指令所

列車の運行を円滑に行うため、TTC(列車運行管理システム)により、進路設定、出発指示合図などを自動制御しています。事故発生時などには、列車の位置や遅れなどを総合的に判断し、運行ダイヤの整理・復旧を図るとともに、駅の「お客さま案内ディスプレイ」や「車内案内表示器」などを通じて、一括してお客様に最新の情報をご案内しています。



▶ 電力指令所

列車運転用電力と駅設備や信号保安設備などに用いる付帯用電力を供給する20カ所の変電所の運転状況や送電状況を、集中監視制御システムにより24時間体制で監視しています。事故や停電が発生した場合は、直ちに予備の設備に切り替え、列車の運行への影響を最小限にするなど、電力の安定供給に努めています。



鉄道運行情報の提供

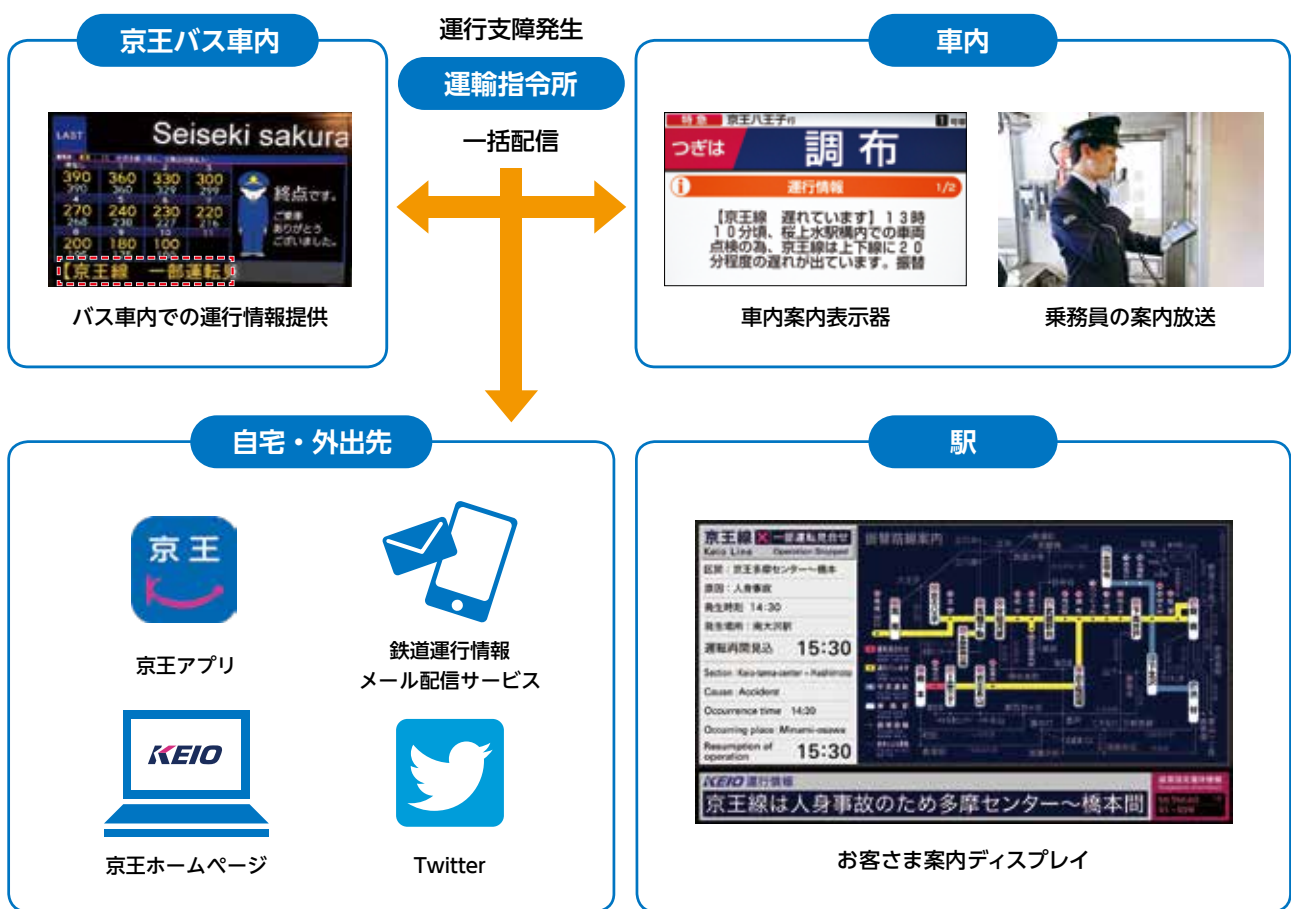
列車の運行に支障が生じた場合、文字情報・路線図・音声などで、鉄道運行情報をお届けしています。


文字情報については、ホームに設置の「行先案内盤」、車内に設置の「案内表示器」のほか、「鉄道運行情報メール配信サービス」「京王アプリ」「Twitter」での情報提供を行っています。

路線図については、改札付近に設置している「お客さま案内ディスプレイ」および「京王ホームページ」にて提供しているほか、ディスプレイなどに表示される文字情報は、音声に変換され全駅で放送しています。


これらの情報の一部については多言語(英語・中国語・韓国語)によるご案内も行っています。

異常時などは、車掌が運輸指令所からの連絡やタブレット端末を活用して、お客様に必要な情報をよりスムーズにご案内できるよう努めています。また、京王バス車内でも鉄道の運行情報を提供しています。





VOICE

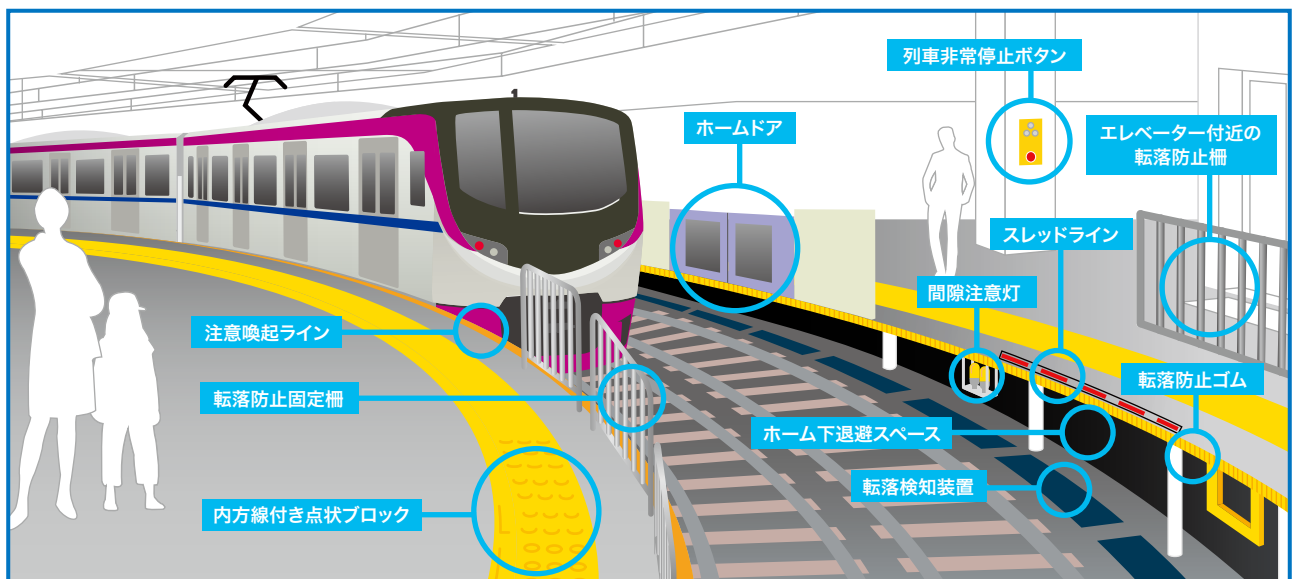


鉄道営業部 運輸指令所
指令掛
中島 藍

運輸指令所では、駅や乗務員に対して、運行に関する情報を伝達しています。伝え方によっては誤解やミスを招いてしまう可能性があります。私は、常に分かりやすく正確に伝達することが、受け手側の安全につながると思います。「今、何を伝えるべきか」という業務の本質を考え、冷静な判断ができるように、日々タイミーゼトレーニングをしています。

ホームの安全対策

ホームでの安全を確保するため、さまざまな対策に取り組んでいます。



▶ ホームドア

お客様のホームからの転落やホーム上での列車との接触事故を未然に防止するため、ホームドアを設置しています。2019年度は飛田給駅3番線、2020年度は飛田給1番線で使用を開始しました。今後明大前駅、下北沢駅においても整備を計画しています。



飛田給駅3番線

▶ 転落防止固定柵

お客様のホームからの転落防止を目的として、終端部やエレベーター出入口が線路側を向いているなどのホームの一部に固定柵を設置しています。

2019年度は、仙川駅、分倍河原駅、橋本駅に設置しました。



分倍河原駅1番線

■ ホームドア設置年度

年度	駅名
2012年度	新宿駅、調布駅、布田駅、国領駅
2015年度	吉祥寺駅
2018年度	新線新宿駅、渋谷駅、飛田給駅2番線
2019年度	飛田給駅3番線
2020年度	飛田給駅1番線



橋本駅2番線

▶ 転落防止ゴム

車両とホームとの間が広く空いている駅では、お客様が乗降の際に転落しないよう、隙間を狭くするための転落防止ゴムの設置を進めています。

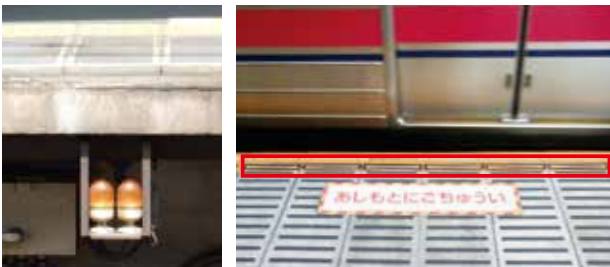


ゴム断面

転落防止ゴム施工後

▶ 間隙注意灯・スレッドライン

曲線ホームなど、車両とホームとの隙間が広く空いている箇所がある12駅では、光の点滅で隙間をお知らせする間隙注意灯やスレッドラインを設置しています。



間隙注意灯

スレッドライン

▶ 転落検知装置

曲線ホームなど、車両とホームとの隙間が広く空いている箇所がある15駅に設置しています。お客様がホームから転落された場合、この装置が転落を検知し、乗務員や駅係員に知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。



▶ 列車非常停止ボタン

お客様がホームから転落された場合などに、このボタンを押すことで接近する列車の乗務員や駅係員などに異常を知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。全駅のホームに設置しています。



▶ 注意喚起ライン・内方線付き点状ブロック

線路への転落や、列車への触車防止を図るため、ホーム端をオレンジ色に塗装し、注意喚起を行っているほか、目の不自由なお客様の転落防止対策として、ホーム縁端部にある警告ブロックにホームの内側を示す内方線を整備しています。



▶ ホーム下退避スペース・ステップ

お客様がホームから転落された場合の緊急避難場所として、ホーム下に退避スペースを整備しています。また、退避スペースのない箇所には、ホームに上がりやすくなるためのステップを設置しています。

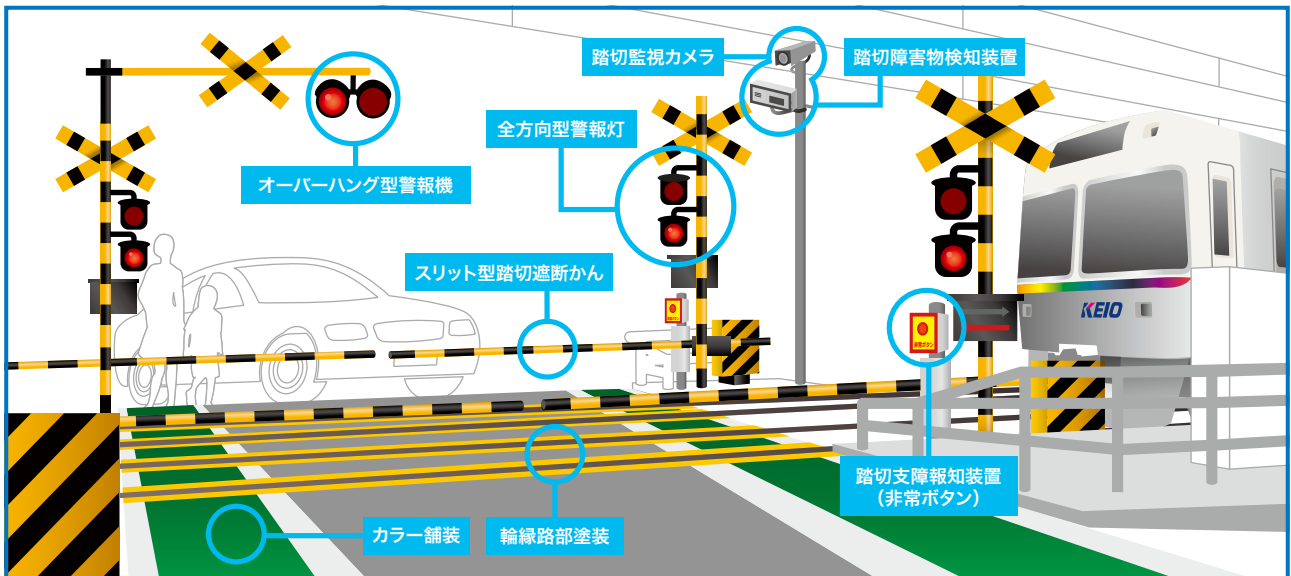


ホーム下退避スペース

ホーム下ステップ

踏切の安全対策

踏切での安全を確保するため、各種保安装置を設置しています。



▶ 踏切支障報知装置 (非常ボタン)

列車との接触事故を未然に防止するため、すべての踏切に設置しています。踏切内に自動車や歩行者が閉じ込められた時に、ボタンを押すと、運転士に異常を知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。また、一部の踏切には、渡りきれずに閉じ込められた場合に、踏切内から操作できる非常ボタンも設置しています。



踏切支障報知装置 (非常ボタン)

▶ 踏切障害物検知装置

踏切での列車と自動車などの接触事故を未然に防止するため、89カ所の踏切に設置しています。踏切内に何らかの障害物を検知すると、運転士に異常を知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。

従来の光線式より高い精度で検知できる高機能型 (エリア検知式) への更新を進めています。



二次元レーザーダ式障害物検知装置



踏切内の踏切支障報知装置 (非常ボタン)



三次元レーザーダ式障害物検知装置

▶スリット型踏切遮断かん

自動車などによる折損を防止するため、屈折可能なスリット型踏切遮断かんを一部の踏切に導入しています。



▶踏切監視カメラ

踏切事故の防止や、事故発生時などの状況確認を行うため、踏切に監視カメラの設置を進めています。



▶全方向型警報灯

どの角度からも点滅が確認できる全方向型警報灯の導入を進めています。



▶オーバーハング型警報機

遠くからでも踏切の存在がわかるよう、一部の踏切では道路上の高い位置に警報機を設置しています。



▶輪縁路部塗装

自転車などの車輪が線路の溝に落ちることを防止するため、輪縁路部を塗装し、注意喚起を図っています。



▶カラー舗装

踏切の歩道部分をカラー舗装により明示して踏切内での立ち止まり防止を図っています。



車両の安全対策

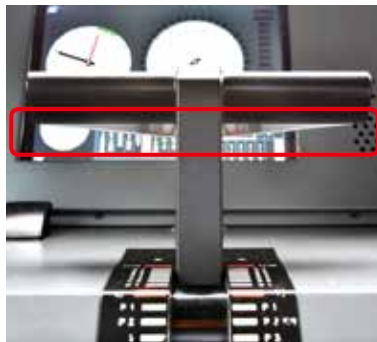
▶防護無線装置

列車の脱線や踏切内での立ち往生などにより、列車の運行に支障を来す恐れがある場合、乗務員が乗務員室にあるボタンを押し、無線による信号を発報する装置です。この信号を受報した他の列車の運転士は直ちに列車を停止させ、事故を未然に防ぎます。



▶車両の緊急停止装置

運転士の体調が急変した場合などに備えて、ハンドルから手が離れると自動的に非常ブレーキが作動する運転士異常時列車停止装置や、車掌が強制的に非常ブレーキをかける装置を搭載しています。



運転士異常時列車停止装置



車掌非常スイッチ

▶避難はしご

万一、事故などが発生した場合、お客様を車外に避難誘導するため、非常用の避難はしごを搭載しています。



▶非常通報装置

車内の異常を乗務員に知らせる装置を全車両に設置しています。また、一部の車両では、乗務員と直接通話ができる非常通報器を設置しています。



▶車内防犯カメラ

テロ行為などの未然防止や、車内での迷惑行為などを鑑み、一部の車両に防犯カメラを設置しています。なお、映像データは社内規程に則り、厳正に管理しています。



▶前方監視カメラ

事故や列車運行に対する妨害行為等が発生した際の状況確認および原因究明を目的として、前方監視カメラを設置しています。



駅の安全対策

▶ 防犯カメラ

駅構内の状況確認や犯罪行為などの抑止を目的として、全駅に防犯カメラを設置しています。駅、本社、総合指令センターにおいて常時確認することができます。



▶ 駅係員呼出インターホン

ホーム上で不審者や不審物を発見したとき、また具合の悪いお客様を見かけた際などに駅係員に連絡することができます。



▶ 地下駅火災対策

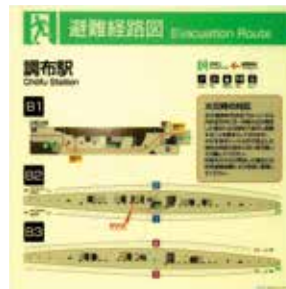
地下駅では複数の避難経路を確保するほか、新宿駅において排煙設備および防火区画の設置工事を行うなど、火災対策を行っています。



ウォータースクリーンによる防火区画(新宿駅)

▶ 避難経路図

火災や震災時などの避難誘導のため、駅構内に避難経路図を表示しています。地下駅については蓄光タイプのパネルにより、暗所でも確認できるものになっています。



脱線防止対策

▶ 脱線防止ガード

半径300m以下の曲線に設置しています。また、一部のポイント(分岐器)や踏切にも設置しています。



▶ PQモニタリング台車(京王線)

車輪がレールを押す力の比(脱線係数Q/P)を測定し、営業運転で脱線の危険性を常時監視しています。



日々の保守管理

車両や施設、軌道、設備などについて、計画的な保守管理を行うことで、日々の鉄道の安全運行を支えています。

11 住み続けられるまちづくりを



車両

列車を安全に運行するために定期検査を行っています。日常的な検査は検車区（京王線は若葉台・高幡不動、井の頭線は富士見ヶ丘）で実施し、大規模な検査と修理は若葉台工場で行っています。

▶ 若葉台工場

4年または走行距離が60万kmを超えない期間に行う「重要部検査」、8年を超えない期間に行う「全般検査」のほか、大規模な修理やリニューアル工事を行っています。



車体吊り上げ



台車検査ライン



8000系リニューアル工事

▶ 検車区

10日を超えない期間に行う「列車検査」や、3カ月を超えない期間に行う「月検査」のほか、臨時の小規模な修理や車両の清掃を行っています。また、若葉台検車区では床下型車輪旋盤装置による車輪の削正を実施し、静かで乗り心地の良い車両を維持しています。



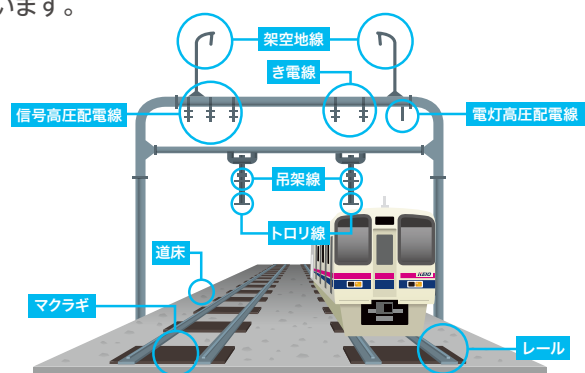
ドアの点検



車輪の削正

架線（吊架線、トロリ線）

総合高速検測車や目視により外観に異常がないか点検をしているほか、終電後には、測定器などを用いた点検や架線の高さの調整、各種設備の交換などを行っています。



総合高速検測車

実際の列車と同じ速度で走行しながら、架線と軌道の状況を同時に検測することができる総合高速検測車を京王線に導入しています。検測で得られたデータを保守計画に反映し、安全性・乗り心地の向上を図っています。



総合高速検測車



総合高速検測車車内

構造物

高架橋・トンネル・橋梁・擁壁などの構造物については、定期的に目視検査や打音検査を実施するとともに、必要に応じて補修工事を実施しています。



トンネル天井部の点検

軌道

日中に総合高速検測車や測定機器を用いたさまざまな点検を行い、終電後には点検結果に基づき、軌道のゆがみの整正や各種部品の交換などを行っています。京王線の道床つき固めにはマルチプルタイタンパーという大型の作業車を使用しています。



マルチプルタイタンパー



道床のつき固め

VOICE

工務部 施設管理所 土木担当
技術員

藤田 駿

施設管理所では、軌道・土木・建築という様々な観点から鉄道施設物の維持管理を行い、安全運行を支えています。

安全運行を達成するためには日々の積み重ねが重要と考えており、いかなる状況においても維持管理業務を迅速・確実・適正に実施していくことで、現場の最前線から安全運行を支えてまいります。

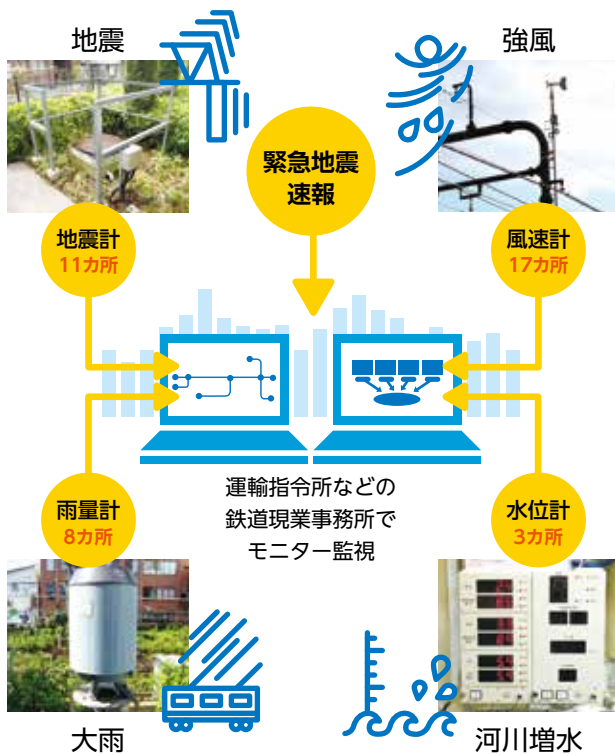
災害などへの備え

激甚化する自然災害に対して、監視体制を構築しているほか、耐震補強工事などの施設改良を推進しています。



気象情報システム

自然災害に迅速に対応するため、沿線に地震計・風速計・雨量計・水位計を設置しています。それぞれの計器で観測されたデータは運輸指令所をはじめとする各鉄道現業事務所において、24時間体制で監視しています。



▶ 強風

沿線17カ所に風速計を設置しています。観測された瞬間風速に応じた速度規制、運転中止の基準を定めています。また、井の頭線において、防風柵の設置工事を継続的に実施しています。



防風柵 (高井戸駅～富士見ヶ丘駅間)

▶ 地震

沿線11カ所に地震計を設置し、一定以上の震度を感知すると、全列車に警報を送り、列車を停止させます。さらに、気象庁の「緊急地震速報」を活用し、震度4以上の地震発生が想定される場合、自動的に全列車に警報を送り、乗務員が列車を安全な場所に停止させます。

また、新たな耐震基準に適合した構造物とするため、橋梁、盛土区間や高架橋柱、トンネルを対象とした耐震補強を実施しています。



▶ 大雨

沿線8カ所に雨量計を設置しているほか、多摩川など3カ所に水位計を設置しています。加えて、気象情報会社から提供される解析雨量のデータを活用しています。観測された時間雨量、累積雨量に応じて、速度規制、運転中止の基準を定めています。

また、高尾線では土砂崩壊対策として、線路脇斜面の改修工事を継続的に進めています。



法面改修 (北野駅～京王片倉駅間)

降灰対策

富士山をはじめとする火山の噴火に備え、線路上に積もった火山灰を除去するカートを、京王線・井の頭線あわせて3台導入しています。また、沿線の拠点に除灰用備品を配備しています。



除灰カート

落雷対策

き電線より一段高いところに避雷針の役割を果たす「架空地線」と呼ばれる防護線を必要な箇所へ設置完了したほか、電子機器の耐雷性強化を図っています。



避雷器



架空地線

降雪対策

▶パンタグラフの改良

従来のひし形のものより着雪面が少ないシングルアームパンタグラフを採用しています。また、車両基地などの架線には着雪・着氷を防止するため、ヒーターを内蔵した電線を使用しています。



▶融雪器の導入

地下駅を除く主要なポイント(分岐器)に電気融雪器を設置しています。

なお、2015年度からこれまでの電気融雪器に比べて融雪能力の高い温水循環式融雪器を導入しています。



帰宅困難者対策

大規模災害などにより、帰宅が困難になったお客様への対応として、全駅に備蓄品(飲料水、救急シートなど)を配備しています。



その他の取り組み

お客様に安心してご利用いただけるよう係員の知識・技能の向上に努めているほか、さまざまな安全啓発活動を通じて、事故防止の取り組みを行っています。

11 住み続けられる
まちづくりを



鉄道テロ対策

全駅のゴミ箱を撤去しているほか、防犯カメラの設置や駅係員、警備員の巡回により、不審者・不審物の早期発見に努めています。また、車両基地などへの侵入防止のために、防犯センサーの設置や警備員による巡回を実施しています。



テロ警戒を示すステッカー



関係機関との合同テロ対策訓練

技能レベルの向上

▶ 各種技能競技会の開催

技能レベル向上を目的として、各種技能競技会を開催しています。車内アナウンスやお客様案内といった車掌の業務、運転士の運転技能、設備の復旧などスキルを競い合っています。



運転技能競技会



設備復旧競技会

topics

ラグビーワールドカップへの取り組み

東京スタジアムで開催されたラグビーワールドカップ2019™では、関係機関と連携した訓練や多言語によるご案内強化のほか、踏切での警戒、ホームドアや防犯カメラの整備を通じて、期間中の安全運行の確保に努めました。



サービススタッフによるご案内



社員による踏切での警戒

お客様サポートの充実

▶現場係員の研修

2016年度から、実際の駅や車両を使用して、盲導犬を帯同したお客様や白杖を使用するお客様へのご案内や接遇スキルを向上させるための講習会を実施しています。



▶声かけ・サポート運動の実施

お客様が安全に、かつ安心して鉄道施設をご利用いただけるよう、お困りになっているお客様を見かけた際は、社員が積極的にお声かけをするとともに、列車への乗降の誘導案内を実施しています。また、社員がお声かけをするだけでなく、



鉄道をご利用になるお客様にも、お困りの方に対して助け合いのご協力を呼びかけています。

▶サービス介助士の資格取得の推進

障がいのあるお客様への接遇向上のため、当社ではサービス介助士の資格取得を推進しており、すべての駅係員および乗務員が取得しています。

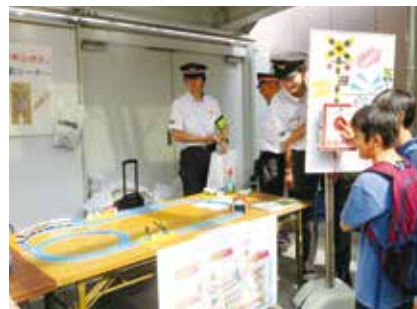


なお、有資格者は胸章に表示し、お客様にもわかりやすくしています。

安全啓発活動

▶デモ機での操作体験

交通安全運動期間中に、駅構内にて安全設備の操作を体験していただくことで、万一の際のご協力をお願いします。



駅構内でのデモ機による操作体験

▶踏切での呼びかけ

交通安全運動期間中に、踏切の無理な横断などをしないよう呼びかけを行い、事故の未然防止に努めています。



踏切での啓発活動

▶高齢者施設や学校への訪問

交通安全運動期間中に、高齢者施設や学校などへの訪問により、安全な鉄道利用を呼びかけています。



高齢者施設での安全教室

グループ会社の安全対策

運輸安全マネジメントに基づく安全対策

京王グループ運輸業各社では「運輸安全マネジメント」に取り組み、安全管理規程の制定、事故件数削減目標の設定、安全意識の向上などを行うとともに、安全関連情報をホームページで公表しています。

また、社長以下役員が営業所を巡回し、安全管理体制の確認や、営業所員・乗務員と安全に関する意見交換を行うなど、積極的なコミュニケーションを通じて、輸送の安全確保を図っています。

バス

▶安全装置の導入

●ドライブレコーダー

京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、車内外に設置されたカメラとマイク(集音装置)により映像・音声情報を記録・再生するドライブレコーダーを全車両に導入しています。また、左折時や進路変更時の事故防止を目的として左折チャイムを導入している他、路線バスに車内確認用の補助ミラーを設置しています。



ドライブレコーダー

●運転訓練車

京王電鉄バスグループでは、アイマークレコーダー^{※1}や安全確認装置^{※2}などにより、運転の様子を映像と音声で記録するとともに、運転状況をチェックできる車内モニターが備えられている「運転訓練車」を、関東の各民営バス会社に先駆けて導入しています。

^{※1} アイマークレコーダー：乗務員が装着したカメラで目の動きを映像化して記録する装置

^{※2} 安全確認装置：乗務員が安全確認を必要とする箇所を点灯などで示す装置



運転訓練車

●衝突被害軽減ブレーキ

高速バス事業では、走行中に高精度ミリ波レーダーで前車との車間距離を監視し、車間距離が近づき衝突の恐れがある場合に警報音で注意を促すとともに、衝突の可能性が高いと判断した場合にはブレーキを作動させ、万一の衝突事故の被害を低減する「衝突被害軽減ブレーキ」を搭載した車両を導入しています。



衝突被害軽減ブレーキ搭載車両

そのほかにもアイトラッカー(視線計測装置)、モービルアイ(衝突防止補助装置)など事故防止対策機器を積極的に導入し、京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、車間距離警報装置を160両、またバスジャック対策として、走行中に運転を妨害されないようにするための囲い(ドライバーズガード)を121両に導入しています。

▶事故の未然防止

●乗務員の教育

京王電鉄バスグループでは、通常では体験できない運転上の危険などを体験する泊りがけの研修を行うなど、安全運転に対する意識の向上を図っています。西東京バスでは、全乗務員を対象に、社長懇談会、事故防止・接遇向上の座学研修、運転実技訓練の3部構成の定期研修を開催し、役員が会社方針の説明を行うほか社長が質疑応答を通じ全乗務員と直接対話することで、現場の声を安全対策につなげています。



運転実技訓練



座学研修

●乗務員の健康管理

京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、乗務員の健康リスクを管理するために、SASスクリーニング検査や脳ドック(MRI)検査を実施し、健康起因事故の未然防止に努めています。



管理職から営業係への健康面談

タクシー

京王自動車グループでは「安全・安心」の取り組みとして、「安全運転支援システム」を導入し、IT会社との共同開発を続け、システムの改良を進めていきます。

また、年2回の現業説明会「くるま座」を開催し、本社経営層と乗務員のリーダーで意見交換を図り、本社と営業所が一丸となって事故防止に努めています。



車庫内で一時停止の実技講習

トラック

京王運輸では、2008年に全日本トラック協会が認定する「安全性優良事業所」の取得率100%(全5事業所)を達成しました(業界全体の取得率は30.2%)。

また、安全性優良事業所に10年間認定されたことにより、多摩営業所が2017年に関東運輸局長より表彰されました。



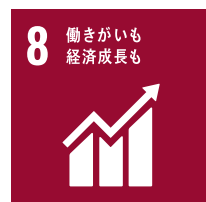
安全性優良事業所に交付される「Gマーク」が貼付されたトラック



社会性報告

住んでももらえる、 選んでももらえる沿線づくり

日常の買い物に不便なお客様を対象に行う移動販売、仕事と子育ての両立を支援する保育所、職住近接で安心・快適に仕事ができるサテライトオフィスなど、地域社会の課題解決に貢献する取り組みを推進しています。様々な取り組みを通して、地域社会の持続的な発展とお客様のより良い暮らしの実現に貢献していきます。





CONTENTS

お客様の利便性・快適性の向上	P.60
お客様との対話	P.64
多世代が生活しやすい沿線づくり	P.66
地域社会への貢献	P.68
人材の活用と働きやすい職場づくり	P.72
株主・投資家・取引先等への取り組み	P.75

12 つくる責任
つかう責任



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



地域社会の持続的な発展とお客様の幸せな暮らしの実現に向け、沿線地域の課題解決に貢献する取り組みを推進しています



取締役
専務執行役員
仲岡 一紀

会員制サテライトオフィス
KEIO BIZ PLAZA

京王グループは、鉄道、バスのほか、グループ会社を含めた幅広い事業を通じて、お客様にとって利便性が高く快適と感じていただけるような生活サービスをご提供することで、将来にわたって安心・便利で生き活きとした沿線づくりに取り組むことで、「住んでもらえる、選んでもらえる」沿線づくりを進めています。

鉄道をご利用になるお客様のオフピーク乗車等の取り組みとして、東京都が実施するスムーズBiz推進期間中に、夕間時間帯の時差通勤を促進するため、臨時座席指定列車「京王ライナー 時差Biz号」を運行しました。また、京王プラザホテル多摩内の会員制サテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」にて会員登録なしで手軽に施設を利用できるキャンペーンを展開するなどの取り組みが評価され、東京都から「スムーズBiz推進大賞推

進賞」を受賞しました。

多世代が生活しやすい沿線づくりを目指し、仕事と子育ての両立支援に資する保育所の運営、日常の買い物に不便なお客様、また、新型コロナウイルス感染症を受けて自宅近くの屋外で買い物をしたいというお客様のニーズにお応えした移動販売など、地域社会が抱える課題の解決に貢献する取り組みを積極的に推進しています。

一方、京王グループで働く社員に対しても、引き続き多様な人材が長期にわたって活躍できる環境づくりやダイバーシティ・マネジメントなどを推進してまいります。

今後も、様々なステークホルダーの皆様の声に耳を傾け、一つひとつ課題を解決していくことで、地域社会の持続的な発展と幸せな暮らしの実現に貢献してまいります。

京王グループとステークホルダーのつながり

京王グループ行動規範に基づき、ステークホルダーの皆様に対して以下のような取り組みを進めます。

- お客様の利便性、快適性の向上
- お客様との対話
- 多世代が生活しやすい沿線づくり
- 地域社会への貢献
- 地域社会・行政との連携
- 人材の活用と働きやすい職場づくり
- 株主・投資家・取引先等への取り組み



topics

■ スムーズBizへの取り組み

会員制サテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」によるテレワーク推進の取り組みや「京王ライナー 時差Biz号」の運行などが評価され、東京都から「スムーズBiz推進大賞推進賞」を受賞しました。



● サテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」

京王プラザホテル多摩2階にて、会員制サテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」を運営しています。職住近接を実現し、安心・快適に仕事ができる環境を提供しています。また、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、テレワークの場としても利用されています。

● 座席指定列車「京王ライナー 時差Biz号」の運行

2019年7月から8月にかけての平日20日間と、2020年1月の平日14日間、時差通勤を目的に、新宿発京王八王子・橋本行きの臨時座席指定列車「京王ライナー 時差Biz号」を運行しました。

2020年2月に行ったダイヤ改正では、平日朝間(新宿行き)および平日夕夜間(京王八王子・橋本行き)の京王ライナーを増発し、時差通勤時間帯への運行を拡大することで、ラッシュ時間帯の混雑緩和を目指しています。



京王ライナー 時差Biz号実施の概要

■ 大規模イベントへの対応

京王グループでは、2019年9月から11月にかけて開催されたラグビーワールドカップ2019™において、各社が連携して輸送・リスク・サービス向上・増収施策・社会貢献の5つの対応について分科会を開催し、対策を行いました。試合当日は試合会場の最寄り駅への臨時停車や外国人を含む多くのお客様へのご案内・誘導、多言語での駅構内・車内放送などを実施したほか、京王電鉄バスグループでは試合会場と駅間の輸送を実施しました。また、一部の試合開催日の翌日には、京王電鉄社員による会場周辺の清掃活動を実施しました。

その他レストラン京王では、会場となった東京スタジアム内の4カ所の売店を運営し、お客様の待機列の先頭に外国語が堪能なスタッフを配置し、外国人のお客様へのスムーズなご案内を心掛けるなど、大会の特性を踏まえた対応を行いました。



VOICE

レストラン京王
営業本部
下口 典昭



今回のラグビーワールドカップ2019™では多くの外国人のお客様にご来店いただきました。安全・安心への配慮では特に衛生面に注意して取り組みました。手洗いはもちろんのこと、消費・賞味期限チェックなどの衛生管理の徹底に力を入れました。おもてなしについてはお客様の待機列の先頭に外国語を話せるスタッフを常駐させ、カード決済の有無やメニュー内容の質問などにも対応できるよう体制で運営しました。

安全報告

社会性報告

環境報告

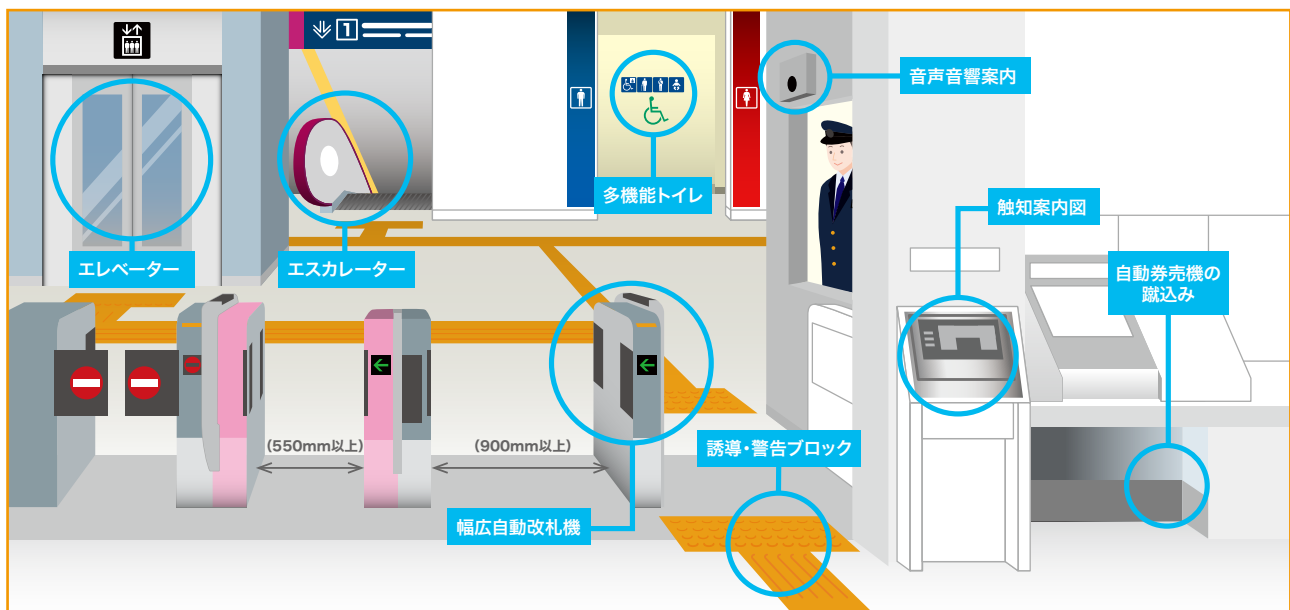
企業統治

お客様の利便性・快適性の向上

バリアフリー設備の整備や、外国語でのご案内を実施することで、すべてのお客様が安心して京王グループをご利用いただけるよう、サービスの拡充を進め快適性の向上を図ります。



駅サービスの向上



▶ エレベーター・エスカレーター・スロープ

全駅の出入口から各ホームまで、段差がなく移動できるよう、エレベーターやスロープを設置しているほか、エスカレーターを設置しています。エレベーターは66駅、エスカレーターは47駅に設置しています。2019年度は仙川駅のエスカレーターを増設したほか、新線新宿駅では誘導ブロックをJR新宿駅の南口に向けて整備しました。



仙川駅 エスカレーター



新線新宿駅 誘導ブロック

▶ お客様用トイレの環境改善

車いすをご利用のお客様や小さなお子様連れのお客様にも安心してご利用いただけるよう、「多機能トイレ」を68駅に設置しています。

また、お客様により快適にご利用いただけるよう、トイレの洋式便器化やリニューアルを進めているほか、2019年度は各駅に石鹸を設置しました。



飛田給駅のトイレ(リニューアル後) 多機能トイレ



▶ 幅広自動改札機

車いすをご利用のお客様や大きな荷物をお持ちのお客様などにご利用いただけるよう、通路幅を広くした自動改札機を68駅に設置しています。

▶ 触知案内図・点字による案内

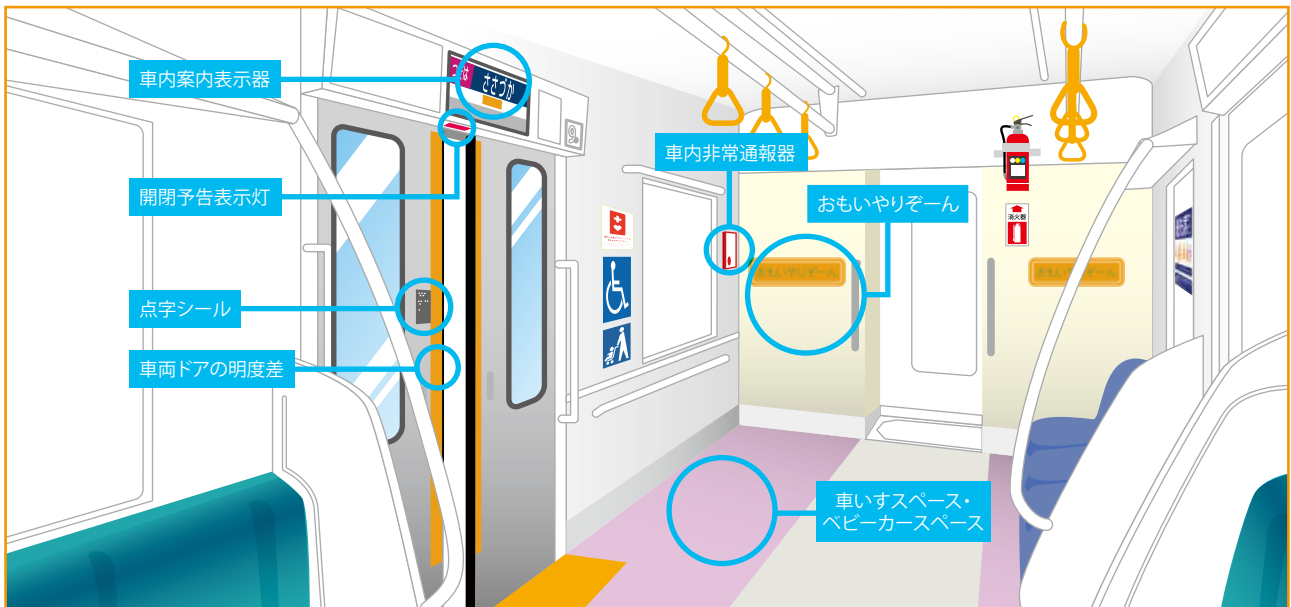
凹凸・点字・ピクトグラム(案内用図記号)を用いた案内図を全駅に設置しています。

▶ 駅係員呼出インターホン

ホーム上で緊急事態が発生した場合やご案内が必要な場合などに、駅係員と通話ができるインターホンを全駅に設置しています。



車内サービスの向上



▶ おもいやりゾーン

車内の優先席を明確化するため、優先席付近のつり革や座席の色を変えた「おもいやりゾーン」を設置しています。「おもいやりゾーン」付近では混雑時に携帯電話の電源をお切りいただくようご案内するなど、人にやさしい車内環境の整備に努めています。

▶ 車両のリニューアル

車両はユニバーサルデザインの考え方を採り入れ、すべてのお客様がご利用しやすい車内環境の整備を進めています。車いす・ベビーカースペースについては、全編成に設置しており、既存車両のリニューアルに合わせ、全車両に拡大します。2019年度は、京王線3編成(26両)、井の頭線3編成(15両)に整備しました。



ユニバーサルデザインによる車内の一例



車いす・ベビーカースペース

▶ 女性専用車

2000年に実施した試験導入の結果を踏まえて、2001年から平日23時以降に新宿駅を出発する急行系列車の最後部1両を女性専用車として運転を開始し、2005年から平日朝間・夕間の通勤時間帯にも拡大しました。

なお、女性専用車には女性のお客様の他、小学生以下のお客様、身体の不自由なお客様とその介助者の方もご乗車いただけます。

▶ 車内案内表示器の2画面化

車内ドア上に液晶ディスプレイを2画面設置し、運行案内およびニュースや天気予報などのコンテンツ、交通広告を放映しています。2019年度は井の頭線3編成(15両)に整備しました。



駅・車内での情報提供

▶お客さま案内ディスプレイ

列車の発車時刻や種別・行先・停車駅などを文字でお知らせする行先案内盤を全駅に設置しています。

また、事故や災害などで列車の運行に支障が発生した際には、支障区間や振替輸送経路などを、視覚的にわかりやすく表示する「お客さま案内ディスプレイ」を全駅の改札口付近に設置しています。

一部のご案内については、英語表記や複数の路線での異常時の情報を表示できるよう改修を行っています。



▶京王アプリ

京王線・井の頭線の運行情報や列車の走行位置の状況が確認できる京王アプリを配信しています。

また、2020年から列車の運行見合わせなどの支障が発生した異常時には、迂回ルート候補にバス路線を追加しました。

▶タブレット端末の導入

お客様に分かりやすいご案内をするため、列車の最新の運行状況を確認する機能のほか、翻訳・筆談などのアプリを搭載したタブレット端末を全駅に設置するとともに車掌が携帯しています。



▶外国語による情報提供

外国人のお客様へのご案内の拡充を図るため、駅の看板や車内案内表示器などで4カ国語表記(日・英・中・韓)によるご案内を行っています。また、一部の車両には自動放送装置を導入し、日本語と英語による停車駅や乗り換えなどのご案内を実施しています。



運行情報提供用二次元コード

▶駅・電車内での公衆無線LANサービス

無料Wi-Fiサービス「KEIO FREE Wi-Fi」を20駅3施設において日本語、英語、中国語(簡体・繁体)、韓国語で提供しているほか、2017年9月に登場した5000系車両において「KEIO TRAIN FREE Wi-Fi」サービスを提供しています。

また、2019年から京王線・井の頭線全駅および列車内(一部の列車を除く)で、株式会社ワイヤ・アンド・ワイヤレスが提供する訪日外国人のお客様向けの無料Wi-Fi接続支援アプリ「TRAVEL JAPAN Wi-Fi」での接続対応を開始しました。



公衆無線LANサービス

グループの取り組み

▶バス

京王電鉄バスグループ・西東京バスは、路線バス(高速・貸切を除く)の全車両がバリアフリー対応となっています。車体が傾斜し乗降しやすくなるニーリング機能のあるノンステップバス982両をはじめ、リフト付きバス9両、スロープ付きワンステップバス11両を導入しています。



ニーリング機能付きノンステップバス

topics

■京王タクシー 買い物付き添いやお薬受け取り代行 などのサービスを開始

京王自動車では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う社会環境の変化を踏まえ、2020年6月8日から11月30日までの期間限定で、青梅市内のお客様を対象に、病院などへの付き添いや、買い物代行などのサービスを行う「京王すまいるサポートタクシー」を行っています。

これまでのタクシー業としての強みと、ノウハウを最大限に活用し、高齢のお客様を中心として、移動だけにとどまらないさまざまなニーズにもお応えするための、新たなサービスとして提供しています。



▶サポートタクシーサービス

●民間救急タクシー「サポートCab」

東京消防庁の救命講習を受講した乗務員が、緊急性が低く症状の軽い患者を搬送する民間救急タクシーサービスです。一刻を争うような重症患者に少しでも早く救急車を回す目的で導入しています。

●送迎サービス

「はぴママサポートタクシー」は、東京防災救急協会のマタニティーサポート講習を受講した乗務員による、妊娠中の外出時などにご利用いただけるサービスです。



マタニティーサポート講習の様子

はぴママサポートタクシーロゴ

▶高尾登山電鉄

高尾山には、年間約260万人の登山客が訪れており、訪日外国人のお客様も多いため、高尾登山電鉄では社内で英会話スクールを開催しています。

現在、ケーブルカーの車内放送では、観光案内および安全に関する一部の放送を英語で実施しています。今後も全従業員が英語でもご案内できるように、現場での演習を行い、実践的な会話を目指して取り組んでいきます。



社内の英会話スクールの様子

お客様との対話

京王グループに対する理解を深めていただくため、様々な形でお客
様との積極的な対話を行いながら、お客様からの声を事業活動にも
反映させています。

11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



積極的な広聴活動

▶京王お客さまセンター

お客様からのご意見・ご要望をいただいています。

2019年度は36,331件の声を頂戴し、うち31,800
件は鉄道に関するものでした。いただいた声に対して
は、速やかに回答しているほか、担当部署においてサー
ビス向上や従業員教育に活用しています。

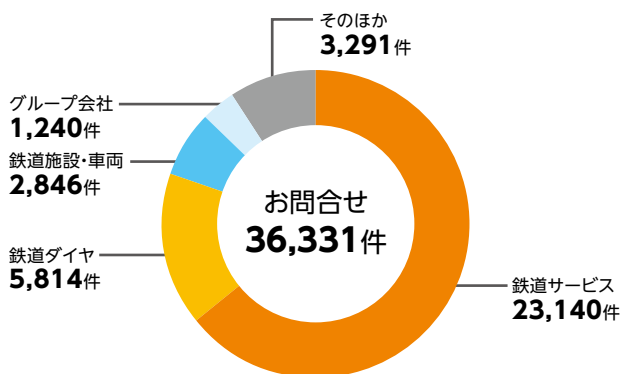
電話 042-357-6161

受付時間 9:00～18:00年中無休（年末年始を除く）

▶車内温度に関するご意見・ご要望

ご意見・ご要望が多い声の一つに、電車内の温度に
関するものがあります。ホームページ上に投稿フォーム
をご用意し、詳細な状況を伺うことで、適切な温度管理
に活用しています。

■ お客様の声（2019年度）



▶お客様満足度調査

電車の運行・ダイヤや、係員・駅施設のサービスレベ
ルなどについて、お客様満足度調査を定期的に行って
います。京王お客さまセンターには寄せられない、潜在
的なご意見を伺うことで、問題点の把握と改善に努め
ています。

ホームページや冊子における 多言語案内

▶ホームページ・Facebook

京王ホームページでは、英語、中国語（簡体字・繁体
字）、韓国語、タイ語、フランス語での情報案内をしていま
す。また、2018年3月に中国語（繁体字）のFacebookを
開始し、訪日リピーターの多い台湾・香港のお客様により
タイムリーな沿線情報の提供を行っています。



京王ホームページ（英語）

▶各種案内パンフレット・動画

京王電鉄では、外国人のお客様に京王沿線の観光ス
ポットを紹介する冊子や動画などを配布・公開していま
す。西東京バスでは、バスの乗降ポイントを英語、中国
語、韓国語で解説する動画を制作し、YouTubeで公開
しています。



沿線紹介動画
One Day Fun Day! Ride the Keio Line

沿線情報誌（英語・中国語・タイ語）



西東京バス
「バスの乗り方動画」

その他のコミュニケーション

▶ 交通教室

京王電鉄、京王電鉄バスグループ、西東京バスでは、地域の学校施設を訪問し、電車・バスの安全な利用の仕方やマナーについて動画などでわかりやすく授業を行っています。動画の教材は、京王ホームページやYouTubeなどでも公開しています。



けいおうくん安全・マナー教室動画

▶ ダイヤ作成教室

小学4年生～6年生を対象とした、鉄道のダイヤを学び、作る体験ができる「鉄道ダイヤ作成体験教室」を行っています。

当社の鉄道部門の社員（運転士経験者やダイヤ作成の担当者等）が講師となり、普段はなかなか知ることができない鉄道ダイヤの仕組みや作り方を学ぶことができます。

初めて鉄道について学ぶお子さまからより深く鉄道について学びたいお子さままで幅広く楽しめる内容となっています。



鉄道ダイヤ作成体験教室

グループの取り組み

▶ 京王プラザホテル

新宿・多摩・八王子の3ホテルのWebサイト上で、AI（人工知能）を活用し、お客様からのお問合せに多言語（日・英・中〈簡・繁〉・韓）で自動的に対応するチャットボットサービスを運用しています。このサービスにより、海外のお客様からのお問合せに時差を超え、即時に多言語で対応することができます。簡単なお問合せはAIを活用し、自動対応ができない複雑なお問合せにはスタッフが対応することで、お客様へのサービス向上につなげています。

改善活動事例のご紹介

—京王百貨店—



**優先エレベーターの表記を改善しました。
(2020年4月実施)**

新宿店内の「優先エレベーターに乗りづらい」というお声をもとに、車いすやベビーカーなどのお客様に優先的にご利用いただくエレベーターの表記をより分かりやすく改善しました。

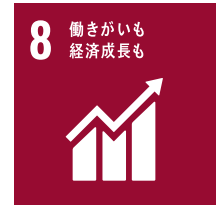
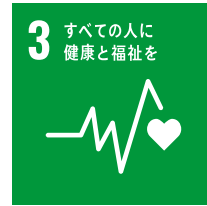
店内で目立つようピンク色に変更したほか、英語や中国語などの多言語表記としました。

今後もお客様からのお声をもとに多様なニーズにお応えしていきます。



多世代が生活しやすい沿線づくり

幅広い世代の方が生活しやすくなるよう、ライフスタイルに応じたサービスを提供することで、持続可能で住み続けられるまちづくりに貢献していきます。



子育て支援の取り組み

子育て世代へ幅広いサービスを提供し、子育てしやすい環境づくりを行っています。

▶京王キッズプラッツ

認可保育所・東京都認証保育所・企業主導型保育所「京王キッズプラッツ」は、家庭的な雰囲気の中、お子様一人ひとりの発達や気持ちに寄り添い、豊かな成長をサポートします。



京王キッズプラッツ

▶事業所内保育所「サクラさーくる」

多摩市の認可基準に基づく地域型事業所内保育所として、地域のお子様の受け入れも行っています。



事業所内保育所「サクラさーくる」

地域高齢者を支える事業

多様化するライフスタイルにあわせシニア向け住居の充実を図っています。

▶介護付有料老人ホーム「アリスタージュ経堂」

バリアフリーの居室と魅力的な共用空間を有するシニアレジデンスで、ご入居者の身体の状況に応じて、生活サポートサービスや介護サービスなど様々なサービスを提供しています。

▶サービス付き高齢者向け住宅

「スマイラス聖蹟桜ヶ丘」

快適な住み心地にこだわったバリアフリーの住戸と24時間体制の有人管理により、シニアの自由で安心な暮らしをサポートします。また、地域の方の利用も可能な在宅ケアサービスの拠点も併設しています。

施設内で、沿線の方を対象としたフレイル予防に関するセミナーも開催しました。



スマイラス聖蹟桜ヶ丘



セミナーの様子



暮らしのお手伝い

子育て世代からシニア世代まで幅広い世代の方にゆとりある暮らしの実現をお手伝いする生活サポートサービスの提供を行っています。

▶京王ほっとネットワーク

●移動販売

沿線地域(多摩市内・日野市内・八王子市内など)にて日常の買い物に不便なお客様を対象に移動販売を行っています。また、新型コロナウイルス感染拡大により、より多くのお客様にご利用いただいています。



「移動販売」の様子

VOICE

安心して買い物
いただけるよう
心がけています

京王ほっとネットワーク

高橋 幸司



新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、自宅近くの屋外で買い物ができる移動販売を利用される方が増えたため、保存できる食品や健康志向商品、家庭調理用食材、季節品などの品揃えを強化してお客様をお迎えしています。

地域の方々の集まりが自粛される中、お買い物時にご近所どうし声を掛け合うなどの姿が見られました。ご高齢のお客様には買い物を補助して差し上げるなど、毎回安心して楽しくお買い物いただけるよう心掛けています。

●家事代行

水まわりのお掃除やお洗濯などの家事全般のお手伝いに加え、お買い物や病院への付き添いにも対応し、お客様の安心・便利をお手伝いしています。



「家事代行」の様子

●住まいのサポート

襖・畳・障子の張替などの小修繕から、庭木のお手入れ、リフォームまで対応しています。住まいの相談窓口として、小さなお困りごとにもサポートします。

●空き家巡回

居住していない住居を定期巡回し、郵便物や施錠の確認、通水・換気や簡易清掃などを行い、写真付きでご報告します。少子高齢化が進む中、安心して暮らせる街並みを維持します。

▶京王メモリアル

葬儀や法要の施行のほか、終活のお手伝いや相続準備、葬儀に関する心配事等、沿線にお住まいのシニア層やそのご家族の不安を解消するため、幅広いお手伝いをしています。



終活相談の様子



京王メモリアルの葬儀ホール

地域社会への貢献

京王グループは、地域の活性化や課題解決、地域とのコミュニケーションなどに寄与する事業活動や社会貢献活動を通じて、地域社会とともに持続的な発展を目指していきます。



文化・教育・子育て支援イベント 京王アカデミープログラム



京王では、沿線の大学・団体などと連携して、沿線地域で育まれてきた多様で豊かな文化資産を見つめ直し、お子さまから大人まで幅広い世代に向けた「学びプログラム」を実施しています。

ともに学び、ともに創り、ともに育つ。

「京王アカデミープログラム」は、より豊かな京王沿線の暮らしに向けた、新しい学びのかたちです。

▶ 2019年度に実施した主なイベント

	実施イベント	対象	内容
教育	京王キッズおしごと隊	小学生と保護者	京王グループでの職業体験を通して、自分の将来の職業について考え、社会の仕組みを知るプログラム。
	高尾山峰中修行体験合宿	小学4年～6年生	高尾山薬王院での座禅、法話、写経、水行などを通して、自然の中で学びながら心に残る思い出をつくる一泊二日のプログラム。
文化	講演会 宇宙飛行士 毛利 衛 「宇宙から見える私たちの未来」	大人向け	沿線に多くの科学館があることから、宇宙に焦点をあて、宇宙飛行士であり日本科学未来館館長である毛利 衛氏による講演会。
子育て	子育てサロン ～親子で楽しむ！ 「音」と「カタチ」のアート体験～	4～6歳と保護者	東京家政学院大学と連携し、日頃なじみのある「音」をテーマに聴くことの楽しさや子育てのヒントを気軽に学ぶプログラム。

▶ イベントの様子

● 京王キッズおしごと隊



● 高尾山峰中修行体験合宿



● 子育てサロン

～親子で楽しむ!「音」と「カタチ」のアート体験～



子育てサロン参加者の声



保護者

日頃の子育てでは気づけないことがたくさんあり、とてもいい経験でした。子どもが感性のままにのびのびと取り組む姿が見られてとても良かったです。

チャリティ・スポーツ振興・産学連携

▶京王駅伝フェスティバル

2013年から、駅伝競技や親子ランのほか、キャラクターや学生・団体によるパフォーマンス、鉄道イベントなどを味の素スタジアムにて実施しています。参加料の一部は、「東日本大震災みやぎこども育英募金」「いわての学び希望基金」「東日本大震災ふくしまこども寄附金」へ寄付しています。



京王駅伝フェスティバル

▶京王音楽祭

1994年から実施しています。京王駅伝フェスティバルと同様に、入場料の一部を東日本大震災により被災した子どもたちのために寄付しています。



京王音楽祭

▶産学連携

沿線の大学や高校などと連携し、フィールドワークを通じて地域課題や活性化策に取り組むことで、学生の支援を行っています。



昭和女子大学と連携した茶道体験の様子

▶スポーツ振興

京王観光ではスポーツセールス専門の部署を設置し、中央競技団体、プロスポーツ、トップリーグといった様々な団体の遠征やイベント、国内・国際大会のオペレーションサービスやスポンサードを行っています。

2016年度に東京都から「東京都スポーツ推進企業」、2017年・2019年度にスポーツ庁から「スポーツエールカンパニー」「Sport in Life」に認定されています。



▶地域行事への参加

八王子まつり翌日の清掃活動を2017年から実施しています。

また、トリエ京王調布では、毎月1回、調布駅周辺の美化と地域交流を目的としてクリーン活動を実施しています。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、8月以降は中止しています



調布駅付近のクリーン活動の様子

沿線自治体との連携

▶コミュニティバス

京王電鉄バスグループと西東京バスは、利便性の高い街づくりに貢献するため、東京都内の13の自治体からコミュニティバスの運行を受託しています。



ちゅうバス(府中市)

▶調布市・多摩信用金庫との連携

調布市、多摩信用金庫と連携し、「調布市における空き家流通促進モデル構築事業に関する協定書」を締結しました。

本事業では、調布市の空き家実態調査を基に、アンケートを送付、本人合意を得た物件について、空き家の利活用に向けてのご要望などを伺います。当社は、グループ会社の幅広い知見を活かした空き家の利活用・管理サービスを提案し、調布市における空き家の増加抑制や流通促進を図ります。



協定締結式の様子

▶PFI事業

東京都のPFI事業として多摩地域ユース・プラザ整備等事業を京王ユース・プラザが受託し、閉校した都立高校を改修して「高尾の森わくわくビレッジ」を開館し、施設の運営、維持管理業務を行っています。

※PFI…公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金やノウハウを活用することにより、公共サービスの提供を行う事業手法



高尾の森わくわくビレッジ

▶指定管理者

京王グループでは、「高尾599ミュージアム」や「北野余熱利用センター」などの指定管理者として、自治体の施設等の管理・運営を行っています。



高尾599ミュージアム

▶感性AIと大阪府による産業振興に係る連携

感性AIでは大阪府と「大阪府内の産業振興に係る連携・協力に関する協定書」を締結し、「大阪府DX^{*}推進パートナーズ」に参画しました。大阪府内の中小企業に向けて、感性を精緻に定量化する技術を活用したソリューションを提案することで、課題解決とDX推進をサポートしていきます。

※DX(デジタルトランスフォーメーション)…企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること



topics

■ 中部地方との連携

中央道の高速バスエリアの関係自治体や事業者と連携して、新たな広域観光ルート(三つ星日本アルプスライン※)づくりや、観光情報の提供など様々な取り組みを行うことで、地域活性化に貢献しています。新宿駅「京王モール」内では、岐阜県・長野県・山梨県の自治体などが出展する観光案内所「中部地方インフォメーションプラザin京王新宿」を運営しており、飛騨高山をはじめとした各地域の観光情報を提供するとともに、高速バス乗車券の販売や観光PRイベントの開催なども行っています。

※中央道を主体に高速バスや地域の路線バスを使って松本・飛騨高山・白川郷・金沢をはじめとした中部地方を旅行することができる広域観光ルート

● 高山市への地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)を活用した寄附

高山グリーンホテルがある高山市に同市の観光振興を目的とした「企業版ふるさと納税」による寄附を実施しました。この寄附金は、近年観光客が増加している、市街東側の由緒ある寺社が立ち並ぶ「東山寺町・東山遊歩道」入口の「大雄寺広場整備事業」に充てられます。



高山グリーンホテルで開催された寄附贈呈式の様子

● 高速バスを利用した“貨客混載”による農産物の販路拡大

岐阜県高山市および長野県駒ヶ根市と連携し、高速バス「飛騨高山線」[伊那飯田線]のトランクを活用した「貨客混載」により、両地域の新鮮な農産物を東京へ輸送し、京王ストアや京王百貨店で販売しています。



高速バスを利用した貨客混載

● 高山グリーンホテル

2020年4月に京王グループの一員となった「高山グリーンホテル」は、2020年6月にホテル敷地内に客室・レストラン・宴会場を備えた新館「桜凜閣」をオープンしました。

客室の広さは33~80m²で、窓からの景色が堪能できるゆったりとしたレイアウトに加え、飛騨高山の美しい季節のうつろいや匠の伝統工芸をイメージした落ち着いた内装デザインで快適に過ごすることができます。

レストランの「ダイニングマルシェ グリーンコート」では、飛騨高山の食材や日本海の魚介類を様々なスタイルでお召し上がりいただけます。また、館内には温泉大浴場「本陣大浴殿」や市内最大のお土産処「飛騨物産館」もあり、飛騨高山の旅の楽しさを実感していただけます。



左の建物が新館「桜凜閣」

VOICE

飛騨高山の魅力を伝えていきます

株式会社高山グリーンホテル
宿泊・販売統括本部 宿泊部
フロントサービス

高橋 果歩

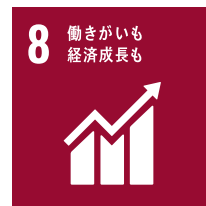


当ホテルはユニバーサルルームやバスタイムカバー等を備えており、あらゆるお客様に快適に過ごしていただけるような環境を整えております。

首都圏からもアクセスしやすい“心のふるさと”飛騨高山のホテルとして、より多くの方々にもその魅力を感じ、心地よい時間を過ごしていただけるよう、これからも努めてまいります。

人材の活用と働きやすい職場づくり

多様な価値観・ライフスタイルを持つ従業員がその能力を存分に発揮できるように働きやすく、働きがいのある職場環境づくりを目指しています。



人材雇用

▶ 公正な採用方針

京王グループは、厚生労働省が示す「公正な採用選考の基本」に基づいた採用活動を行っています。

▶ 人材雇用に関するデータ

■ 従業員数、平均年齢

	従業員数(人)	平均年齢(歳)
2015年度	2,447	40.2
2016年度	2,497	40.3
2017年度	2,518	40.4
2018年度	2,549	40.3
2019年度	2,547	40.4

■ 平均勤続年数

男性	18年2カ月
女性	10年4カ月

▶ 年休の取得率向上に向けて

「計画的な年次有給休暇の取得推奨」「年次有給休暇の半日単位付与」などにより休暇の取得を推進しています。

→取得率の推移はP.9

▶ 柔軟な働き方の実現

本社部門では「フレックスタイム制度」や「サテライトオフィス」などを活用することで、柔軟に働くことのできる職場環境を整備しています。

2019年度には一部の現業職場で「フレックスタイム制度」や「年次有給休暇の半日単位付与制度」を導入するなど、さらなる制度の充実に努めています。

働きやすい職場環境づくり

▶ 働きやすい職場環境づくりに向けた調査の実施

社員一人ひとりが主体的に働きやすい職場環境づくりをするために、無記名式アンケートによる「従業員意識調査」を実施しています。2019年に実施した調査では、対象3,078名のうち99.0%から回答があり、従業員の満足度は概ね良好な結果が得られました。

健康で安心して働ける環境づくり

▶ 心と身体健康増進施策

社員一人ひとりが心身ともに健康で、安心して働くことのできる職場を目指し、様々な施策を実施しています。

事故に遭遇した乗務員などのストレスを軽減するため、専門のカウンセラーが心理面をサポートする仕組みを2020年4月に導入するなど、社員のメンタルケアの充実に取り組んでいます。

また、禁煙外来を利用した際の費用補助制度を新設し、社員の卒煙を支援しています。

▶ 衛生講演会・メンタルヘルスケア

定期的に衛生講演会を開催し、診療所の産業医や外部講師により健康に関する講演を行っています。また、法令に基づくストレスチェックを実施し、高ストレス者と判定された社員には産業医との面談を促し、必要に応じて専門医による相談を実施しています。



医師による面談

▶ 社員の健康管理

企業内診療所を設置し、定期健康診断のほか医療相談・保健指導・社員を対象とした内科外来を実施しています。産業医と医療スタッフが各職場と連携し、社員個人の健康維持と、職場全体の環境整備に取り組んでいます。





ダイバーシティ・マネジメントの推進

▶ 仕事・育児・介護の両立支援

育児・介護ともに休業制度・短時間勤務制度について、法定以上の制度を有しています。特に本社部門では、自宅で育児や介護をしながら働く社員を対象とした在宅勤務制度を2020年度に導入しました。

また、鉄道事業の現業職場では勤務サイクルの工夫により、育児や介護に携わる社員が同じ仕事を続けることを可能にしています。

その他、育児・介護が理由で退職した社員を対象とした再入社制度などを整備しています。

■ 育児休業取得者数・育児休業復帰率

	取得者数(人)	うち男性(人)	復帰率(%)
2015年度	28	4	95.7
2016年度	29	4	100.0
2017年度	40	7	100.0
2018年度	29	5	100.0
2019年度	20	6	100.0

▶ ライフステージに応じた両立支援

2020年度には、不妊治療のための休職制度の導入や、不妊治療やがん治療、配偶者の転勤により退職した社員を再入社制度の対象とする制度の拡充を行いました。多様化するライフスタイルに応じて、様々な両立支援制度の整備に取り組んでいます。

▶ 資産形成支援策(確定拠出年金制度への移行)

2020年4月には、退職年金制度を確定給付年金制度(DB)から確定拠出年金制度(DC)へ移行しました。確定拠出年金とは、毎月掛金を拠出、運用し、セカンドライフの資金として年金等で受け取ることのできる制度です。これにより、各人が自身のライフプランを考え、主体的に資産形成を行うことが可能となりました。さらに、社員の希望により、掛金を追加拠出できる制度や前払退職金として受け取ることのできる仕組みを導入し、様々なライフプランを実現するための資産形成を支援しています。



VOICE

家族の絆をより深めることができました

鉄道営業部 若葉台乗務区
指導運転士兼車掌

武笠 智明



第2子出産時に、妻の仕事と育児の両立を図るため、職場の協力のもと約3カ月間の育児休業を取得しました。いざ育児に参加すると慣れない事ばかりで、育児書を読み込む毎日でしたが、妻と協力し合い、役割分担をしっかりと行い育児に向き合うことができました。

育児休業を取得したことで、入浴や一緒に公園で遊ぶ時間が増え、子供たちの成長と笑顔を感じることができる大切な時間を一緒に過ごし、家族の絆をより深めることができました。この経験を活かし、男性も育児に参加する意義を伝え、職場においても中心的な役割を担っていきけるようになりたいです。

topics

■ 介護相談窓口を新設

高齢化や就労期間の長期化などにより、介護と仕事を両立して働く社員が増加することが見込まれることから、両立支援の施策として、医療法人社団めぐみ会と提携し社員専用の介護相談窓口を新設しました。相談窓口では、介護の公的サービスを受けるためのアドバイスなど、社員が介護を始める際の第一段階を支援するとともに、必要に応じて、会社の介護関連制度の利用などに関する支援も実施しています。

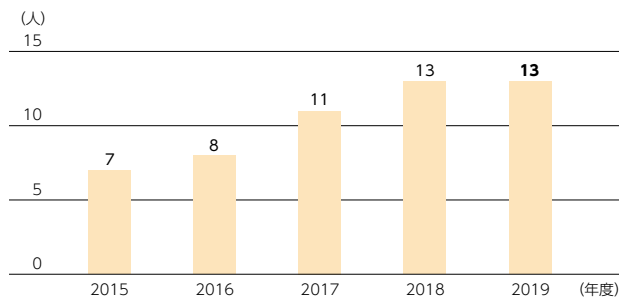


社員に配布したチラシ

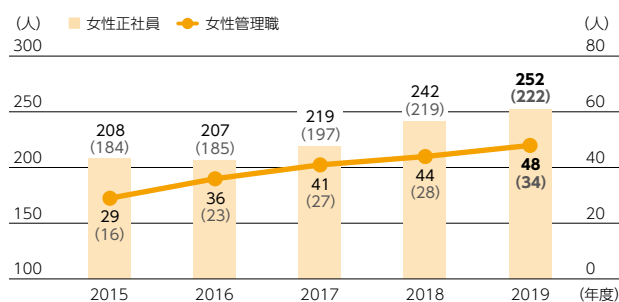
▶女性の活躍

グループ会社社長をはじめとして幅広く女性が活躍しています。また、「女性の課長級以上の管理職人数を2021年3月までに2016年4月と比較して5割増」とする数値目標を設定している他、女性総合職の新卒採用人数を総合職新卒採用人数全体の30%以上とし、2020年度に入社した社員のうち女性の占める割合は41.4%となりました。

■京王グループ女性役員数の推移



■グループ会社への出向を含む当社女性正社員と女性管理職の推移(休職者を除く)



※()はグループ会社への出向を含まない

■管理職における女性人数と比率(当社)

	管理職総数(人)	うち女性(人)	女性比率(%)
2015年度	314	16	5.1
2016年度	328	23	7.0
2017年度	340	27	7.9
2018年度	332	28	8.4
2019年度	340	34	10.0

■グループ会社への出向を含む女性の課長級以上の管理職人数

	人数
2015年度	12
2016年度	12
2017年度	14
2018年度	16
2019年度	20

▶外国籍の方の採用

海外関連事業に伴い、外国人の総合職社員を採用しており、現在3名が活躍しています。

また、京王グループ内でも様々な分野で多くの外国人社員を採用しています。

VOICE

京王プレミアホテル 札幌
姜ハンビョル

語学を生かし
やりがいを
感じています

幼い頃から憧れていた札幌で働きたいと考え、転職活動をしていた時に京王プレミアホテル札幌に出会いました。現在はフロントでの業務を中心に、やさしい同僚と一緒に毎日楽しく働いています。

インバウンドのお客様も宿泊することから、語学を生かして働けるため、非常にやりがいがあります。京王グループを信頼して選んでくださるお客様もいらっしゃるの、私は京王グループの一員であることに誇りを持っています。宿泊するお客様が良い思い出を作れるよう、今後も最高のサービスをご提供してまいります。

▶高齢者再雇用

2006年から「継続雇用制度」を実施しており、2019年度の再雇用割合*は80.0%でした。

※該当年度における継続雇用者数/定年退職者数

▶障がい者雇用

2004年に特例子会社「京王シンシアスタッフ」を設立しました。2006年からは、関係会社特例認定を取得し、京王グループ全体の障がい者雇用も拡大し、社内施設の清掃業務、名刺作成、事務補助作業などに従事しており、実雇用率は基準以上となっています。当社では、2016年度から「障害者相談窓口」を設置しています。

■障がい者雇用と雇用割合

	障がい者数(人)*	実雇用率(%)*
2015年度	170	2.5
2016年度	181	2.6
2017年度	181	2.6
2018年度	177	2.5
2019年度	181	2.6

※障がい者雇用促進法に定める計算方法に基づく

株主・投資家・取引先等への取り組み

持続的な成長と企業価値の向上を図るため、株主・投資家の皆様や取引先との対話を促進するための諸施策に取り組んでいます。

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



株主・投資家の皆様との対話

▶ ディスクロージャー・ポリシーに基づいたIR活動 (Investor Relations)

株主・投資家への情報開示に向けた基本的な考え方として、2006年4月に「ディスクロージャー・ポリシー」を制定し、これに基づきIR活動を実施しています。当社グループの業績や中長期計画を中心とした財務情報の提供に加え、当社グループの将来像やCSRに関する取り組みなどについて、株主・投資家と活発な対話（意見交換）を行うとともに、得られた声を社内で共有し、適切に経営に反映させるよう努めています。

▶ 株主・投資家との対話事例

取り組み	時期	内容
決算説明会	年2回	社長をはじめとした経営陣幹部が、証券アナリストや機関投資家に対して、当社グループの業績や将来像などを説明するとともに、質疑応答を行い、経営陣幹部の考えを直接伝えています。
スモールミーティング	適宜	当社グループの業種や中長期計画の内容への理解を深めていただくため、証券アナリストや機関投資家と、財務・情報開示担当役員との間でミーティングを開催しています。
個別取材	年50件以上	経理部長やIR業務の担当者が、証券アナリストや機関投資家と個別に面談（電話形式を含む）し、業績の内容や事業の具体的な取り組みなどについて、1回あたり約1時間の意見交換を行っています。
施設見学会	適宜	実際の物件を見学することで事業内容の理解を深めていただくため、証券アナリストや機関投資家を対象に、適宜見学会を開催しています。また、個人株主を対象に、2019年8月と9月に「京王れーるランド」および「LYURO東京清澄・12 SHINJUKU」の見学会を開催しました。
ホームページでの情報開示	適宜	投資判断に影響を及ぼすと考えられるIR情報を、当社ホームページに積極的に開示しています。公平性のさらなる向上を図るため、「決算説明会資料」を中心に開示内容の充実を図っています。



決算説明会



個人株主向け
京王れーるランド見学会



個人株主向け
LYURO東京清澄見学会

取引先への取り組み

▶ 公正・誠実な購買活動の推進

京王電鉄では、京王グループ行動規範に基づき、日々の調達活動を行っております。法令・社会規範の遵守や地球環境への配慮など企業の社会的責任の観点から、そうした活動を明確化するため、京王電鉄において社内規程にそれらの要素を反映し、再整備しました。社内および取引先各社に対し、当社の公正・誠実な購

買活動についての理解と協力を得ることで、今後もより良い関係の構築を目指します。

▶ パートナーシップの強化

2020年2月に取引先との懇親会を開催し、対話や交流を通して、信頼関係構築につなげました。



環境報告

環境保全の推進

岩手県宮古市において、太陽光発電事業を開始したほか、リノベーションの手法を活用した既存建物の再生など、低炭素社会や循環型社会を目指した取り組みを進めています。また、沿線の豊かな自然の大切さを学んでいただくために、沿線団体と連携したCSRイベントなど自然共生社会を目指した活動を行っています。京王グループ一体となった取り組みを推進し、持続的発展が可能な社会の実現に貢献していきます。





CONTENTS

環境方針	P.79
環境マネジメント	P.80
低炭素社会を目指して	P.82
循環型社会を目指して	P.86
自然共生社会を目指して	P.88
環境関連データ	P.90

15 陸の豊かさも
守ろう



環境保全に向けた取り組みを推進し、
持続可能な社会と、豊かで居心地の良い街づくりを目指します



取締役 常務執行役員
(環境管理責任者)

南 佳孝

京王バスグループで導入
した燃料電池バス

京王グループは、「京王グループ環境基本方針」「生物多様性行動指針」に基づき、環境にやさしい企業集団を目指し、職場ごとに環境目標を定め、達成に向けたPDCAサイクルを着実に回し続けるとともに、社員一人一人の環境意識の向上に継続的に取り組んでいます。

鉄道事業部門においては、列車走行時の消費電力を大幅に抑制する制御装置の全営業車両への導入を、大手私鉄に先駆けて2012年に完了しましたが、さらに削減効果に優れた制御装置への更新に、現在取り組んでいます。また、京王グループのバス事業では、CO₂や環境負荷物質の排出を抑制することで地球温暖化防止に貢献でき、走行音も静かな燃料電池バスを新たに導入しました。

開発事業部門では、サステナブルで環境にやさしいリ

ノベーションの手法を活用した既存建物の再生、照明のLED化やCO₂排出量の削減など、環境負荷低減に資する取り組みを推進したほか、再生可能エネルギーの活用として、岩手県宮古市で取り組んできた太陽光発電事業の施設が竣工し、2019年11月に事業をスタートしました。

そのほか、京王プラザホテルチェーンでの紙製ストローの導入や、連泊のお客様を対象としたエコステイの実施、沿線の自然環境の保全に向けた活動などにも取り組んでいます。

今後もグループ一体となって環境保全に向けた取り組みを推進し、持続的発展が可能な社会の実現と豊かで居心地の良い街づくりを目指してまいります。

京王グループ環境基本方針

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。

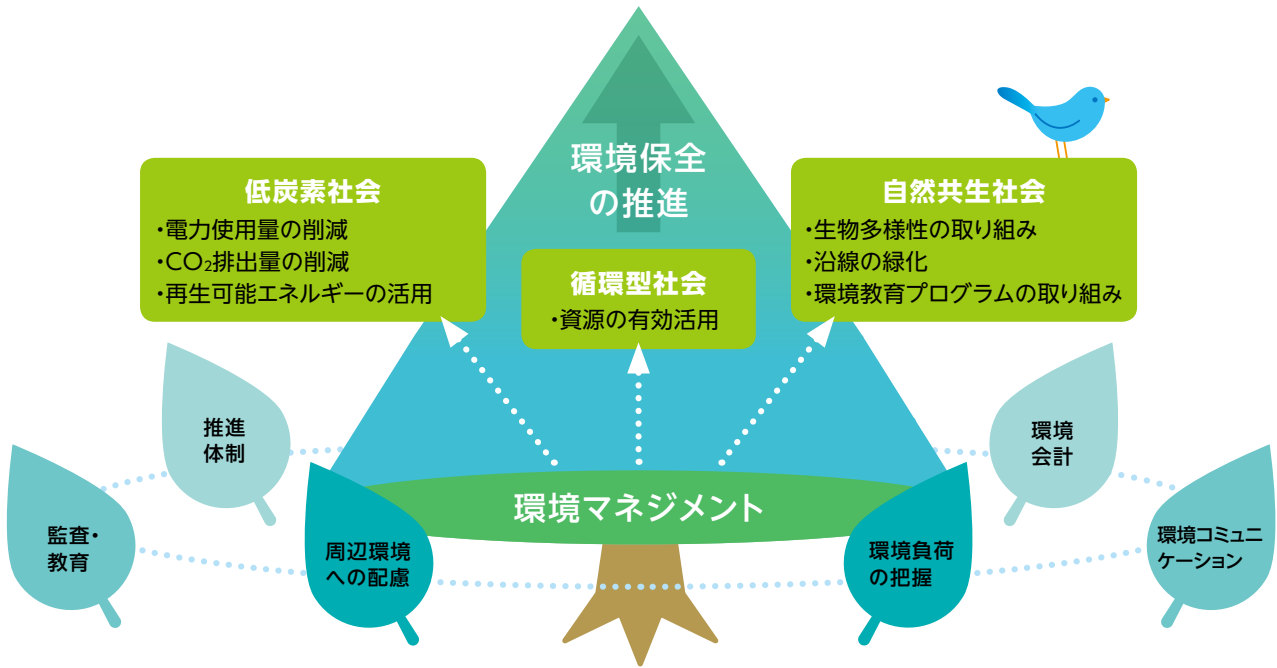
生物多様性行動指針

私たちは、生活に身近な事業を展開していくなかで、自然の恩恵を継続的に享受していることを認識し、持続可能な利用や自然と共生する社会の実現に向け、生物多様性に配慮した事業活動を行います。

環境方針

2000年11月に環境基本方針を制定し、環境法令遵守をはじめ、省エネや廃棄物削減、リサイクル、環境教育の実施などを推進してきました。その後、環境保全是グループ共通の課題であるとの認識から、2004年12月に「京王グループ環境基本方針」を制定し、環境マネジメントシステム(EMS)の継続的運用を通じて浸透を図っています。

環境方針概念図



中期環境目標

当社では、「国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)」において、2020年以降の地球温暖化対策の新たな指針となるパリ協定が採択されたことを踏まえ、中期環境目標を更新しました。

	中期環境目標	目標達成に向けての取り組み
鉄道事業部門	電車の運転用電力を2030年度に26%削減(2013年度比)	新型VVVFインバータ制御装置導入 車内照明のLED化実施 など
開発事業部門	東京都のCO ₂ 排出量削減義務(27%)の達成 第3計画期間(2020年度~2024年度)	照明のLED化など省エネルギー施策の推進 排出量取引制度の活用

環境マネジメント

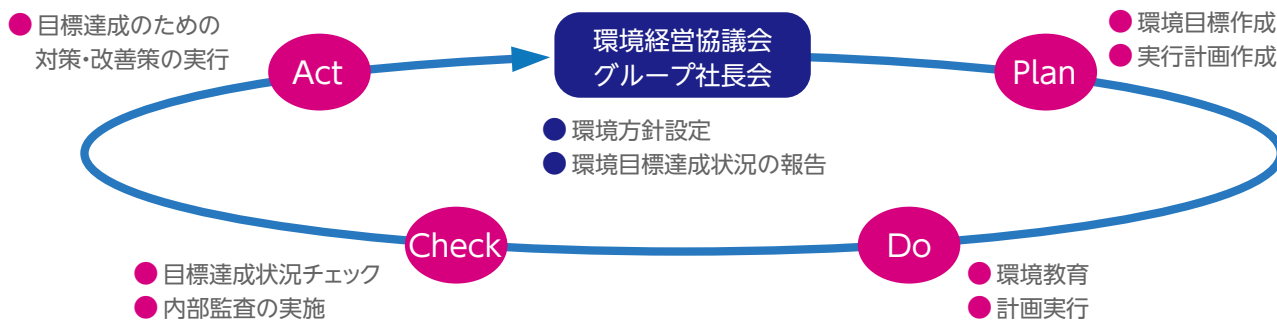
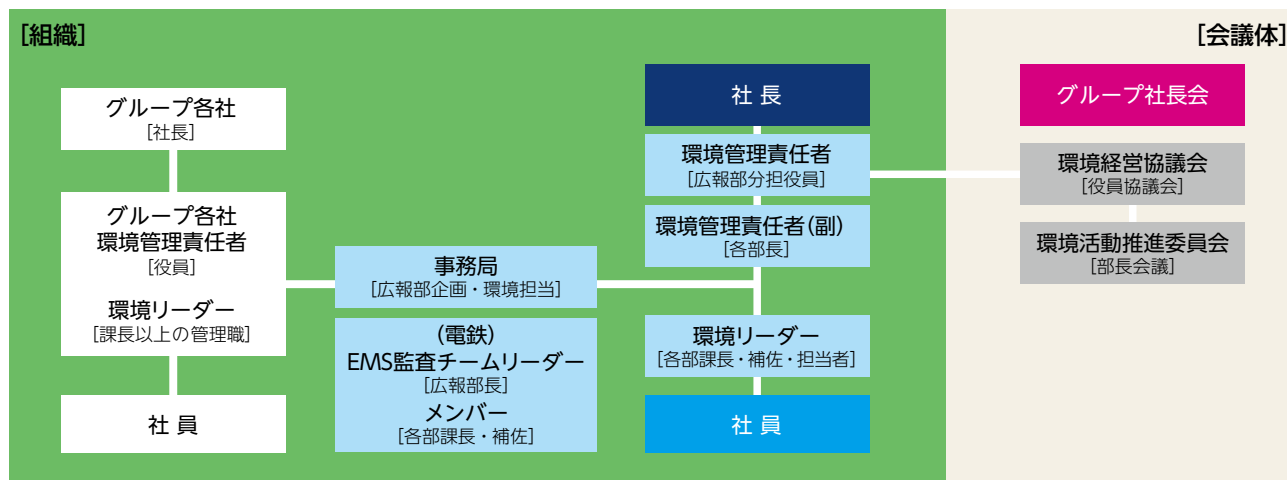
独自の環境マネジメントシステム(EMS)の構築・推進や、内部監査、従業員への環境教育を実施することで社内における環境意識向上を図るとともに、中期環境目標の達成に向けて取り組みを推進しています。

推進体制

当社は鉄道現業を含めたすべての職場において、ISO14001を参考に独自のEMSを構築・推進し、環境経営協議会において経営層へ報告・承認を受けています。また、グループ社長会を通じて各社に環境マネジメントを徹底しています。

グループ会社では、ISO14001を3社、グリーン経営認証を6社、エコアクション21を1社で取得し、その他の各社はISO14001またはエコアクション21を参考にしたEMSに取り組んでいます。

▶京王グループEMS推進体制



▶京王グループ各社の第三者認証取得状況

分類	会社名
ISO14001	認証取得(3社) ● 京王設備サービス ● 京王建設 ● 京王エージェンシー
グリーン経営認証	認証取得(6社) ● 京王電鉄バス ● 京王バス東 ● 京王バス中央 ● 京王バス南 ● 京王バス小金井 ● 京王運輸
エコアクション21	認証取得(1社) ● 東京特殊車体

監査・教育・コミュニケーション

▶EMS内部監査

EMSの有効性と環境活動の推進を図るため、毎年各部署管理職1人以上のEMS監査員を選出し、新任監査員はコンサルタントによる専門教育を受けた後、部署間相互による内部監査を実施しています。

▶環境教育

環境意識やEMS理解度の向上など必要性を明確にした上で、環境教育を実施しています。

■ 主な教育実績(2019年度)

名称	時期	対象	人数
京王グリーンキャンペーン	5月	グループ社員、一般	862名
EMS監査員養成研修	11月	新任監査員	6名
環境eラーニング	1月	京王電鉄社員	1,335名

▶CSR・環境コミュニケーション

京王グループの活動に関する情報は、以下の媒体で公表しています。



京王こども百科



京王ニュース



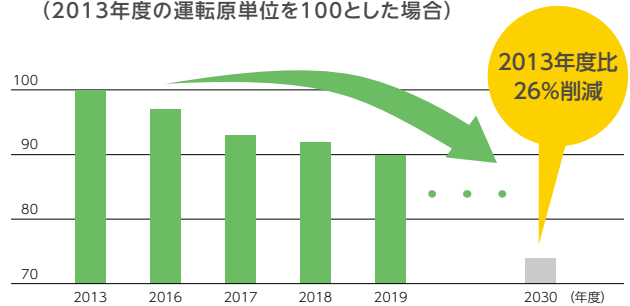
京王ホームページ

中期環境目標(P.79)の達成に向けて

▶鉄道事業部門

2030年度における運転原単位(1車両が1km進む際に使用する電力量)を2013年度比で26%削減することを目指します。2019年度は2013年度比で約10%の削減となりました。

■ 電車の運転用電力削減推移 (2013年度の運転原単位を100とした場合)

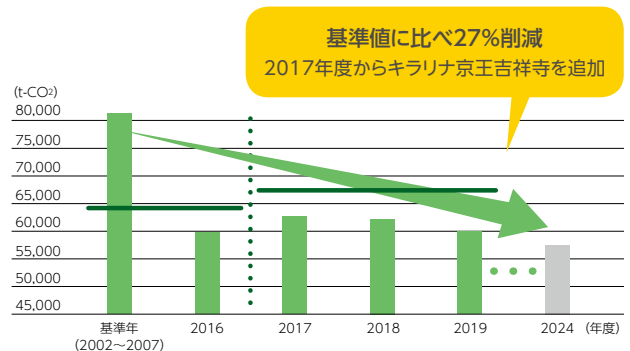


※車両の走行に関する性能(理論値)に限定して原単位を算出しています。

▶開発事業部門

2019年度のCO₂排出量は58,930t-CO₂となり、排出基準量の約27%の削減となりました。当社では引き続き東京都のCO₂排出量削減義務の達成を目指します。

■ 大規模ビル9物件のCO₂排出量削減実績と目標 (東京都環境確保条例の削減義務 第2計画期間)



※京王プラザホテル(新宿)、京王プラザホテル八王子、京王プラザホテル多摩、京王品川ビル、京王八王子明神町ビル、京王百貨店新宿ビル、京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター、京王八王子ショッピングセンター、2017年度からキラリナ京王吉祥寺を追加

※「基準値」とは、2002~2007年度のうち任意の連続した3カ年におけるCO₂排出量の平均値をいいます。

※第三計画期間(2020~2024年度)から京王八王子明神町ビルを除外

低炭素社会を目指して

京王グループでは事業活動における環境負荷を低減することで、CO₂排出量の削減を目指し、地球温暖化防止に貢献していきます。



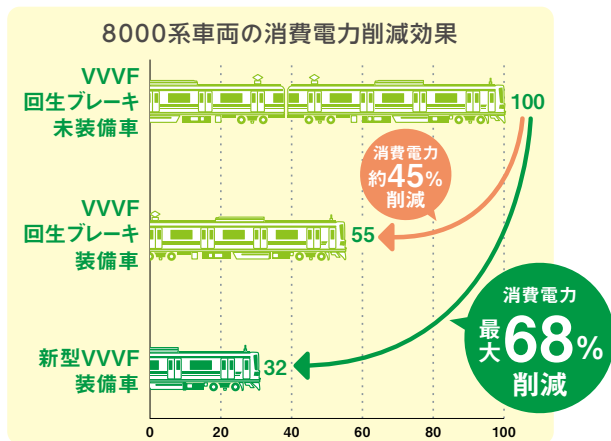
鉄道における電力・CO₂排出量削減の取り組み

鉄道事業では1年を通じて多くの電力を消費することから、少ないエネルギーで効率的に動くことができる「環境にやさしい鉄道」を目指しています。

▶ 走行用電力の削減

● VVVFインバータ制御装置

VVVFインバータ制御装置とは、電車の加速力や速度などに応じて電圧や周波数を変化させながらモーターを効率良く動かす装置です。当社では1992年に初のVVVF車両として導入して以降、継続的に導入を進め、2012年に全営業車両のVVVFインバータ制御化を大手民鉄で初めて完了しました。2015年から、さらに消費電力削減効果に優れたVVVFインバータ制御装置への更新を進めています。2019年度は、8000系3編成、1000系3編成を新型に更新しました。



※横軸は未装備車の使用電力量を100とした場合の数値

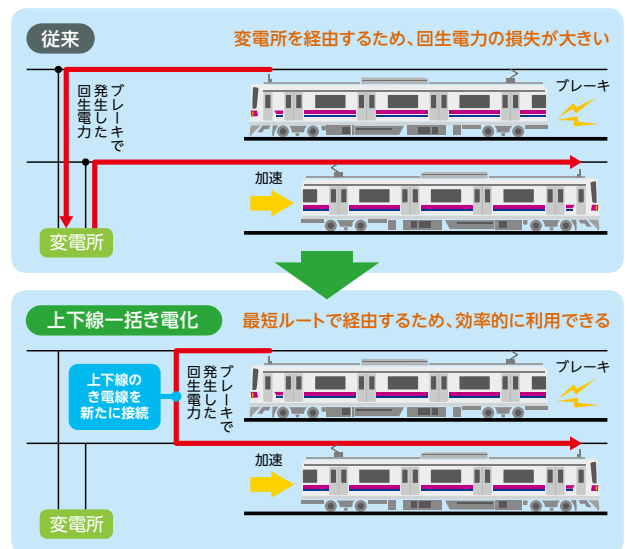
▶ 走行用電力の再利用

● 回生ブレーキ

回生ブレーキとは、電車がブレーキをかけた際にモーターを発電機として作動させ、発生した電力(回生電力)を架線に戻すことで他の電車が使えるようにする装置です。1999年に全車両への装備が完了しました。

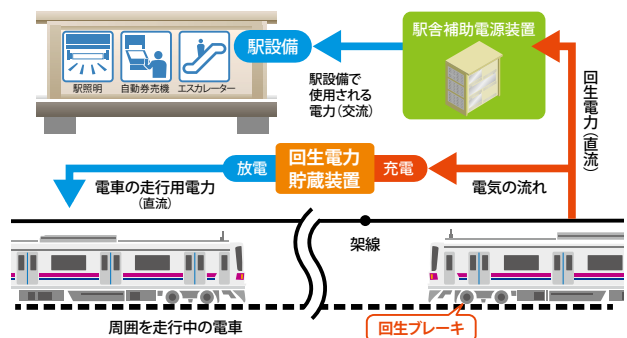
● 上下線一括き電化

上り線と下り線のき電線(電車に電気を供給する線)を接続することで、回生ブレーキで発生した電気を他の電車に最短ルートで送り、電気を送る際の損失低減を図ることができる設備です。当社では、2012年に井の頭線で整備しました。



● 駅舎補助電源装置

電車がブレーキをかけた際に発生する回生電力を駅設備で使用される電力に変換して、駅の照明や空調、エスカレーターなどに供給する装置で、東府中駅、高幡不動駅、北野駅、若葉台駅に導入しています。



▶ LED照明の導入

● 駅などのLED化

駅舎・ホームや車両基地に、従来の照明設備に比べて大幅に消費電力を削減できるLED照明の導入を進めています。また、柴崎駅～西調布駅間と調布駅～京王多摩川駅間の地下化にあわせて、トンネル内の照明設備にもLEDを用いています。



駅構内のLED照明

● 車両のLED化

車両の客室内照明にLEDを使用しているほか、消費電力が従来に比べ約5分の1となる車両前照灯のLED化を進めています。これにより、明るさは変わらずに交換サイクルが長くなることから廃棄物の削減にもつながっています。



車両のLED照明

● 自然採光

ホームやコンコースの屋根に自然採光の工夫を行うことで、照明の消灯に努めています。



自然採光の屋根

▶ その他の省エネルギー対策

● エスカレーター更新

老朽化が進んでいるエスカレーターについて、更新を進めています。一定時間ご利用がない場合に、運転速度を減速または自動的に停止する機能のあるエスカレーターへ更新することにより、従来より最大約35%の消費電力削減が図れます。2019年度は京王堀之内駅で更新しました。



京王堀之内駅
エスカレーター

● 遮熱・断熱フィルム

夏の冷房期、冬の暖房期に約10%の節電効果が期待される遮熱・断熱フィルムを電車の窓に順次貼り付けています。

京王線では634両、井の頭線では70両の客室内に整備しています。

● 環境配慮型の変圧器

脱化石資材・低炭素社会に配慮し、CO₂排出量を従来のものと比べ約65%削減できる変圧器を上北沢変電所に2基、駒場東大前変電所に1基導入しています。



上北沢変電所

グループによる電力・CO₂排出量削減の取り組み

▶電気バス・ハイブリッドバス

西東京バスでは、羽村市から運行を受託しているコミュニティバス「はむらん」において、定期路線バスでは日本初となる小型電気バスによる運行を行っています。

また、京王電鉄バスグループ・西東京バスではハイブリッドバスを51両導入しています。



小型電気バス(コミュニティバス「はむらん」)

topics

■燃料電池バスの導入

燃料電池バスは、走行時にCO₂や環境負荷物質の排出を抑制するなど、地球温暖化防止に貢献することができるバス車両です。エンジン音が静かなため、住宅街での走行も騒音が少なくなるほか、停電時には電気供給を行うことも可能です。京王バスでは燃料電池バスを2020年度に2台導入しました。



▶建物の省エネルギー化

キラリナ京王吉祥寺では、壁面・屋上緑化を行っており、壁面緑化の灌水には、井戸水を使用することで、水資源を守っています。また、氷蓄熱システムを導入し、電力需要の下がる夜間電力を利用して氷を作り、日中の冷房に利用することで、夏場のピーク時における省エネルギー化を図っています。

メルクマール京王笹塚では、緑化のほかにも、水平庇と高遮熱断熱ガラスなどを取り入れ、ヒートアイランド現象軽減などを行っています。



建物の省エネルギー化を図るキラリナ京王吉祥寺(左)とメルクマール京王笹塚(右)

▶Ecoパートナーに認定

キラリナ京王吉祥寺は、武蔵野市から、ごみ減量資源化推進事業所(Ecoパートナー)として認定、表彰されました。



▶LED照明導入

当社およびグループ各社では、ショッピングセンター・オフィス・ホテルなどの施設において、LED照明を積極的に導入しています。



京王プラザホテル本館フロントLEDシャンデリア

再生可能エネルギーの活用

京王グループでは、再生可能エネルギーの活用に積極的に取り組んでいます。



▶ 岩手県で「太陽光発電事業」を開始

岩手県宮古市において、2019年11月に太陽光発電事業を開始しました。



岩手県宮古市の太陽光発電システム

■ 太陽光発電事業の取り組み

	開始時期	設置パネル数	発電能力
神奈川県相模原市	2015年2月	1,021枚	302kW
岩手県宮古市	2019年11月	9,120枚	2,872kW



神奈川県相模原市の太陽光発電システム

循環型社会を目指して

京王グループでは、限りある資源を有効活用し、事業活動におけるリサイクル・リノベーション等を通じて循環型社会の実現を目指します。



資源の有効活用

▶車両洗車時の節水

京王線の若葉台工場では、「処理水再利用装置」を導入し、使用済みの水の汚れを取り除くほか、工場内の湧水を活用し、洗浄水などに利用しています。現在、利用している水の半分以上はこの装置により処理されたものです。

また、若葉台と高幡不動の車両基地では、車両洗浄に使用する水を従来に比べ約半分にできる節水型車両洗浄装置を導入しています。



節水型車両洗浄装置

▶リサイクル

●きっぷ

使用済みきっぷをリサイクルして、駅のトイレトーパーとして使用しています。

●ペットボトル

駅売店などで回収された飲料用ペットボトルをリサイクルし、駅の案内板に使用しています。

▶間伐材を使用したベンチ

一部の駅に木の温かみを感じられる木製ベンチを設置しています。素材には、多摩地域で発生した間伐材を使用しています。



▶車両のリニューアル・再生

京王重機整備では、現役車両のリニューアル工事や京王電鉄他を引退した車両の再生化工事を実施しています。全国の鉄軌道事業者のニーズに合わせ、新造車同様に再生した改造車両を、約200両提供しています。



伊予鉄道3000系 (元京王3000系)

▶緑化廃棄物処理

京王レクリエーションでは外部会社と協力し、桜ヶ丘カントリークラブのコースで発生した緑化廃棄物(折れ枝・落葉など)を、パルプチップやバイオマスチップにリサイクルすることで堆肥や燃料として有効利用する取り組みを行っています。

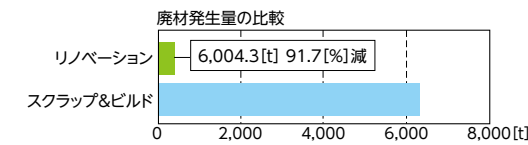
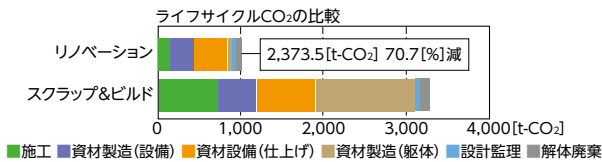


14 海の豊かさを
守ろう



▶環境負荷を低減した「リノベーション事業」を展開

既存建物を再生し、魅力ある住宅を供給するリノベーション事業は、限られた資源を有効に使い、CO₂排出を抑制する環境にやさしい手法です。例えば、リビタが手がけた「リノア多摩川CORTE」では、省エネ改修によって、ライフサイクルCO₂*1を70%削減、廃材発生量*2を91%削減することができました。



※1 ライフサイクルCO₂とは、建物の建設から運用、解体までのライフサイクルを通じて排出される二酸化炭素(CO₂)の量を指します。
 ※2 廃材発生量とは、建物を解体した場合に発生する材料を指します。建物と与える地球温暖化への影響を評価する指標です。

▶エコステイ

京王プレミアホテルでは、連泊のお客様を対象にシーツ、枕カバーを交換せずに清掃を行い、クリーニングの回数を減らして水資源保護・CO₂排出削減を図る「エコロジー清掃」を導入しています。

お客様には「ベッドリネン交換要望カード」で意思表示をしていただいております。



京王プレミアホテル札幌



ベッドリネン交換要望カード

topics

■ 築29年の複合ビルをリノベーション
「KIRO 広島 by THE SHARE HOTELS」

リノベーションホテル「THE SHARE HOTELS」の7号店となる「KIRO 広島 by THE SHARE HOTELS」が2019年9月にオープンしました。

既存物件に残っていた屋内プールを活用したパラウンジやシェアキッチンなどは、地域住民と観光客が交流できる、街に開かれたシェアスペースとなっています。



▶海洋プラスチックゴミ問題への対応

京王プラザホテルチェーンでは年間約43万本使用していたプラスチックストローを、2018年12月より新宿・多摩・八王子・札幌、4つのチェーンホテルで原則廃止し、紙製ストローへ移行しました。

その他、京王百貨店および京王ストアでは、お客様により一層のマイバッグの持参を呼びかけています。



自然共生社会を目指して

京王グループでは、生物多様性や森林保全などの取り組みを通じて、沿線の豊かな自然を次世代に引き継いでいきます。

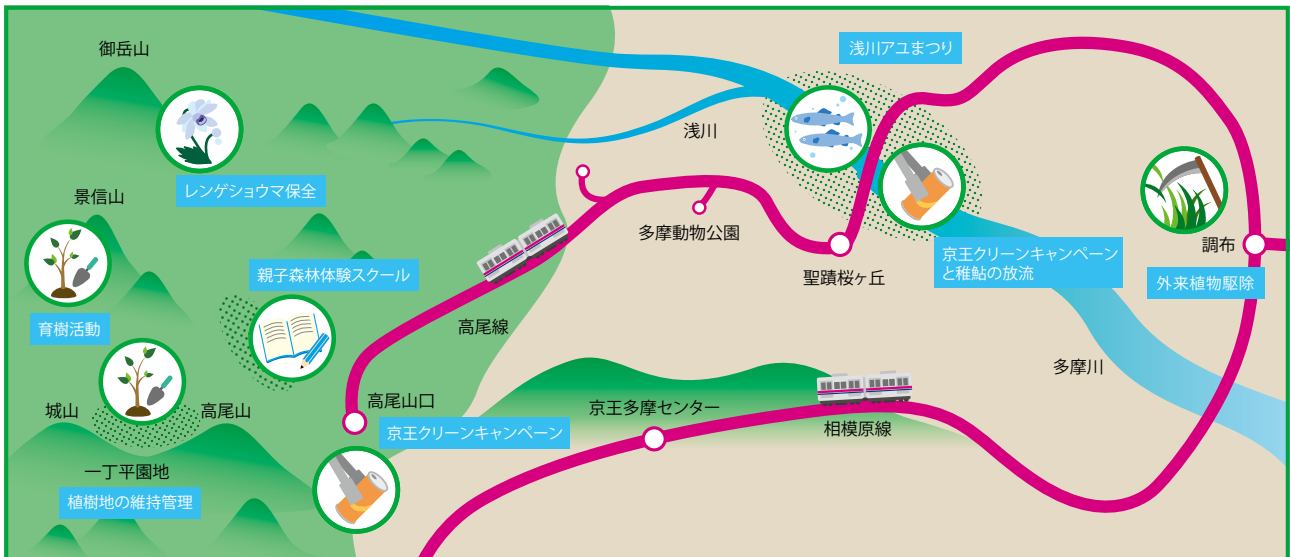
11 住み続けられるまちづくりを



15 陸の豊かさも守ろう



生物多様性の取り組み



▶京王グリーンキャンペーン

1991年から沿線地域の環境保全を目的に、毎年高尾山や多摩川の清掃活動を行っています。2019年5月には、高尾山で清掃活動を行い、一般のお客様と京王グループ社員合わせて862名が参加しました。



高尾山での清掃活動

▶外来植物駆除

多摩川には様々な外来植物が生育しており、在来植物の生育を抑圧するなどの悪影響を及ぼすとされています。そこで、生物多様性保全協会主催・調布市共催の「多摩川の外来植物駆除」に参加し、河川敷で駆除活動を行っています。



多摩川での駆除活動

▶浅川アユまつり

2017年から、日野市が主催する漁場としての川の保全・啓発活動「浅川アユまつり」に参加しています。



浅川アユまつりの様子

▶ツバメのフン受け板の設置

2014年から、ツバメが巣作りをする春から初夏にかけて、駅の設置可能な箇所に取り付けています。ツバメのフンでお客様にご迷惑をおかけしないこと、またツバメの生息環境にも配慮した生物多様性施策の一環です。



ツバメのフン受け板

▶ 森林再生への取り組み

2002年から日本山岳会「高尾の森づくりの会」が裏高尾(小下沢国有林)で行う森林再生活動を支援しており、累計約17,000本の苗木提供を行ったほか、下草刈りなどの育樹活動を行っています。

▶ 高尾の森 親子森林体験スクール

裏高尾において、日本山岳会「高尾の森づくりの会」と協力して、お子様と保護者の方に、植樹や下草刈りの体験、水生生物の観察などを通じて、森の大切さを学んでいただいています。



自然観察の様子



VOICE

森の大切さを
子どもたちに
伝えています

日本山岳会
「高尾の森づくりの会」代表

吉川 正幸



日本山岳会 高尾の森づくりの会は、景信山に近い北高尾の森で、20年間森づくりを行ってきました。毎月、小下沢にある小屋を拠点として、動植物の調査や間伐材を利用した物づくりなど多様な活動を続けています。

京王電鉄と協力して毎年春に14組ほどの親子を迎えて親子森林体験スクールを開催しています。広葉樹を植えるなど、森林での活動を通じて、山と緑の森は、私たち人間にも欠かせないものであることを子供たちに伝えています。

▶ 屋上庭園「ふくにわ」

「京王リトナード永福町」の屋上庭園「ふくにわ」は、地域の公園機能を代替し、コミュニティ庭園として利用されていることなどが評価され、都市緑化機構主催のSEGES(社会・環境貢献緑地評価システム)認定緑地に選ばれています。



屋上庭園「ふくにわ」

▶ 線路脇の緑化

1991年から、線路脇の雑草には除草剤を使わず、人の手による草刈りを行っています。また、降雨による法面の崩壊を防ぐとともに、お客様に沿線風景を楽しんでいただくため、線路脇へアジサイ・ツツジ・サザンカなどを植栽し、緑化を行っています。



線路脇の緑化

▶ レンゲショウマ保全

御岳登山鉄道は、御岳山に群生し絶滅危惧種に指定されている山野草「レンゲショウマ」の保全活動として、みたけ山観光協会などと協力し、群生地での下草刈りやハイキングコースの整備を行っています。



下草刈り作業



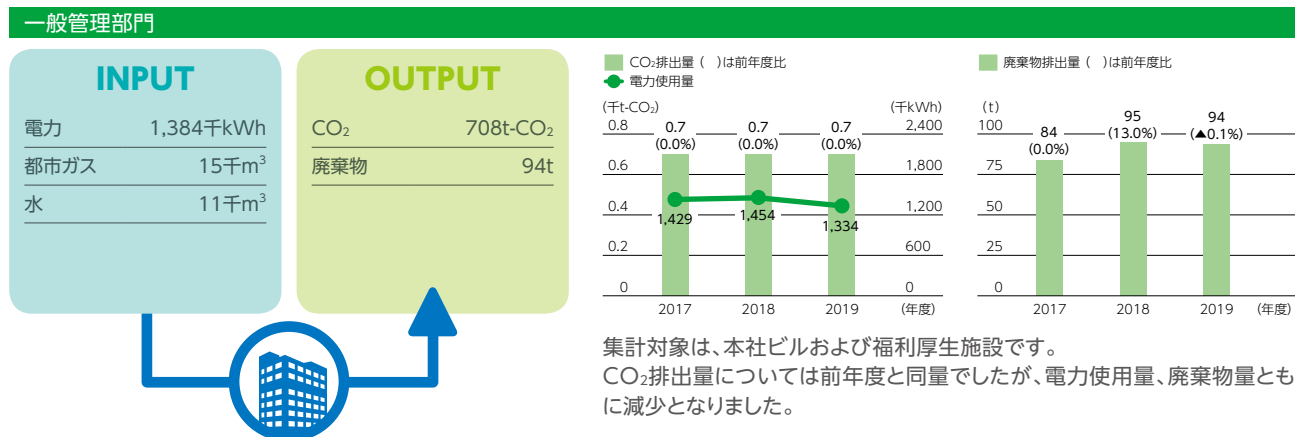
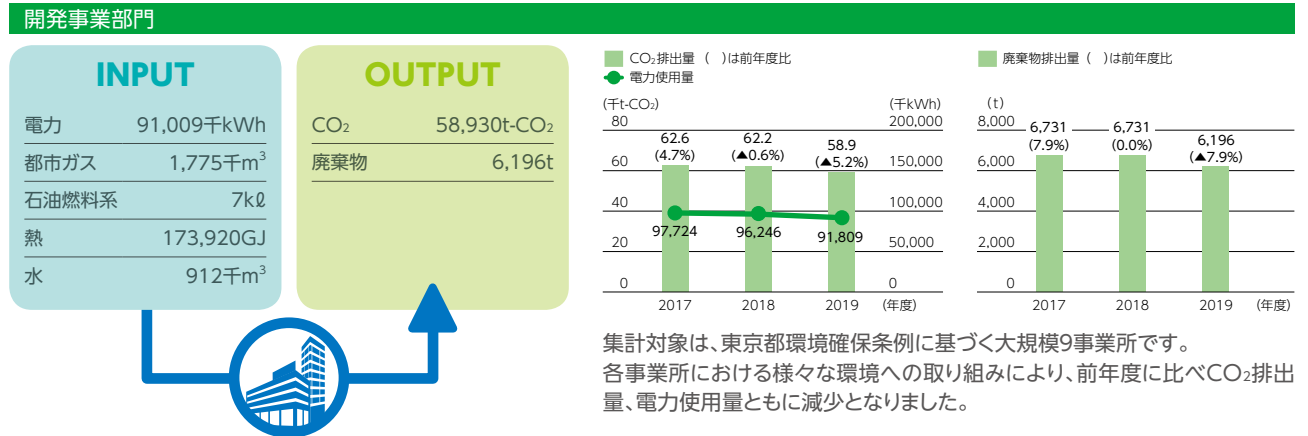
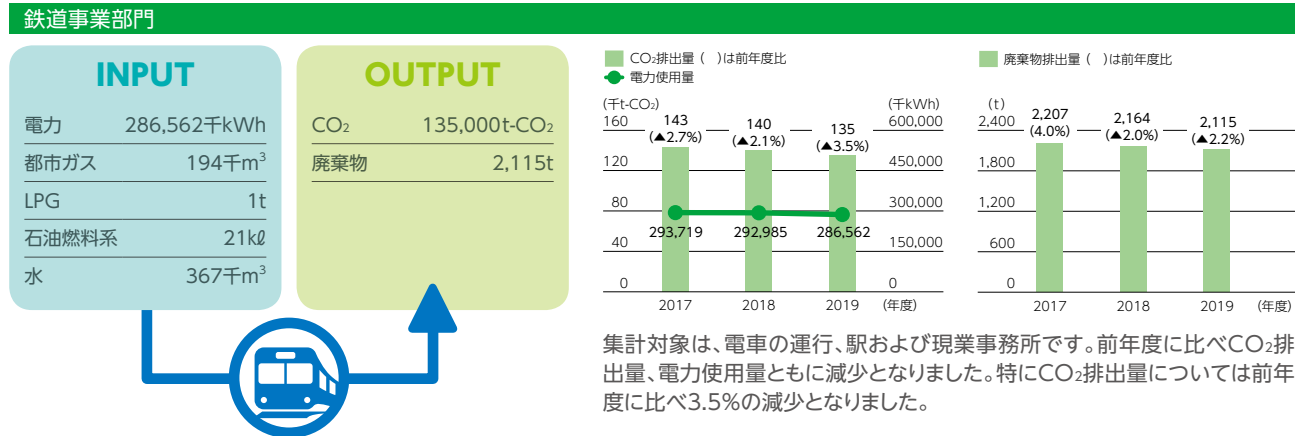
レンゲショウマ

環境関連データ

環境負荷の把握

当社には「鉄道事業部門」、土地・建物の賃貸・販売を行う「開発事業部門」、会社全般の管理業務を行う「一般管理部門」があります。それぞれの事業特性に応じて、資源の使用(インプット)とCO₂・廃棄物の排出(アウトプット)を定量的に把握し、企業活動に役立てています。

2019年度の環境負荷レビュー



環境会計

環境保全に向けて、2019年度は約69億円の環境投資・費用を行使しました。

当社は、環境負荷の低減に向けて、列車の騒音振動防止や、駅施設やオフィスビル・店舗などへの高効率照明をはじめとした環境配慮設備の導入による省エネルギー化、廃棄物の分別・リサイクルの推進に向けて、環境投資を継続しています。

2019年度は、オフィスビルなどで空調の効率化やLED照明を導入するなどの省エネルギー施策を推進しました。また、連続立体交差事業の進捗や省エネルギー化を図った新型車両5000系の新造などにより、全体で前年度比3.8%の増加となりました。

▶ 2019年度の環境保全コスト(投資・費用額)

(単位:百万円)

内容	主な取り組み	具体的な内容	投資	費用
(1) 事業エリア内コスト			4,673	2,178
① 公害防止コスト	●騒音振動防止 ●大気汚染防止 ●水質汚濁防止	◎連続立体交差化 ◎ロングレール敷設 ◎レール綱目補強 ◎草刈 ◎低VOC塗料への転換 ◎分岐器床板交換	2,195	715
② 地球環境保全コスト	●省エネルギー化 ●モーダルシフト ●オゾン層破壊防止	◎新型VVVFインバータ制御装置導入 ◎省エネ機器への更新 ◎可動式ホーム柵設置 ◎オフィスビル等の空調機更新・照明LED化	2,002	179
③ 資源循環コスト	●廃棄物減量 ●廃棄物処理・処分 ●廃棄物リサイクル	◎PASMO関連費用 ◎駅清掃費 ◎車両清掃費 ◎車両座席シート交換 ◎駅トイレ改修	476	1,284
(2) 管理活動コスト	●景観保持 ●自然保護・緑化 ●教育・啓発	◎植栽管理 ◎環境報告書制作	0	104
(3) 社会活動コスト	●自然保護・緑化 ●環境保全の寄付 ●社会的取り組み	◎京王クリーンキャンペーン ◎親子森林体験スクール	0	2
合計			4,673	2,284
コスト総計			6,957	

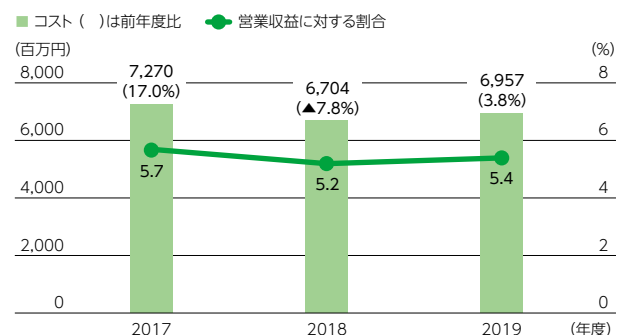
[対象期間]
2019年4月1日～2020年3月31日

[対象範囲]
当社の鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門で発生した環境保全コストを対象としています。
(京王グループ各社で発生したコストは含んでいません)

- [算定基準]**
- 「環境省環境会計ガイドライン(2005年版)」および「民鉄事業環境会計ガイドライン(2008年版)」を参考に集計しています。
 - 環境保全コストとして確実に把握したもののみ計上しています。
 - 減価償却費は計上していません。

※PASMOは、株式会社パスモの登録商標です。

■ 環境保全コストの推移





企業統治

コーポレート・ガバナンスの 充実・強化

京王グループでは、「京王グループ理念」に基づき、透明性・公正性を確保しつつ、迅速・果敢な意思決定を行うことにより、株主の皆様をはじめつながりあうすべての人からの信頼を確保し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をはかるため、コーポレート・ガバナンスの充実・強化を推進します。

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



16 平和と公正を
すべての人に



17 パートナーシップで
目標を達成しよう





CONTENTS

コーポレート・ガバナンスと内部統制	P.94
コンプライアンス	P.96
リスクマネジメント	P.97
情報セキュリティ.	P.97

コーポレート・ガバナンス



コーポレート・ガバナンスと内部統制

▶ 基本的な考え方

当社グループでは、「京王グループ理念」に掲げる「信頼のトップブランド」の確立を目指し、「京王グループ行動規範」に基づき、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり」を進めております。特に鉄道事業においては、皆様から信頼され、愛される鉄道になるため、「安全に関する基本方針」および「安全に係る社員の行動規範」を定め、全社員が一丸となって安全文化の構築に取り組んでいます。

鉄道事業者として、安全と事業の継続性を確保しながら、「京王グループ理念」に基づき、透明性・公正性を確保しつつ、迅速・果敢な意思決定を行うことにより、株主の皆様をはじめつながりあうすべての人からの信頼を確保し、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、当社ではコーポレート・ガバナンス基本方針に基づき、コーポレート・ガバナンスの充実・強化を推進してまいります。

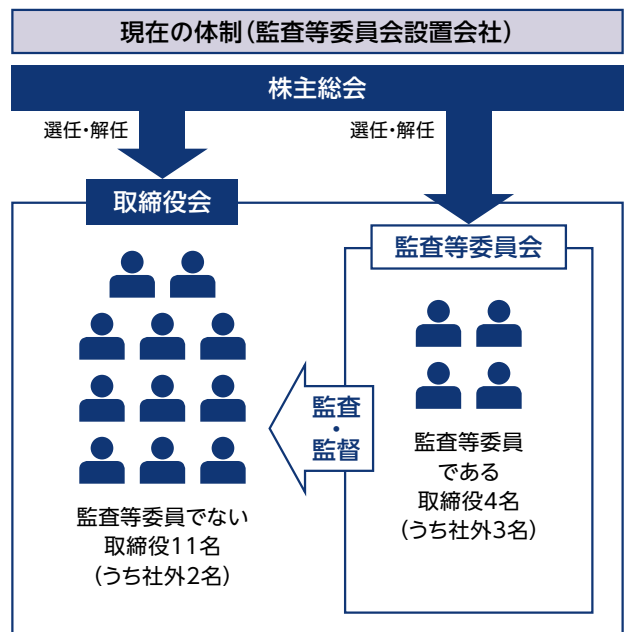
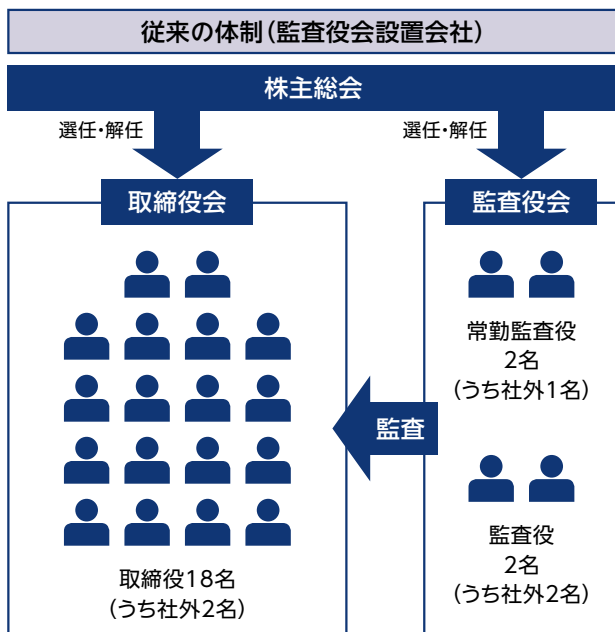
▶ コーポレート・ガバナンス体制

当社は、2020年6月26日をもって監査等委員会設置会社に移行するとともに、執行役員制度を導入した他、役員報酬制度を改定いたしました。

監査等委員会設置会社への移行により、監査等委員である取締役が取締役会で議決権を持つことで、監査機能を担いつつ取締役会の業務執行の監査機能強化を図るとともに、監査等委員会は内部監査部門と緊密に連携し、必要に応じて監査部に調査を指示するなど、内部統制体制のさらなる充実を図っています。また、執行役員制度の導入により、機動的な意思決定と業務執行を図り、当社グループを取り巻く経営環境の変化に迅速に対応できる体制を構築しています。加えて、報酬制度の改定では、基本報酬と年次業績連動報酬に区分・整理するとともに、中長期的な業績向上および株主価値の最大化に貢献する意識を高めることを目的に株式報酬制度を導入しました。

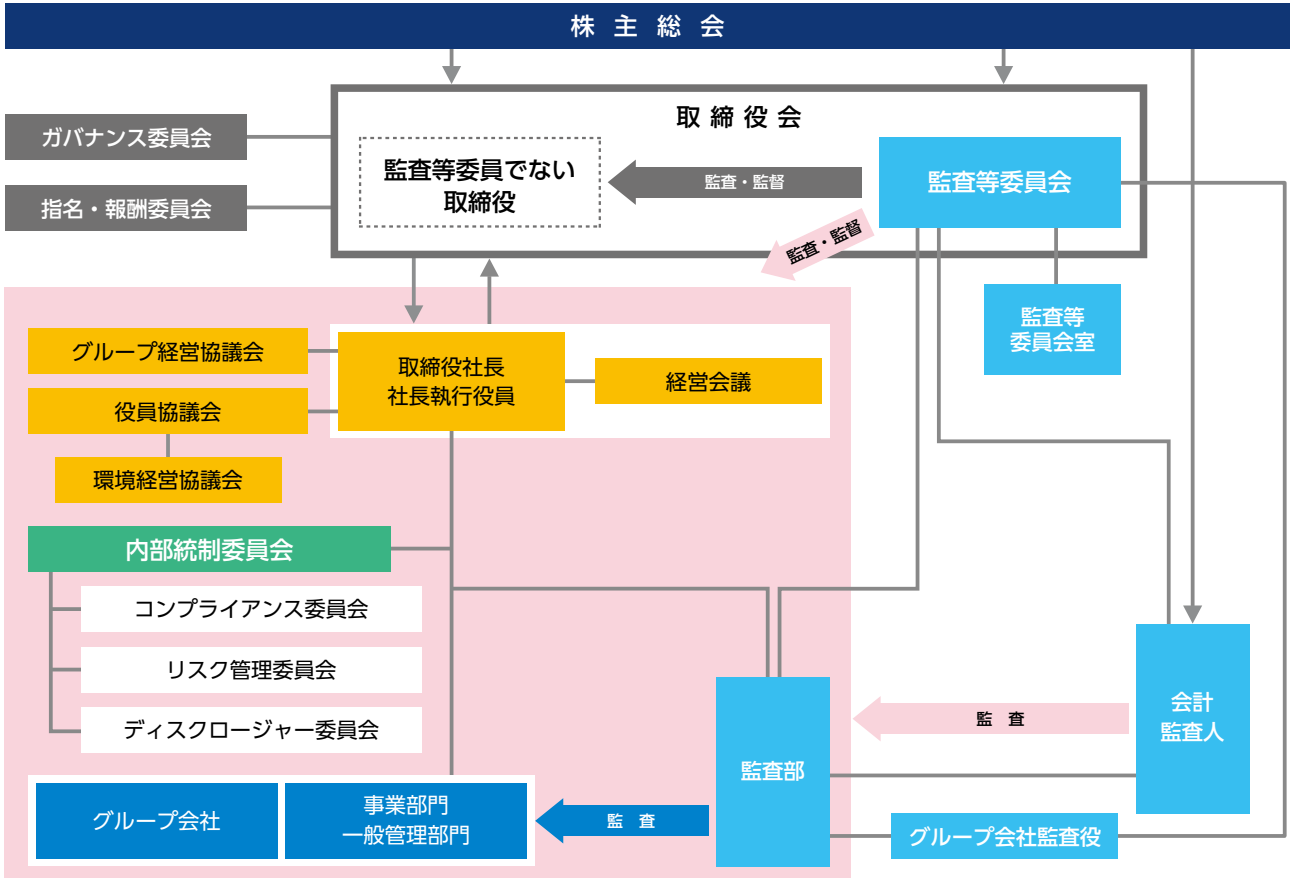
さらに、当社では社外取締役の選任により経営に対する監督機能を強化している他、取締役会の諮問機関としてガバナンス委員会および指名・報酬委員会を設置し、経営の透明性・公正性の向上に努めています。

監査等委員会設置会社への移行イメージ





コーポレート・ガバナンス体制 (2020年6月26日現在)



会議・委員会名	主な役割	2019年度開催回数
取締役会	法令で定められた事項、経営上の重要事項に関する決議、業務執行の監督	11
監査等委員会	取締役の業務執行についての監査・監督	15*
ガバナンス委員会	当社グループの企業戦略等やガバナンス体制に関する審議、代表取締役と社外取締役の連携強化(取締役会の諮問機関)	2
指名・報酬委員会	役員の人事、報酬に関する審議(取締役会の諮問機関)	2
経営会議	取締役会で決定された方針に基づく経営上の重要事項に関する審議決定	29*
内部統制委員会	グループ全体の内部統制の整備推進	4

*監査等委員会と経営会議の開催回数は、2019年度までの監査役会、常務会の開催回数です。なお、監査役会、常務会は2020年6月26日から監査等委員会、経営会議に移行しております。

安全報告

社会性報告

環境報告

企業統治

▶内部監査

法令および社内規程等の諸基準への準拠性、管理の妥当性・有効性の検証を目的とした内部監査を実施しており、経営の合理化、業務の改善、効率性の向上および事業の健全な発展のための提言を行っています。

内部監査の独立性・客観性を保持するため監査部は社長直轄の組織としており、2020年3月末現在、31名が在籍しています。

グループ会社の常勤の監査役は、原則として監査部に所属しており、相互に連携を図ることによりグループ全体の監査体制の充実・強化に取り組んでいます。

▶内部統制システムの強化

「京王グループ内部統制システムに関する基本方針」のもと、内部統制の整備状況を確認・検証し、必要に応じた見直しを行っています。また、内部統制に関する体制を統括するため、内部統制委員会を設置しているほか、財務報告に関わる内部統制についても専任部署を設けてグループ全社で取り組んでいます。

コンプライアンス

▶基本的な考え方

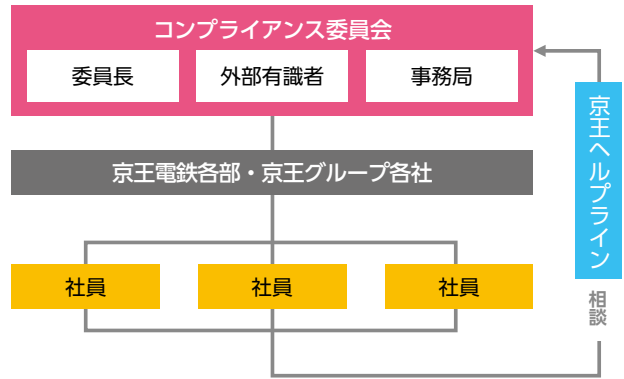
京王グループにとっての「コンプライアンス」とは、「法令遵守にとどまらず、社会の規範やルールまで含めて遵守することで、社会の期待に応える」ことであると考えています。京王グループ行動規範(P.6)を実践し、誠実な企業としてお客様や社会から一層の信頼を獲得したいと考えています。

▶コンプライアンス体制

当社では、「コンプライアンス委員会」が中心となって、グループ全体のコンプライアンス体制を推進しています。当委員会はコンプライアンス担当役員が就く委員長、外部有識者、事務局により構成され、コンプライアンスに関する各種取り組みの検証や改善策の検討等を行っています。

京王グループでは、コンプライアンス上の問題の早期発見と解決を図るため、「京王ヘルプライン」(社内窓口：当社法務・コンプライアンス部、社外窓口：弁護士事務所)を設けています。京王グループの全従業員と取引先の方が利用でき、通報内容についてコンプライアンス上の疑義があるものは速やかに調査・対応を行っています。

●コンプライアンス体制



▶コンプライアンス意識の浸透

京王グループで働く一人ひとりにコンプライアンス意識が浸透するよう、「京王グループコンプライアンスブック」を全従業員に配布しています。このほか、職位や職種に応じた研修の実施や、時事的な話題をテーマとした「コンプライアンス・トピックス」を毎月発信するなど、継続的に啓発を行っています。



京王グループコンプライアンス・ブック コンプライアンス・トピックス

2019年度は、2018年度に判明した京王観光株式会社の一部支店における不正行為を踏まえ、京王ヘルプラインの周知を強化したほか、コンプライアンス意識の向上を図るため、遠隔地事業拠点においてコンプライアンス研修を実施するなど、グループ各社の役員および従業員に対する教育・啓発の取り組みを強化しました。

リスクマネジメント

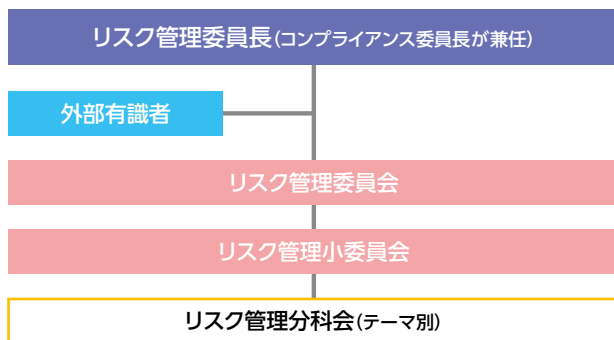
▶ 基本的な考え方

京王グループでは、「信頼のトップブランド」にふさわしい適切なリスク管理活動を実施するため、「京王グループリスク管理方針」を定め、リスクの低減および発生防止を目的とした体制を整備しています。

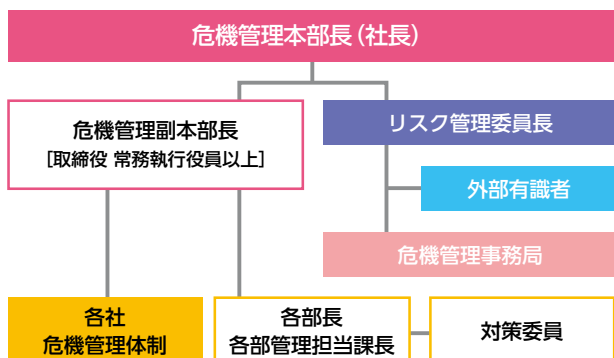
▶ リスクマネジメント体制

京王グループのリスクマネジメント体制は、平常時の体制と危機発生時の体制の2つからなっています。平常時は、コンプライアンス委員長が兼任するリスク管理委員長のもと「リスク管理委員会」を定期的開催し、リスク対策重点項目の設定や対策の実施状況の確認、リスクマネジメントに関する活動報告などを行っています。危機発生時は当社の社長を本部長とする「危機管理本部」を設置し、速やかに対応します。

● リスクマネジメント体制(平常時)



● リスクマネジメント体制(危機発生時)



▶ 災害時における事業継続への取り組み

大規模災害等のさまざまな緊急事態が発生した場合において、重要業務を中断させず、仮に中断したとしてもできるだけ早急に復旧させることを目的に、BCP(事業継続計画)を策定しています。また、「京王グループ防災ハンドブック」の配布や定期的に訓練を実施するなど、防災意識の浸透を図っています。



総合防災訓練の様子

情報セキュリティ

▶ 情報セキュリティ体制

リスク管理上の重要項目として位置づけ、個人情報を含む機密情報の取り扱いや、情報システムのBCP、セキュリティを規定した情報管理基本方針に基づき、リスク管理分科会の一つとして常設で情報セキュリティ分科会を設置しています。また、セキュリティインシデントに対応するCSIRTを設置し内外の情報を集めるとともに、発生したインシデントの対応にあたっています。

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
連結経営成績				
営業収益	403,247	391,172	390,472	396,860
営業利益	29,947	28,221	29,640	28,022
経常利益	26,264	24,576	26,437	24,538
親会社株主に帰属する当期純利益	11,976	9,276	12,433	14,748
営業収益営業利益率	7.4%	7.2%	7.6%	7.1%
総資産経常利益率 (ROA)	3.7%	3.3%	3.4%	3.1%
自己資本当期純利益率 (ROE)	4.9%	3.7%	4.9%	5.5%
EBITDA*	65,819	63,257	64,028	63,032
減価償却費	35,871	35,036	34,287	34,605
資本的支出	77,624	49,541	34,989	49,327
有利子負債*	308,748	317,762	340,182	356,366

連結財政状態				
総資産	731,728	746,979	791,640	793,293
純資産	249,521	251,405	260,549	278,834
自己資本比率	34.1%	33.7%	32.9%	35.1%

連結キャッシュ・フローの状況				
営業活動によるキャッシュ・フロー	54,663	48,630	54,370	48,711
投資活動によるキャッシュ・フロー	△91,813	△45,940	△40,976	△47,080
財務活動によるキャッシュ・フロー	20,448	4,673	15,854	11,442

配当の状況				
配当性向(連結)	30.6%	39.5%	29.5%	33.1%

* EBITDAは、連結営業利益+減価償却費+のれん償却額により算出しています。

* 有利子負債は、借入金+社債+鉄道・運輸機構未払金により算出しています。

(単位:百万円)

2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
407,985	408,039	416,254	418,996	434,697	447,508	433,669
33,073	33,845	37,758	37,976	38,537	40,078	36,024
30,244	31,390	35,066	35,285	35,728	39,281	34,684
16,197	17,248	19,468	21,168	23,897	27,213	17,875
8.1%	8.3%	9.1%	9.1%	8.9%	9.0%	8.3%
3.8%	4.0%	4.4%	4.3%	4.1%	4.4%	3.9%
5.7%	5.8%	6.3%	6.6%	7.0%	7.6%	4.8%
67,420	69,171	73,740	73,063	74,802	76,731	72,292
33,942	34,921	35,577	34,681	35,860	36,248	35,862
38,891	44,909	46,397	61,793	72,621	55,146	56,632
328,941	308,157	339,306	328,584	352,181	338,376	329,501
787,825	782,422	820,177	834,682	889,135	889,341	876,691
292,607	307,726	311,818	332,020	352,241	368,022	373,454
37.1%	39.3%	38.0%	39.7%	39.6%	41.3%	42.6%
58,772	51,858	54,247	49,440	62,713	60,620	50,157
△37,939	△32,325	△55,323	△65,908	△71,267	△47,608	△50,570
△33,158	△26,281	25,530	△16,642	17,384	△20,376	△15,611
28.3%	28.3%	26.7%	26.0%	24.3%	22.4%	35.9%

京王グループでは、CSR活動をより深化させていくために、「企業統治」「安全」「社会」「環境」における重要テーマに取り組み、中期目標とアクションを立てて推進しています。

CSR項目	重要テーマ	中期目標	2019年度実績
安全	事故等の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> ● 事故や輸送障害の未然防止に向けた施策の実行 ● テロ対策を含めた災害・危機管理 ● ホームドアの設置等によるホーム安全対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 有責事故0件、鉄道運転事故・輸送障害発生件数25件(対前年度12件減) ● 駅構内やホーム、車内、踏切への防犯カメラや監視カメラの整備を拡大 ● 飛田給駅へのホームドア設置や、仙川駅、分倍河原駅、橋本駅へのホーム固定柵の設置を実施 ● 警察・消防と連携したテロ対応訓練やサイバー攻撃対処訓練を実施
	減災対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 耐震補強や自然災害対策等の減災対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新宿トンネルの耐震補強工事および高架橋、盛土区間の耐震補強工事を実施 ● 高尾線において、大雨による土砂災害の防止対策として法面防護工事を実施 ● 雷害対策として、防雷設備の増設を実施 ● 強風対策として、防風柵の設置を実施
	安全対策・老朽化対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進 ● 下北沢駅改良工事の推進 ● 老朽設備の着実な更新による保安度の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進(用地取得や高架橋構築工事) ● 経年劣化した電気設備・車両設備の定期的な老朽更新を実施
社会	お客様の利便性・快適性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅施設・車両設備の整備 ● 改良によるお客様サービスの向上 ● 沿線活性化への取り組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新線新宿駅、飛田給駅、仙川駅のリニューアル工事を実施 ● 京王線8000系3編成、井の頭線1000系3編成のリニューアル工事を実施 ● 駅および車内における異常時を含めた情報提供の外国語対応強化
	お客様との対話	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々なお客様にとってわかりやすい情報の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王ホームページリニューアルの推進
	多世代が生活しやすい沿線づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者事業・生活支援事業・子育て支援事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業主導型保育所京王キッズプラッツ多摩センター開設
	地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化・教育・子育て支援イベント・スポーツ振興支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王アカデミープログラムや各種イベントの継続実施 ● 各種スポーツイベントへの協賛を継続実施
	地域社会・行政との連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王沿線および中央道高速バスエリアの関係自治体や事業者と連携した地域活性化への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高速バスフリーきっぷの販路拡大を継続実施 ● 高速バスを活用した貨客混載事業の継続実施 ● 新宿の観光案内所を活用したイベント開催等による観光情報の提供を継続実施
	人材の活用と働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性活躍推進(管理職における女性比率を2021年度末までに2016年4月比で5割増) ● 障がい者雇用の推進・職場環境の整備推進 ● ワーク・ライフ・バランスの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公正な管理職登用を実施し女性の活躍を推進(女性の課長級以上の管理職人数 2018年度16名→2019年度20名) ● 2020年度総合職新卒採用人数のうち女性の占める割合41.4% ● 障がい者雇用率2.55% ● 半休・フレックスタイム制度の拡充 ● 心と身体の健康増進施策(禁煙外来・カウンセリング)
	株主・投資家・取引先等への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 株主・投資家・取引先等に分かりやすい情報開示の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 適時適切な情報開示、株主・投資家との対話を継続実施
環境	低炭素社会を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ● 車両の省エネルギー化 ● 駅やビルなどの省エネルギー化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 京王線8000系3編成、井の頭線1000系3編成のVVVFインバータ制御装置を省エネ型に更新 ● 車両や駅構内の照明のLED化を実施
	自然共生社会を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境保全活動・環境教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高尾山エリアでの育樹活動および多摩川河川敷での外来植物駆除活動の継続実施 ● 各種環境教育プログラムの継続実施
企業統治	コーポレート・ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ● コーポレート・ガバナンスの強化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 取締役会の実効性を向上させるため、社外役員へのさらなる情報提供の充実 ● ガバナンス体制の変更にに向けた検討 ● ESG、SDGsの取り組み推進
	コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンス意識浸透策の実施、法改正等への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 階層別研修やeラーニング等による従業員教育、コンプライアンス・トピックス等による各種啓発活動の実施 ● 遠隔地の事業所等へのコンプライアンス教育の実施 ● 法令改正情報の周知・適切な対応策の実施
	リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ共通リスク対策重点項目等への対策・啓発活動の推進 ● 事業継続計画(BCP)の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ共通リスク対策重点項目の策定および対応策の検討、実施 ● 不正行為防止に向けた情報共有の実施 ● グループ防災情報連絡会議の開催(災害対策・テロ対策の取り組みについて情報を共有) ● ラグビーワールドカップ開催に向け、「テロ対策に関する」リスク対応分科会を開催 ● 新型コロナウイルス感染症拡大に備え、新型インフルエンザ等対策総本部を設置
	情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティリスク対策等のIT統制の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティガイドライン等の整備、PDCAサイクルの確立 ● グループ内公開ウェブサーバのセキュリティ統制強化 ● リスクアセスメントに基づく課題の解消

SDGsへの取り組み

SDGs(Sustainable Development Goals)は、持続可能な世界を実現するために、2015年に国連で採択された2030年に向けた開発目標です。京王グループは、この持続可能な開発目標の考え方を取り入れ、事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献していくことを目指します。

2020年度のアクションプラン	関連するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> ●安全目標[有責事故ゼロと鉄道運転事故・輸送障害発生件数の前年度比削減]の達成 ●駅構内やホーム、車内、踏切への防犯カメラや監視カメラの整備を拡大 ●飛田給駅へのホームドア設置を継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●新宿トンネルの耐震補強工事および高架橋、盛土区間の耐震補強工事を継続実施 ●高尾線において、大雨による土砂災害の防止対策として、法面防護工事を実施 ●雷害対策として、防雷設備の増設を継続実施 ●強風対策として、防風柵の設置を継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進(用地取得や高架橋構築工事) ●経年劣化した電気設備・車両設備の定期的な老朽更新を実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●新線新宿駅、仙川駅、府中駅のリニューアル工事を継続実施 ●京王線8000系2編成、井の頭線1000系2編成のリニューアル工事を実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●京王ホームページリニューアルの推進 	
<ul style="list-style-type: none"> ●家事代行・移動販売等の利用促進 ●京王アカデミープログラムの継続実施 ●貨客混載事業等を活用した中部地方の地域産業支援 ●新宿の観光案内所を活用した中部地方への観光誘客支援 	
<ul style="list-style-type: none"> ●女性総合職新卒採用人数を総合職新卒採用人数の30%以上となるよう2021年度卒の採用活動を実施 ●障がい者雇用の継続促進 ●育児や介護を理由とした在宅勤務制度や不妊治療のための休職制度等、仕事との両立支援制度の整備 ●確定給付年金から確定拠出年金への移行と、それに伴う資産形成支援策の整備 ●介護相談窓口の新設 	
<ul style="list-style-type: none"> ●適時適切な情報開示、株主・投資家との対話を継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●京王線8000系3編成、井の頭線1000系2編成のVVVFインバータ制御装置を省エネ型に更新 ●車両や駅構内等の照明のLED化を継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●高尾山エリアでの育樹活動および多摩川河川敷での外来植物駆除活動の継続実施 ●各種環境教育プログラムの継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●監査等委員会設置会社への移行、執行役員制度の導入ならびに役員報酬制度の改定 ●取締役会付議事項および付議方法の見直しによる取締役会の実効性向上 ●ESG、SDGsの取り組み推進 	
<ul style="list-style-type: none"> ●コンプライアンス意識浸透策、法令改正への対応等の継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ●グループ共通リスク対策重点項目等への対応の継続実施 ●大規模災害に関するBCPの見直し ●新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた新型インフルエンザ等に関するBCPの見直し ●セキュリティガイドライン等整備の継続実施、PDCAサイクルの確立 ●グループ内公開ウェブサーバのセキュリティ統制強化の継続実施 ●リスクアセスメントに基づく課題点解消の継続実施 	

ISO26000対照表

中核主題	課題	CSRレポート2020掲載ページ
組織統治	組織統治	P.2-P.5 トップメッセージ P.6-P.7 経営計画 P.94-P.97 コーポレート・ガバナンス
	デューデリジエンス 人権に関する危機的状況 加担の回避 苦情解決	
人権	差別及び社会的弱者 市民的及び政治的権利 経済的、社会的及び文化的権利 労働における基本的原則及び権利	P.72-P.74 人材の活用と働きやすい職場づくり
	雇用及び雇用関係 労働条件及び社会的保護	
	社会対話 労働における安全衛生 職場における人材育成及び訓練	P.32-P.33 人材の育成 P.72-P.74 人材の活用と働きやすい職場づくり
	汚染の予防 持続可能な資源の利用 気候変動緩和及び適応 環境保護、生物多様性及び自然生息地の回復	P.80-P.81 環境マネジメント P.82-P.85 低炭素社会を目指して P.86-P.87 循環型社会を目指して P.88-P.89 自然共生社会を目指して P.90-P.91 環境関連データ
公正な事業慣行	汚職防止 責任ある政治的関与 公正な競争 バリューチェーンにおける社会的責任の推進 財産権の尊重	P.75 株主・投資家・取引先等への取り組み P.94-P.97 コーポレート・ガバナンス
	公正なマーケティング、情報及び契約慣行	
	消費者の安全衛生の保護	P.18-P.21 特集 感染症に対する取り組み P.25 安全方針・安全管理体制 P.26-P.27 安全管理方法 P.28-P.29 安全目標・安全重点施策 P.34-P.35 安全文化の構築 P.36-P.37 危機に備えた訓練 P.38-P.47 施設・設備の取り組み P.48-P.49 日々の保守管理 P.50-P.51 災害などへの備え P.52-P.53 その他の取り組み P.54-P.55 グループ会社の安全対策 P.60-P.63 お客様の利便性・快適性の向上 P.64-P.65 お客様との対話 P.66-P.67 多世代が生活しやすい沿線づくり P.75 株主・投資家・取引先等への取り組み P.94-P.97 コーポレート・ガバナンス
消費者課題	持続可能な消費	
	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決 消費者データ保護及びプライバシー 必要不可欠なサービスへのアクセス	
	教育及び意識向上	
コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	コミュニティへの参画 教育及び文化 雇用創出及び技能開発 技術の開発及び技術へのアクセス 富及び所得の創出 健康 社会的投資	P.60-P.63 お客様の利便性・快適性の向上 P.66-P.67 多世代が生活しやすい沿線づくり P.68-P.71 地域社会への貢献

※ GRI対照表については京王HPで公開します。

会社概要 (2020年4月1日時点)

社名	京王電鉄株式会社
会社設立	1948年6月1日
本社所在地	〒206-8502 東京都多摩市関戸一丁目9番地1 (登記上の本店所在地 〒160-0022 東京都新宿区新宿三丁目1番24号)
資本金	590億23百万円
従業員数	2,547名
営業内容	【鉄道事業】 路線 京王線、高尾線、相模原線、 競馬場線、動物園線、井の頭線 駅数 69駅 営業キロ 84.7km 輸送人員 年間6億7,256万人(2019年度実績) 車両数 877両
	【開発事業(土地、建物の賃貸業・販売業など)】 新規賃貸資産の開発 賃貸資産の管理・営業 ショッピングセンターの管理・運営 住宅地などの販売
グループ会社数	全57社

役員一覧 (2020年6月26日時点)



代表取締役会長
永田 正



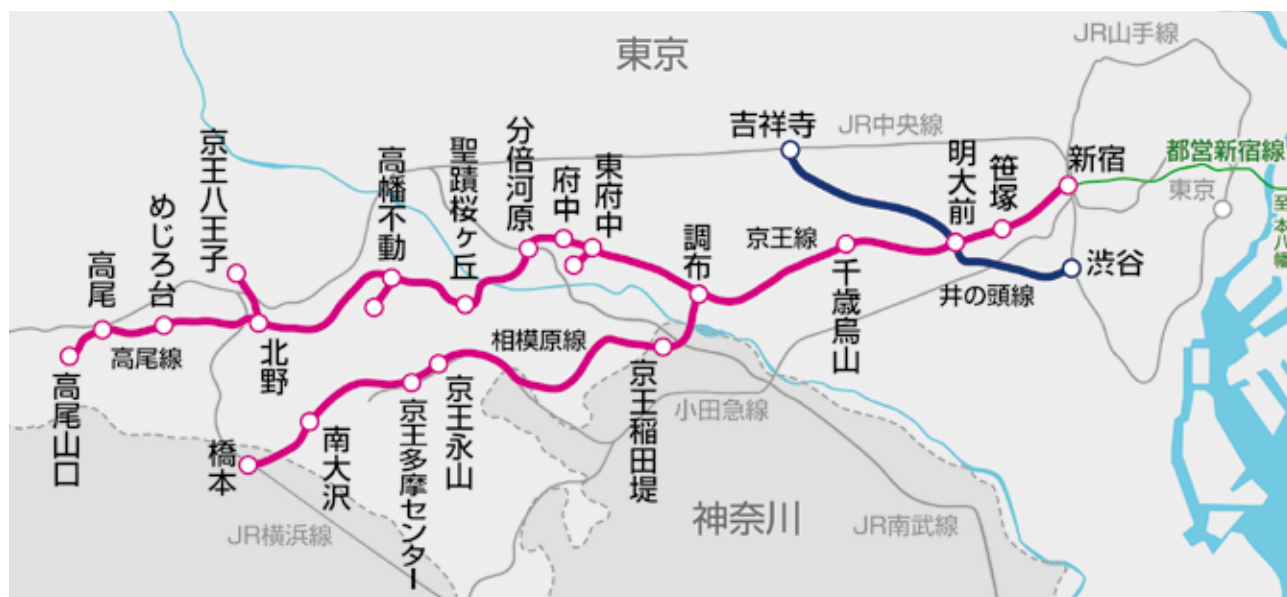
代表取締役社長
社長執行役員
紅村 康

取締役 専務執行役員 (戦略推進本部長 海外戦略部長 新宿再開発推進室 分担 経営統括本部 経営企画部 企画戦略室 分担)	仲岡 一紀
取締役 常務執行役員(開発事業本部長)	川瀬 明伸
取締役 常務執行役員 (経営統括本部長 総務・危機管理部、法務・コンプライアンス部、広報部、人事部 分担 財務・情報開示 担当 コンプライアンス 担当)	南 佳孝
取締役 常務執行役員(鉄道事業本部長)	寺田雄一郎
取締役 高橋 温	執行役員 (鉄道事業本部 副本部長 安全推進部長)
取締役 古市 健	執行役員 (経営統括本部 経営企画部長)
取締役 駒田 一郎	執行役員(人事部長)
取締役 丸山 荘	執行役員 (開発事業本部 開発企画部長)
取締役 若林 克昌	執行役員
取締役 監査等委員(常勤) (監査等委員会委員長)	伊藤 俊司
取締役 監査等委員(常勤)	竹川 浩史
取締役 監査等委員	北村 敬子
取締役 監査等委員	金子 正志

京王グループ会社一覧 (2020年7月31日時点)



京王電鉄路線図



株主の状況

当社の2020年3月31日現在の株主数は32,214名です。
 全体の約7割が、当社沿線に在住されている個人株主です。

● 株式の状況

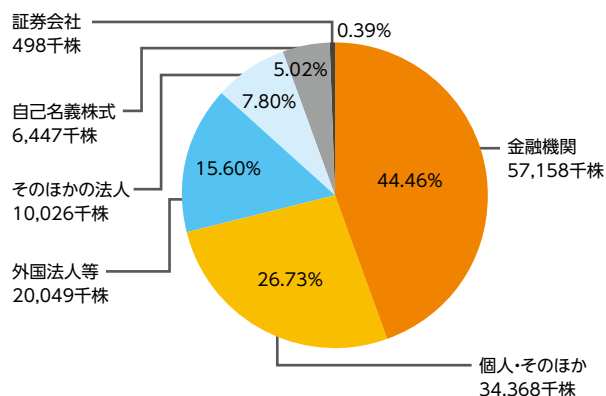
発行可能株式総数	316,046,000株
発行済株式総数	128,550,830株
株主数	32,214名

● 株主総会

2020年6月26日に京王プラザホテル八王子にて第99期定時株主総会を開催し、267人の株主様に出席いただきました。

当日は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、2019年度の事業の経過や業績についてわかりやすくお伝えするよう努めました。

● 株式分布状況(2020年3月31日現在)



当社は、以下のサステナビリティ/ESG指数の構成銘柄に選定されています。

2020

Sompo Sustainability Index

2020 CONSTITUENT MSCI ジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI ジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

SNAMサステナビリティ・インデックス

MSCI ジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

第三者意見

全体を通して、「つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、『信頼のトップブランド』になることを目指します」という京王グループの理念が反映された良いレポートだと思います。現場の写真やステークホルダーの生の声が数多く掲載されており、CSRコミュニケーションの点でも優れた報告書となっています。

トップメッセージにあるように、現在、京王グループに求められているのは、ポストコロナに向けた様々な変化に対応した事業戦略を立案し、2030年代の事業環境においても持続可能な企業であり続けることです。同時に、引き続き、ESG(環境・社会・ガバナンス)やSDGs(持続可能な開発目標)への取り組みを通じて企業価値を向上させることも重要であり、次期中期経営計画は、その両方に目配りしたものとなることでしょう。今回のレポートでは、特集記事として、京王グループのSDGsへの取り組みが掲載されています。一昨年のレポートで初めて掲載されたSDGsの「17の目標」が、昨年のレポートでは「安全報告」「社会性報告」「環境報告」の各パート・カテゴリーと紐付けられ、今年のレポートでは、さらに具体的な京王グループの個々の事業活動と結びつけられているのが特徴です。すなわち、京王グループは、本業を通じて社会の持続的な発展に貢献している企業だと言えるでしょう。本業を通じたCSRは信頼性が高くなります。まずは、この点を高く評価したいと思います。

安全報告のパートでは、「『安全』は最大の使命であり、最高のサービスである」という方針に基づき、お客様に「安全・安心」を提供するための様々な取り組みが報告されています。2019年度も笹塚駅～仙川駅間の連続立体交差事業は順調に進み、高架化のための準備工事が行われました。また、ホームドアや転落防止固定柵の新設等の安全対策も着実に推進されたようです。この一年間の京王グループの安全活動で特徴的なのは、台風などの異常気象への対応と、新型コロナウイルス感染防止対策です。いずれも、まさに目の前に突然現れた変化ですが、今後少なくとも数年間は、これらに柔軟かつ確実に対応することが「輸送の安全性」という、運輸事業者にとって重要な社会的使命を果たすために重要となるでしょう。京王グループでは、予測タイムラインによる計画運休や早期運転再開に向けた点検手法の確立などを通じて異常気象に大変積極的に取り組んでいます。また、手指や車両の消毒の徹底や窓開け・空調使用による車両の換気など、感染防止対策にも真摯に取り組んでおり、この点を高く評価したいと思います。

社会性報告のパートでは、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり」を目指す京王グループの取り組みが描かれています。京王電鉄は、2019年7～8月と2020年1月に、時差通勤を目的に「京王ライナー 時差Biz号」を運行

立教大学経営学部
教授／経済学博士

高岡 美佳



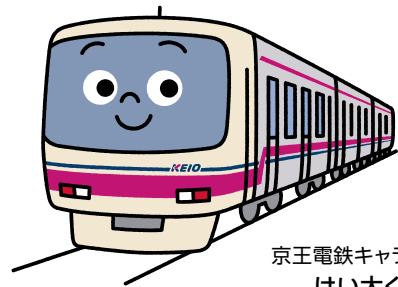
し、2020年2月のダイヤ改正時に同じく時差通勤を目的として京王ライナーの増発を実施しました。一昨年に京王プラザホテル多摩にオープンした会員制サテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」でのテレワーク推進の取り組みと合わせて、東京都から「スムーズBiz推進大賞推進賞」を受賞したことは、京王グループの先見の明だと考えられます。それ以外にも、京王自動車は、2020年6月から11月までの期間限定で青梅市内のお客様の買い物付き添いや買い物代行サービスを行う「京王すまいるサポートタクシー」を運行しており、京王グループは、沿線住民や地域のニーズを的確にとらえてサポートする試みを常に行っています。京王グループの社会的責任意識の高さを評価したいと思います。なお、グループ内の人材活用と働きやすい職場づくりについては、2020年度に不妊治療のための休職制度を導入するなど、ライフステージに応じた両立支援が一層拡充しました。管理職に占める女性比率も10.0%と上昇し、多様な人材が活躍できる職場づくりが整備されているように見受けられます。

環境報告のパートでは、京王グループの多角的な環境活動が紹介されています。今年度は、2019年9月に築29年の複合ビルをリノベーションして「KIRO 広島 by THE SHARE HOTELS」をオープン、同年11月に岩手県宮古市において太陽光発電事業を開始するなど、多彩な環境保全活動が展開されました。また、2019年度は、鉄道事業部門と開発事業部門において、前年度と比べて電力使用量／CO₂排出量が減少したほか、両部門における廃棄物排出量も前年を下回りました。新型VVVFインバータ制御装置への順次切り替え、車内照明のLED化といった鉄道事業部門の取り組みに加えて、開発事業部門におけるリノベーション事業の推進など、環境負荷が低い鉄道事業を中心に営む企業グループであるにもかかわらず、低炭素社会や循環型社会の実現を目指して熱意をもって環境活動を推進する京王グループを高く評価したいと思います。すでに高いレベルに達している京王グループの環境対策ではありますが、引き続き力を注いでいただきたいと思います。



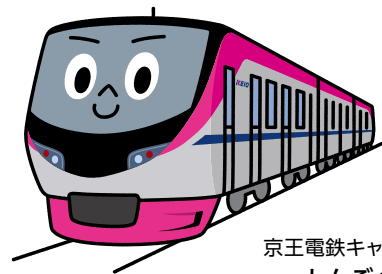
この安全・社会・環境報告書の用紙は、FSC®が定める責任ある森林管理の原則に基づき認証された森林からの原材料とその他管理された原材料から作られたFSC®認証紙を使用しています。

また、日本印刷産業連合会が認定する工場のもと、有害な溶剤を含まないNon-VOCインキを使用しているほか、揮発性有機溶剤を含む湿し水を使用しない、地球環境に配慮した水なし印刷方式で作成されています。



京王電鉄キャラクター
けい太くん

なお、本レポートの原材料調達からリサイクルされるまでのライフサイクル全体で発生する温室効果ガスをCO₂の量に換算した数値は、1冊あたり2,200gになります。



京王電鉄キャラクター
しんごくん

京王電鉄株式会社

〒206-8502

東京都多摩市関戸一丁目9番地1

安全・社会・環境報告書に関するお問い合わせ

広報部 企画・環境担当

Tel. 042-337-3106

Fax. 042-337-5536

www.keio.co.jp

2020年9月発行